

平成22年度

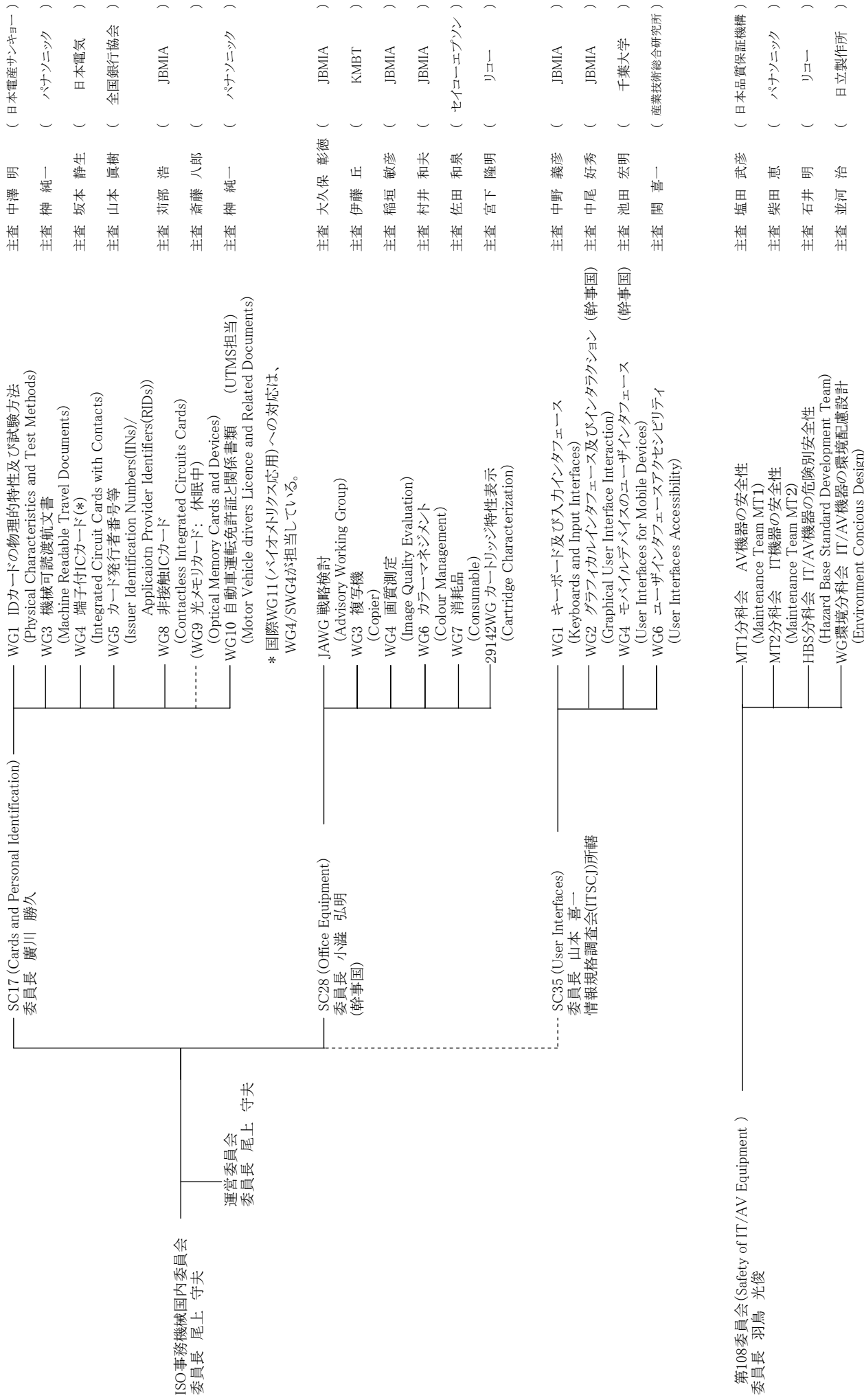
国際標準化活動報告

平成23年3月31日

(社) ビジネス機械・情報システム産業協会 (JBMIA)
・ ISO事務機械国内委員会
・ 第108委員会

国内委員会組織図

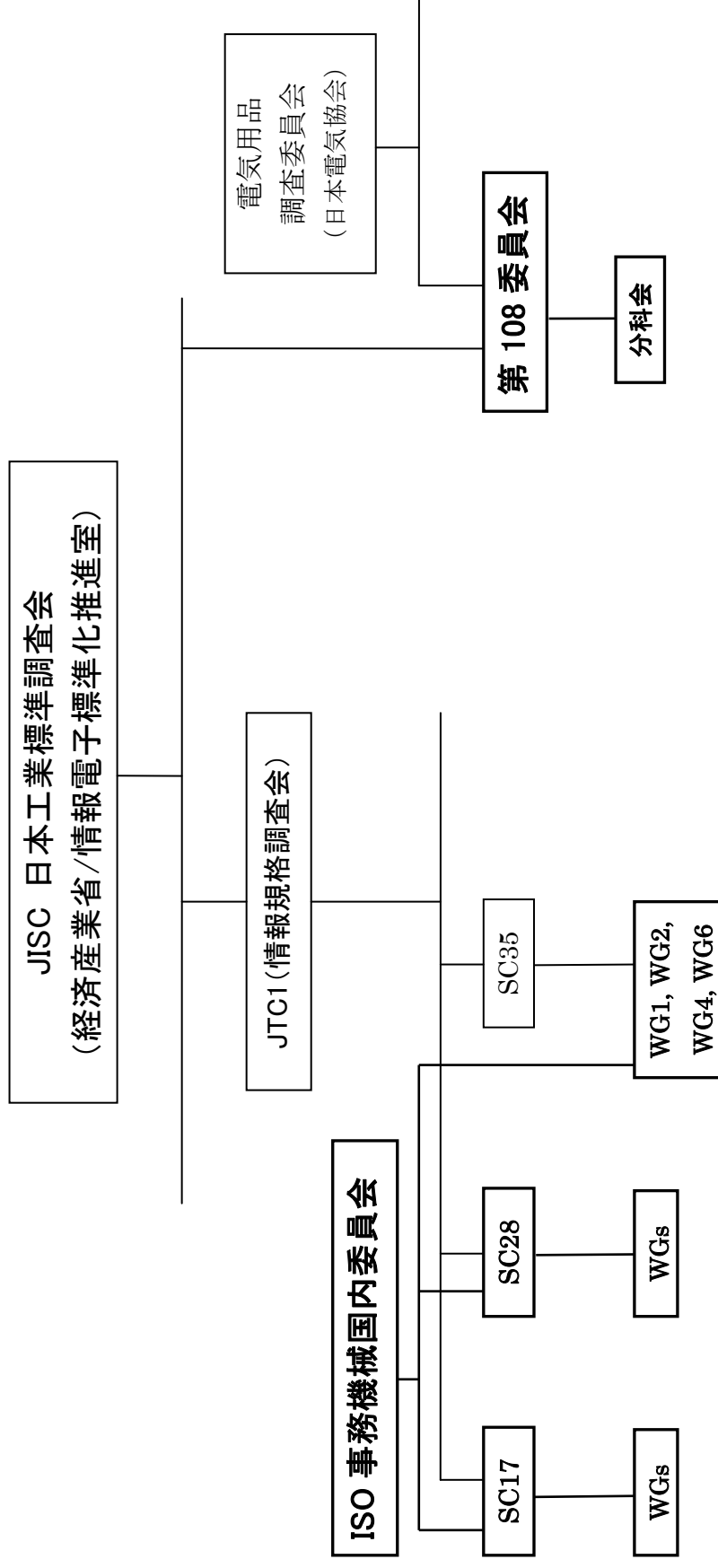
平成23年3月31日現在



* 国際WG11 (バイオメトリクス応用) への対応は、WG4/SWG4が担当している。

(参考)

「ISO 事務機械国内委員会」「第108委員会」の位置付け － 外部組織及び JBMIA との関係－



凡例：
太字

JBMIA が事務局

組織名(事務局)

外部組織

目 次

1.	ISO 事務機械国内委員会・同運営委員会 委員長 尾上 守夫	1
1-1	活動概況.....	1
1-2	今後の主要課題.....	3
1-3	SC 17 (カード及び個人識別) 委員長 廣川 勝久.....	5
1-4	SC 28 (事務機械) 委員長 小澁 弘明	22
1-5	SC 35 (ユーザインタフェースインタラクション) 委員長 山本 喜一	41
2.	第 108 委員会活動結果報告書.....	53
	参考資料	62

1. ISO 事務機械国内委員会・同運営委員会

委員長 尾上 守夫

1-1 活動概況

(1) 総会および運営委員会

総会 1 回（平成22年5月）、運営委員会 2 回（平成22年4月、12月）を実施した。

(2) 国際標準化活動

国際標準化活動において積極的に国際貢献を果たした。

1) 国際会議委員派遣

56の国際会議に、延べ242名の委員を派遣した。

2) 国際規格投票

以下の国際規格投票に対し回答原案を作成し、またISが発行となった。

	NP	CD /PDAM /PDTR:	FCD /FPDAM	DIS /DAM	FDIS /FDAM	Systematic Review	IS発行 /TR発行
SC17	6	13	15	0	11	7	10
SC28	0	5	3	0	2	1	1
SC35	10	4	2	0	1	5	2
合計	16	22	20	0	14	13	13

(3) 予算・決算

平成21年度決算、平成22年度予算の承認および平成23年度予算案の作成を行った。

(4) 各SCの活動

1) SC17

今年度の特記事項として、10月6日から8日の間、JTC 1/SC 17 総会を高松市サンポート地区のかがわ国際会議場で開催した。また、SC17傘下のWG (WG1、WG3、WG4、WG5、WG8、WG10 および WG11) 国際会議を隣接するサンポートホール高松の会議場で、前週の9月27日から10月6日の間開催した。参加者は、延べ107名（内、国外から74名）であった。

SC17においては、国際規格投票の件数も多く（年間52件）、国際会議に積極的に参加し、活発な活動を行っている。更に、国際役職として、WG3/TF4 コンビナ、WG10 セクレタリ、WG4 および WG8 のプロジェクトエディタ、SC17 総会決議案起草委員を務め、わが国のこの分野における貢献度の向上に引き続き努めている。わが国が目指す産業競争力強化の一環として、また、重点TCのひとつとして各種カードの要素技術から利用システムに関わる提案を行ってきた。アクセシビリティに関連する日本提案の規格として、ETA (Enhanced Terminal Accessibility : カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上) が2008年10月にNW1として承認され、ISO/IEC 12905として標準化が進められている。

また、平成20年度および平成22年度にSC17国内委員会の直下に設置された各サブWGで、積極的な活動を進めている。

SC17/SWG A (主査 谷内田 益義氏) では、国際WG1案件であるISO/IEC 24789 (カード

サービスマイフ：用途別の耐久性を評価するための方法) シリーズへの対応のため、メーカーのみでなくユーザ団体の意見も反映するための体制を強化し、この活動に基づく寄書等によって国際貢献をしている。

平成22年度に新設したSC17/SWG C (主査 稲田 真弓氏) では、カード及び個人識別の分野における「カード新技術に関する中長期国際標準化構想の検討と具体化推進」及び「カード新技術の一部としてのNP Electronic displays in IC cards への対応」を主要課題とし、SC17 共通テーマ・複数 WG 横断テーマについて、日本として一貫性のある対応及び新規提案を可能とするよう関係 WG と連携して検討及び提案を行う。また、これらの活動を通じて、参画委員・その所属組織・関係組織以外をも含めた日本にとってのメリット創出と国際貢献を図る。

2) SC28

SC28は、6月にロチェスター市 (米国ニューヨーク州) で7カ国約30名の参加人数を数え、総会を開催した。本年の総会は、新任の国際幹事である富士ゼロックス杉山氏の元で、前任の元リコー熊倉氏の助言、再任の斎藤議長との連携により、円滑な運営が行われた。また、これまでの標準化活動への貢献により、コニカミノルタの伊藤丘委員が米国の二人とともに、ITTF (ISO/IEC Information Technology Task Force) から表彰された。事務機械分野は、国際的にも日本が競争力を確保している分野であり、今後も継続的な標準化活動への貢献を期待する。

本年度承認された国際標準は、WG3 (生産性) の元で検討を進めてきた”ISO/IEC 29183(Method for measuring digital copying productivity of a signal one-sided original)”である。その他の活動も、国際標準の発行までには至らなかったが、AWG(Advisory Working Group)やWG5 (オフィスカラー) については、日本が主導的な立場を確保しながら、積極的に標準化活動を実施している。

また、“カートリッジ特性”を包括的に規定するISO/IEC 29142については、製品の競争力に大きく影響する規格となる可能性があり、プロジェクトを構成する5パート全てに、日本からコ・エディタを配し、慎重に規格検討を進めている。

3) SC35

SC35においては、WG (WG1, 2(7含む), 4, 6) の審議はJBMIA、SC35 (WG5, 8含む) の案件審議は情報処理学会という役割分担であるが、実質的な審議はJBMIA内で開催するWGとの合同委員会において行われている。平成22年度は、特に日本提案の4件 (①アクセシビリティに関する規格、②4方向キーに関する規格、③アイコンデータベースに関する規格、④音声コマンドに関する規格) の審議の為、WG1,WG2,WG4,WG6関連の委員及び関係者が国際会議 (ベニス及びベルビュー) に多数出席するとともに、実質的な国際規格原案の作成を行うなど活発な活動が行われた。

(5) JIS化作業

次のJIS原案作成活動を行った。

- ・ JIS X 9303-5:2010 (ユーザシステムインターフェース及びシンボルアイコン及び機能—第5部：ツールアイコン) : 制定
- ・ JIS X 6936:2011 (オゾン、揮発性有機化合物及び粉じんの放散速度測定方法) : 改正
- ・ JIS X 6195: 2011 予定 (情報処理用連続伝票) : 改正 (意見受付公告中)
- ・ JIS X 6302-6:2011 予定 (識別カード—記録媒体—第6部: 磁気ストライプ—高保磁力) : 改正 (意見受付公告中)
- ・ JIS X 6939:2011 予定 (情報機器—事務機器—複写生産性測定方法) : 制定 (意見受付公告)

中)

- JIS X 6940:2011 予定 (情報機器—事務機器—プリンタ及び複合機の生産性測定方法) : 制定 (意見受付公告中)
- JIS X 8341-7:2011 予定 (高齢者・障害者等配慮設計指針—情報通信における機器、ソフトウェア及びサービス—第7部: アクセシビリティ設定) : 制定 (意見受付公告中)

(6) 表彰

表彰規定により以下の各氏を表彰した。

片本浩司氏(シャープ)、白沢寿夫氏(リコー)、佐田和泉氏(セイコーエプソン)、早川均氏(セイコーエプソン)、中野義彦氏(JBMIA)、金子良明氏(富士通)、白井信昭氏(PFU)、西沢輝氏(京セラミタ)、寄本義一氏(凸版印刷)、井出野敦弘氏(全国銀行協会)

1-2 今後の主要課題

(1) 引き続きJTC 1/SC 28 幹事国業務、各SC、WG国際役職者の活動を全面的に支援する。

(2) 各SC、WGの規格審議を支援する。

- 経済産業省平成23年度国際標準開発事業の受託
 - ① カードシステム端末利用におけるアクセシビリティの向上 (SC17、継続)
 - ② カード耐久性評価基準の国際規格化 (SC17、新規)
- 経済産業省平成23年度工業標準化推進事業の受託
 - ① 携帯用情報機器の4方向キーインタラクションに関する標準化 (SC35、新規)
 - ② 情報機器における音声命令の標準化 (SC35、新規)
 - ③ パーソナルコンピュータ (ハードウェア) のアクセシビリティ対応の標準化 (SC35、新規)
- 国際会議への積極参加
延べ180名の派遣を予定

(3) 次のJIS化作業を行う。

- JIS B 9527:2004 (事務機器—ページプリンタの仕様書様式) : 改正 → JSA 規格調整分科会のコメントにより原案を修正。再提出原案を、原案作成委員会へ審議依頼中。
- JIS X 6911:2003 (データプロジェクタの仕様書様式) : 改正 → JSA 規格調整分科会のコメントにより、ISO/IEC 21118 を優先して改正活動中。目途がついた段階で、JIS 改正を再度行う。
- JIS X 6934:2002 (情報機器—事務機器—複写生産性を測定する方法) : 廃止 → JIS X 6939:2011 (予定) の制定に伴う廃止
- 識別カード—記録媒体—第9部: 触覚識別記号 (ISO/IEC 7811-9:2008 IDT) : 制定
また、次の国際規格のJIS化を、平成23年度原案作成活公募(後期)に応募の候補として検討中。
但し、委員活動の重複による工数集中を避ける面から、対象を絞る可能性もある。
- ISO/IEC 7810:2003/Amd 1:2009 → JIS X 6301 (識別カード—物理的特性) 改正
- ISO/IEC 7810:2003/DAM2 (間に合えば同時に) → (同上)
- ISO/IEC 10373-2:Cor 1:2010 → JIS X 6305-2 (識別カードの試験方法—第2部: 磁気ストライプ付きカード) 改正

- ・ ISO/IEC 12905 (ETA) (FDIS 投票待ち) : 制定
- (4) JBMIA 法人改革に的確な対応をする。
- ・ 平成24年度以降のJKA補助金獲得に向けて準備を進める
 - ・ 情報インフラの更新を進める

(1) 活動概況 (SC 17 全般及び高松総会)

ISO/IEC JTC1/SC17 は、カードと個人識別を対象とし、各種カードの要素技術から利用システム (クレジット・IC 旅券・運転免許証等) までを含む国際互換性に関する標準化と登録管理を担当している。SC17 国内委員会には、国際 WG (WG1~WG11) に対応する国内 WG に加えて、WG 間及び国内関係機関との連携強化を図るためのサブ WG を SC17 の直下または WG に設置している。SC17 とこれらの WG 及びサブ WG は単独または共同で、更に、関係委員会・関係機関と連携して国際標準化を推進している。

後述の国際役職貢献とともに国際貢献の一環として、林 義昭幹事長原案・谷内田 益義副委員長英文原案・SC17 運営委員会監修の日本国ナショナルレポートを SC17 総会に提出した。本年度は、

- ・非接触 IC カードを用いた政府機関職員証システム
- ・交通系電子マネーの普及

を紹介した。引続き日本意見の反映を優先課題とし、国際会議派遣旅費の支出削減を行うよう運営しつつも後継者育成の機会創出も意識し、SC17 総会と各 WG 国際会議、TF 国際会議及び SC 間・WG 間合同国際会議に委員が積極的に出席し、国際規格の制定活動に貢献した。

第 23 回 SC17 総会は高松 (日本) で開催され、わが国からは後述の 15 名が出席した。

本年度も、日本提案の NWI について国内外関係機関と連携して推進に努めるとともに、IC 旅券・運転免許証に関する標準化活動を主導している。

WG3/TF4 (IC 旅券の試験方法) では榊 純一氏が引続き国際コンビナを務め、IC 旅券に関する国際互換性確保のための活動を推進している。また、WG10 (自動車運転免許証と関係書類) では榊 純一氏が国際セクレタリを務め、運転免許証に関する国際標準化を推進している。

WG4 (IC カード) では APDU (Application Protocol Data Unit) 及びデータ形式を規定する重要なパートである ISO/IEC 7816-4 の修正審議を進めており、数多くの追加・拡張のため 2 度目の CD 投票を行ったところである。また、ISO/IEC 24727 (IC カード・プログラミング・インタフェース) シリーズの策定は一通り終了し、実用化へ向けて重要になる試験規格の審議に移行している。日本は将来の発展を阻害せず応用の広がり担保できるようにとの観点から継続して参加しており、これら規格に対して大幅な構成や内容の変更も含む積極的な検討に貢献している。

更に日本提案の ETA (Enhanced Terminal Accessibility) は 2008 年 10 月に NWI として承認され、ISO/IEC 12905 として標準化を順調に進めており、最終段階である FDIS 投票が開始された。

WG8 (非接触 IC カード) では実験データに基づく提案によって ISO/IEC 14443 シリーズの改訂に貢献している。

また、次節に示すようにカードの用途別耐久性評価に関する検討及び非接触 IC カード関連のハーモナイゼーションでの活動を継続している。

(2) 国内委員会体制の特記事項

SC17 国内委員会の木澤 誠顧問 (初代国内委員長) が昨年 11 月に逝去されました。国際 SC17 における日本の地位を築かれるとともに我々後進をご指導頂き、2009 年 10 月の北京総会まで毎年の日本国ナショナルレポートを監修頂きました。ここに生前のご功績とご指導に感謝しご冥福をお祈りします。

2010年6月末で井出野 敦弘氏が国内 WG5（発行者識別番号とその登録管理）の主査を退任し、後任に山本 真樹氏が就任した。ここに国内 SC17 及び WG5 で多大な貢献をされた井出野氏の功績に感謝を表します。

SC17 国内委員会体制のうち、国際 WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）案件に関しては、平成 18 年度の体制見直しの結果に基づきサブ WG（WG4/SWG4、主査 坂本 静生氏）を国際 WG4 案件である ISO/IEC 7816-11（IC カードー第 11 部：生体認証手法を用いた個人照合）及び国際 WG11 案件への対応国内体制と位置付け両 WG の連携を強化している。

更に、平成 20 年度に SC17 国内委員会の直下に設置された二つのサブ WG と平成 22 年度に新設された一つのサブ WG が活動している。

- ・国際 WG1 案件である ISO/IEC 24789（カードサービスライフ）シリーズ（用途別の耐久性を評価するための方法）への対応のためのサブ WG（SC17/SWG A、主査 谷内田 益義氏）では、メーカーのみでなくユーザ団体の意見も反映するための体制を強化し、この活動に基づく寄書等によって国際貢献をしている。

- ・国際 WG8 案件である ISO/IEC 14443（近接型非接触 IC カード）シリーズと NFC（Near Field Communication 近距離無線通信）シリーズ（担当:JTC1/SC6）とのハーモナイゼーションへの対応のためのサブ WG（SC17/SWG B、主査 荻部 浩氏）では、国内 WG8 委員に国内 SC17 の関係委員も加えて応用システム面からの意見も反映するとともに国内 SC6 のエキスパートとも連携し、この活動に基づく寄書等によって国際貢献をしてきた。現在は JTC1/SC6/WG1 とのリエゾン関係を通じて NFC シリーズの改訂に協力している。

- ・平成 22 年度には、カード新技術への対応を目的とするサブ WG（SC17/SWG C、主査 稲田 真弓氏）を新設した。このサブ WG は、カード及び個人識別の分野における「カード新技術に関する中長期国際標準化構想の検討と具体化推進」及び「カード新技術の一部としての NP Electronic displays in IC cards への対応」を主要課題とし、SC17 共通テーマ・複数 WG 横断テーマについて、日本として一貫性のある対応及び新規提案を可能とするよう関係 WG と連携して検討及び提案を行う。また、これらの活動を通じて、参画委員・その所属組織・関係組織以外をも含めた日本にとってのメリット創出と国際貢献を図る。

なお、上記以外で対応国内委員会を設置していない国際 WG7（金融取引カード）案件、対応国内委員会が休会中の国際 WG9（光メモリカード）案件及び SC17 共通事項への対応案は SC17 国内運営委員会で策定している。

また、SC17 国内委員会会議・同運営委員会会議の年間開催予定を技術委員会（JTC1 国内委員会）に連動するよう設定することによって、各 WG での案件審議時間を柔軟に確保できるようにしている。

(3) 国際会議の開催及び出席者数等

1) SC17 総会（高松[香川県]、2010年10月06日～08日）

参加国数／出席者数：12カ国、6リエゾン／計48名（以下本項では敬称略）

議長（Richard Mabbott, 英）、セクレタリ（Chris Starr, 英）

豪(1)、オーストラリア(1)、中(7)、仏(3)、独(1)、日(15、山本 雅亮、山中 豊[METI/JISC]、廣川 勝久[SC17/ECSEC]、谷内田 益義[東工大/リコー]、中澤 明[日本電産サンキョー]、榊 純一[パナソニック]、坂本 静生[NEC]、山本 真樹[全銀協]、荻部 浩[JBMIA]、平林 昌志[国立印刷局]、幸城 雅之[日本データカード]、塚本 薫[共用品推進機構/ソニー]、中西 英夫、田島 成起、江村 智之[JBMIA])、蘭(1)、韓(6)、シンガポール(1)、スペイン(1)、英(3)、米(6)

以下、リエゾン（出席者数は上記の内数）：

ISO/IEC JTC 1/SC 6(1), ISO/IEC JTC 1/SC 37(1), VISA(1), ECMA(1),
ICMA - International Card Manufacturers Association(1), UATP - Universal Air Travel
Plan(1)

(※) 今回は日本開催のためオブザーバー参加も含めて多数の国内関係者に参加頂いた。この
ような総会と高松で開催された各 WG 国際会議のホスト国事務局として JBMIA、特に江村
智之氏には多大な貢献を頂いた。

2) 各 WG 等の国際会議回数及び出席者数

WG1 (3 回 10 名)、WG3 (4 回 16 名)、WG4 (4 回 13 名、エキスパート会議 1 回 3 名)、
WG5 (1 回 3 名)、WG8 (3 回 20 名)、WG10 (5 回 20 名)、WG11 (3 回 5 名)、ISO-IEC-ITU
合同アクセシビリティ会議 (1 回 1 名)、ICAO (1 回 3 名) であった。

なお、WG10 対応については、(社) 新交通管理システム協会に委託の上、合同で推進中であ
る。

3) 規格投票件数および制定数

本年度に行った規格への投票は、以下のとおりである。

NP : 6 件、CD : 13 件、FCD : 15 件、DIS : 0 件、FDIS : 11 件、Sys. Review : 7 件
IS : 10 件

(4) 特記事項

年間の活動として、わが国が規格に反映するために努力した主要案件、今後影響を与える可能性の
ある案件は、次のとおりである。

a) わが国の SC17 関連規格活動への役職貢献

わが国が目指す産業競争力強化のために、重点 TC のひとつとして各種カードの要素技術から利用
システムに関わる提案を行うとともに、わが国の技術を規格に反映させるため次の国際役職を務めて
いる (以下本項では敬称略)。

- ① WG3/TF4 (IC 旅券の試験方法) コンビナ : 榊 純一 (パナソニック) - 2004 年より継続
- ② WG10 (自動車運転免許証と関係書類) セクレタリ : 榊 純一 (パナソニック) - 2004 年より
継続
- ③ WG4 (IC カード) ISO/IEC 7816-1 (外部端子付き IC カード : 物理的特性) 改訂プロジェク
トエディタ : 寄本 義一 (凸版印刷) - 2008 年就任、2011 年 1 月に改訂 IS が発行され任務
を完了
- ④ WG4 (IC カード) ISO/IEC 12905 (ETA : カード所持者に適合したインタフェースを用いた
端末利用の向上) プロジェクトエディタ : 寄本 義一 (凸版印刷) - 2008 年就任
- ⑤ WG8 (非接触 IC カード) ISO/IEC 15693-1 (近傍型非接触 IC カード : 物理的特性) 改訂プ
ロジェクトエディタ : 苅部 浩 (JBMIA) - 2008 年就任、2010 年 9 月に改訂 IS が発行さ
れ任務を完了
- ⑥ SC17 総会決議案起草委員 : 廣川 勝久 (SC17/ECSEC) - 1995 年より継続

b) IC 旅券 (eMRP) の標準化

ICAO-TAG-NTWG (新技術 WG) が中心になり標準化を進めている IC 旅券 (eMRP) の技術レ
ポート (ICAO-TR) 作成に、わが国は外務省と共に積極的に参加して旅券への PICC (近接型非接
触 IC カード) を利用した仕様策定に貢献してきた。国際的な運用では、このシステムを構成する IC
旅券及び読取装置の国際互換性のための統一仕様及び品質評価のための試験方法が必要となる。国際

WG3 では、試験方法に関する TF を設けて ICAO の協力の下に標準化を進めており、榊 純一 WG3 国内主査(パナソニック)が WG3/TF4 国際コンビナを務めている。IC 旅券の試験規格に関する ICAO 文書のうち RF インタフェースに関する部分の ISO/IEC 規格化は ISO/IEC 10373-6 の追補 (AMD7) として出版され、残りの部分のテスト規格の ISO 化作業を行っている。

c) ETA に関する関係国内委員会との連携

日本の NWI 提案に基づく ISO/IEC 12905 (ETA) の標準化に際し、ISO/IEC JTC1/SC35 (ユーザインタフェース) 国内委員会との間で標準化内容の相互確認を行い各々の標準化範囲と共通部分の整合性確保を図ってきた。

d) バイオメトリクス応用への対応

日本から新たにバイオメトリクス応用のための新コマンド、PBO (Perform Biometric Operation) コマンドの追加を ISO/IEC 7816 シリーズへ提案中であり、パート 4 を皮切りに規格本体への取り込み作業が進みつつある。また、カード上で生体情報 (指紋等) の入力・照合を行うための作業項目 (ISO/IEC 24787) が IS として成立したが、引続き参照規格を含めた利用方法のガイドに関する NWI、ISO/IEC 24787 に対するテスト規格、全ての生体認証処理をカード上で行うシステムオンカードの PWI (予備的作業項目) 等の検討をそれぞれ開始することになっている。

引続き ISO/IEC JTC1/SC37 (バイオメトリクス) ・同 SC27 (情報セキュリティ) との連携が必要であるとともに、SC17 内でも複数 WG の連携が必要である。このため、国内では前述のとおりサブ WG (WG4/SWG4) を編成し、国内の関係活動への影響をも考慮しつつ対応している。

e) 非接触 IC カード関連のハーモナイゼーション

ISO/IEC 14443 シリーズと NFC シリーズとのハーモナイゼーションについては、2008 年 9 月に開催された SC17 Ad Hoc 会議での検討結果に基づき、2008 年 10 月の SC17 ロンドン総会で推進する方針が決議された。一方、2008 年 11 月の SC6 総会では SG (Study Group) の設置が決議され、続く JTC1 奈良総会では SC6 SG に SC17 からエキスパートが参加し協力して推進するよう決議された。これらの決議に基づき、平成 21 年度中に、SC6 SG 会議が 3 回開催され、NFC 規格の改正方針案がまとめられ、SC6 SG は所期の作業を完了した。この間、前述の SC17/SWG B での検討結果に基づく日本の寄書は SC6 SG 会議の審議に大いに貢献した。

現在は、SC6 SG 会議の結果に基づき、SC6/WG1 で NFC シリーズの関係部分について改正作業が行われるためリエゾン関係を通じて関係を継続している。

(5) 来年度への重要な課題

- ① IC カード等に関する基本的な要素を規定する ISO/IEC 7816 シリーズでは、APDU やデータ形式を定める第 4 部に大きな修正が続いており、このままでは可読性が損なわれるとともに、後方互換性の確保が十分に検討できない恐れが出ていることをわが国から指摘したところである。今後他国の協力を得ながら、世界的に利用が定着しているクレジットカード等に影響がでないよう後方互換性を慎重に保ちつつ、わが国の技術も踏まえて新規技術への対応を継続していく必要がある。
- ② IC カード等に関する基本的な要素技術以外で、ISO/IEC 24727 シリーズのように利用システムに関わる標準化が求められている。その一方で、利用システムからの要求に基づき要素技術についても機能や性能に関わる追加提案が増加する傾向が本年度も続いている。今後、カードの製造・発行・利用に係わる関係機関・関係企業のより積極的な理解と参画を得て、利用者個人も含めた各関係者の利益を考慮しつつ、わが国の技術力を踏まえた要素技術と利用

技術の両面からの対応を継続していく必要がある。

- ③ IC 旅券の国際試験仕様（耐久性・プロトコル）について、ICAO 文書の ISO/IEC 規格への変換を含めて継続的に対応する。
- ④ 日本提案に基づき制定された ISO/IEC 7811-9 (TIM: Tactile Identifier Mark) の普及を推進すると共に、JIS 制定作業を行う。
- ⑤ ISO/IEC 24789 (カードサービスライフ) シリーズ (用途別の耐久性を評価するための方法) について、わが国の技術を踏まえユーザの意見も反映しつつ、改版作業として対応を行う。
- ⑥ カード発行者識別番号 (IIN) の申請に際して利用予定者に誤解が生じないように ISO/IEC 7812 (識別カード発行者の識別) シリーズの見直し (改訂) を行う。
- ⑦ ISO/IEC 14443 (識別カード外部端子なし IC カード近接型) シリーズと NFC シリーズとのハーモナイゼーションに関して、ISO/IEC JTC1/SC6 S G による NFC 規格の改正方針案がまとめられ、今後は SC6/WG1 による改正作業が行われるため引続き SC6 と連携する。
- ⑧ 国内では 2010 年 1 月に全ての都道府県 (公安委員会) で IC 運転免許証の導入が完了した。国内外の動向を踏まえた ISO/IEC 18013 (ISO 準拠運転免許証) シリーズの規格化を継続する。
- ⑨ 日本意見を反映した国際標準化のためのエキスパート養成が急務であり、そのための環境造りを継続して推進する。

(1) 活動状況

1) WG1 国際会議は以下のように3回開催され、それぞれの会議に2名~3名が参加した。

2010年06月01日~03日 London (UK)

2010年10月04日~06日 高松 (日本)

2011年03月01日~03日 Menlo Park (USA)

2) 国際会議の審議概況と主要成果

- ・用途別の耐久性を評価するための方法を規定する「カードサービスライフ」の検討を行い、FCD投票を終えFDIS投票の開始待ちである。日本から試験カードを提供し各国で評価を行い、試験回数等の試験条件の妥当性を見出す活動を行うと共に、日本の各メーカ及びユーザの意見を国際規格に反映すべくコメントのとりまとめを行った。また、適用すべき試験条件の選定のために客観的な判断ができるプロファイルを提案し各国の賛同を得たため、CD投票前に日本提案のプロファイルに差し替えられた。それらの作業を行ったうえで、ISO/IEC 24789-1及びISO/IEC 24789-2としてFCD投票を行い、条件付反対の2ヶ国を含め、各国から多数のコメントが寄せられたが、全てのコメント処理を完了しFDIS投票に進めることとした。
- ・IDカードの物理的特性 (ISO/IEC 7810) 及びこれに対応する試験方法 (ISO/IEC 10373-1) に関連し、カード表面の導電材及びカード摩擦係数に関する新しい規定の提案があり検討を行い、検討継続中である。
- ・IDカードの物理的特性 (ISO/IEC 7810) の不透過度について検討を行い、AMD2としてFPDAM段階に進めた。

3) 国内会議

- ・国内WG1会議は、課題の検討のために月1回のペースで実施した。
- ・2)項の各種課題に対する対応方針の検討及び投票案件の審議等を行った。

(2) 今後の主要課題

- ・カードサービスライフの規格であるISO/IEC 24789-1及びISO/IEC 24789-2のFDIS投票に際し、日本の各メーカ及びユーザの意見の反映状況を確認していく活動を継続していく。
- ・カードサービスライフの試験項目及びその内容 (試験回数や判定基準等) と市場の返却率・故障率との相関について検証作業の準備を行う。この活動は上記規格制定後の改版作業の先取りとして日本主導で進めていく。

(3) 特記事項

- ・TIMを普及させるため、高松で開催されたSC17総会等を利用し、ETAと共に、プロモーション活動を展開した。また、ISO-IEC-ITU合同のアクセシビリティに関するワークショップにETA委員会主査の寄本 義一氏が参加し、ETAと共にTIMについてもプレゼンテーションを行った。
- ・カードサービスライフに対し、ユーザを含めた多くの関係者のご意見をいただき、国際の場に日本意見を反映させるべく、SC17の直下にSWG Aを設け、WG1における審議経過やCD案に対する審議を行い、国際会議での日本コメントに反映させる作業を継続した。

(4) 平成 23 年度の国際会議の予定

2011 年 06 月 Fargo (USA)

2011 年 10 月 Song-Do (South Korea)

2012 年 03 月 Queenstown (New Zealand)

1-3-2 SC17/WG3 (機械可読渡航文書 : MRTD)

主査 榊 純一

(1) 活動状況

1) SC17/WG3 国際会議及び配下のタスクフォース (TF) 会議は下記の 4 回が開催された。

(注) WG3/TF1 : ICAO-TAG-NTWG (新技術 WG) の対応 TF

WG3/TF2 : 文書化 TF

WG3/TF3 : 教育・広報の TF

WG3/TF4 : 試験仕様 TF

WG3/TF5 : PKI セキュリティ仕様 TF

2010 年 06 月 07 日～11 日 Ottawa (Canada) WG3、全 TF

2010 年 09 月 23 日～24 日 Graz (Austria) TF5

2010 年 10 月 04 日～06 日 高松 (日本) WG3

2011 年 02 月 28 日～03 月 03 日 Singapote WG3、TF5

2) またリエゾン関係にある ICAO 関連会議は下記の 1 回が開催された。

2010 年 10 月 12 日～15 日 東京(日本) ICAO-TAG-NTWG

(2) 国際会議の審議概況と主要成果

・ コンビナの交代

コンビナ (Joel Shaw 氏、カナダ) が長期間にわたり国際会議に出席できない状況が続いているため、2010 年 10 月の高松会議において、コンビナ代行としてオランダの Tom Kinneging 氏が任命されている。今後 Kinneging 氏を正式なコンビナとして任命するかどうかについて、SC17 議長が調整を行う予定。

・ ISO/IEC 7501-1 3rd Edition

IC 旅券の国際規格である ICAO Doc 9303-1 の第 6 版は 2006 年 9 月に発行されてから、4 年が経過し、2011 年 3 月現在、約 90 ヶ国がこの国際規格に準拠した IC 旅券の発給を行っている。また全世界で流通している IC 旅券の推定総数は 2 億 5300 万枚にも及び、普及期に入っている。

・ Supplement Doc 9303 の更新 (ICAO の補足文書)

Doc 9303 Supplement Release 8 が完成、日本からのコメントは全て採用されており ICAO サイトにおいて公開されている。

・ テスト仕様 (TF4)

RF&Protocol パート 2、パート 4

SC17/WG8 に移管され、ISO/IEC 10373-6 の追補 7 として発行された。

Durability、RF&Protocol パート 3

2010 年の SC17 高松総会ではこれら ICAO 規格の Fast Track での起案が承認されている。

ICAO は起案権限を持っていないため、これらの提案はフランスと日本で行う予定であり、

現在 ICAO からの支持文書の入手を待つて起案を開始する予定となった。

- ICBWG (Implementation and Capacity Building Working Group)
ICAO 内に昨年発足した ICBWG という新しい作業部会では、教育や啓蒙について議論されており、今後 IC 旅券の認証に関しても議論が行われていく見込みである。
- BAC (Basic Access Control) 後継案
BAC のエントロピー不足やプライバシー保護の増強を目的に、SAC (Supplemental Access Control) という新たな仕組みが提案され、BAC の後継として認識されている。欧州ではこの SAC を 2014 年までに導入することを義務化しており、テスト使用作成や国際互換テスト等も今後の予定として検討されている。実際の移行期間や運用に関する議論を含め今後ますます活発化していく見込みである。

(3) 今後の主要課題

- LDS (Logical Data Structure) Ver-2
米国の政府メンバーを中心としてどのような要求定義の素案が出来上がった。現在の LDS を LDS1 として位置づけ、これに加えて追記や変更ができる領域を LDS2 として後方互換に配慮した構成が予定されている。想定されるアプリケーションには出入国スタンプや査証等が見込まれている。今後数年をかけて具体案の作成が行われる予定である。
- EAC (拡張アクセス制御)
EU 加盟国は Passport に指紋 (2 指) の記録を義務づけ、EU の全ての加盟国はこの仕様に基づいた旅券の発給を開始した。

(4) 平成 23 年度の国際会議の予定

SC17/WG3 会議

2011 年 10 月 26 日～29 日 Song-Do (South Korea) WG3、TF4、TF5

ICAO 関連会議

2011 年 05 月 03 日～06 日 Bern(Switzerland) ICAO-TAG-NTWG

2011 年 09 月 05 日～09 日 Montreal(Canada) ICAO-TAG 総会

1-3-3 SC17/WG4 (端子付 IC カード) 主査 坂本 静生 及び SWG4 (カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用)

(1) 活動状況

1) 国際会議開催状況

日本は次の様に WG4 会議 (4 回)、WG4 エキスパート会議 (1 回) の計 5 回の国際会議に参加した。

また、WG11 に関する標準化の国内審議は WG4/SWG4 で行っていることから、今期の WG11 の活動も含めて報告する。WG11 は 3 回、WG4 及び WG11 の合同会議は 1 回の国際会議にそれぞれ参加した。

2010 年 04 月 26 日～30 日 London (UK) WG4

2010年04月27日～29日	London (UK)	WG11
2010年04月28日	London (UK)	WG4&11 合同会議
2010年06月22日～25日	Darmstadt (Germany)	WG4
2010年06月22日～25日	Darmstadt (Germany)	WG4 ISO/IEC 7816-4 エキスパート 会議
2010年09月27日～10月1日	高松 (日本)	WG4
2010年10月05日	高松 (日本)	WG11
2011年02月23日～24日	Brussels (Belgium)	WG11
2011年03月21日～25日	Gaithersburg (USA)	WG4

2) 国際会議の審議状況と主要成果 (NP 提案の国際投票結果を含む)

WG4 では、IC カードに関する国際規格 ISO/IEC 7816 シリーズの制定管理を行っている。同シリーズには、外部端子付き IC カードのインタフェース規格に関する幾つかのパートと、ファイル構造・コマンド機能・セキュリティ機能等を規定する、幾つかのパートがある。後者は外部端子なし IC カードにも共通に使用されるため、これらのパートのタイトルから「外部端子付き」の表記を外し、規定が両者に共通であることが明らかになるよう改定作業を進めてきた。

この ISO/IEC 7816 シリーズでもっとも重要なパートのうちのひとつである、ISO/IEC 7816-4 を現在改訂中である (CD2 投票の段階)。これまでドイツやフランスを中心に機能やコマンドを追加してきた結果、可読性が低下するとともに、後方互換性の確認が困難となってきた。このパートは EMV 仕様等で参照される規格であり、後方互換性の破れは世界的に重大な影響を及ぼすことから、日本は内容の精査を粘り強く続け、問題が生じていることを確認した。今後各国へと協議の場を設けることを提案するとともに、議論のもととなる寄書を提出し、主体的にまとめようとしているところである。

IC カード用端末のミドルウェアに関する国際規格である ISO/IEC 24727 シリーズは誤記修正や各パート間の記述の調整等にとりかかっており、基本的な部分は最後の仕上げに入っている。但し、記述調整作業に合わせて XML 等新しい技術要件を取り込もうとする国と、実用へ向けてまず相互互換性が確保できる安定した規格を望む国との間で議論が起きている。日本は、国際規格は相互互換性が重要であるとの立場をとり、議論の収束へ向けて粘り強く交渉を続けている。

2006年11月より、IC カード技術とバイオメトリクス応用技術の効率的連携を意図して、国内 WG4 に SWG4 を設け国際 WG11 (バイオメトリクス応用) が担当する国際規格への対応も合わせて行っている。

国際 WG11 では、カード上でのバイオメトリクス認証に関する ISO/IEC 24787 が、FCD 投票・FDIS 投票を経て 12 月に IS として成立した。また SC27 や SC37 を含む関連規格をまとめたガイダンス TR を新規作業項目とする投票を行うことを可決した。

さらに、バイオメトリクス関連では、経済産業省基準認証事業の一環としてニューメディア開発協会で検討された PBO コマンド (Perform Biometric Operation) を 2009 年 3 月の WG4 パリ会議及び同年 5 月の WG4 オースチン会議における追加説明により、PIN 照合のために規定した VERIFY コマンドをバイオメトリクス照合にも利用することは実装の多様性の側面から好ましくなく、新しい PBO コマンドが必要であることについて理解を得た。

また、ISO/IEC JTC 1/SC 27 への日本提案として標準化された、正しいシステムで得られたバイオメトリクス照合結果であることの認証が可能な ISO/IEC 24761 ACBio にも PBO コマンドで対応できること等の説明を行った。

PBO コマンドは、ISO/IEC 7816-4 のコマンド一覧に追加のうえ、ISO/IEC 7816-8 にコマン

ド機能の詳細を記述し、ISO/IEC 7816-11 にその応用例を記述することで合意を得た。現在、CD2 投票中である第 4 部に PBO コマンドのための INS がすでに追加されている。

WG4 関連の国際規格のこの一年の動向

- ISO/IEC 7816-1, Identification cards — Integrated circuit(s) cards with contacts — Part 1: Physical characteristics
 - ① 日本からの改版提案で日本が改版エディタとなり、順調に進行し IS として発行された。
- ISO/IEC 7816-4, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 4: Organization, security and commands for interchange
 - ① ISO/IEC 7816-4: 2005 として発行されている。
 - ② 2008 年の WG4 ロンドン会議において、日本からの提案で改版が受諾され、2009 年 1 月のベルリン Ad Hoc 会議から改版作業が始まった。今回の改訂では、特にデータオブジェクトを従来のファイルと同等に取り扱えるようにする等、IC カードの新しい利用方法に対応する機能の追加や、コマンドの追加、セキュリティの向上等の課題がある。2009 年 10 月の WG4 バルセロナ会議で CD 投票に進むこととなった同文書であるが、フランス及びドイツから多くの新規規定の提案が、また日本からは非常に多くの箇所でも可読性に難があることの指摘がそれぞれなされた結果、2010 年 9 月の高松会議で CD2 投票を行うこととなった。しかし日本は依然としてこの文書が難読であることに加え、後方互換性に問題があることを指摘する反対投票を行ったところである。
- ISO/IEC 7816-7, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Part 7: Commands for SCQL
 - ① 定期見直しでドイツから改版提案が出された。2011 年 2 月に提案寄書が回覧されたところである。
- ISO/IEC 7816-12, Integrated circuit(s) card with contacts — Part 12: USB interface and operating procedures
 - ① システムティックレビュー中である。
- ISO/IEC 10373-3, Identification cards — Test methods — Part 3: Integrated circuit(s) cards with contacts and related interface devices
 - ① JIS 化の過程で多くの編集上の誤りが発見され、FDIS 投票でもコメントを行ったが十分な反映が行われなかった。プロジェクトエディタとコリジェンダム発行の交渉を行う予定である。
- ISO/IEC 10373-8, Identification cards — Test methods — Part 8: USB-ICC
 - ① FDIS 投票の際に、図中のコネクタ名にメーカ独自のものが使用されていることが見つかったが修正されないまま IS となる見込みのため、今後対応していく予定である。
- ISO/IEC 24727-1, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 1: Architecture
 - ① ISO/IEC 24727-1: 2007 として発行されている。
 - ② 他のパートとの整合性が問題となるが、定期見直し時に行うことになった。
- ISO/IEC 24727-2, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 2: Generic card edge
 - ① ISO/IEC 24727-2:2008 として発行されている。
 - ② アmendメントのスコop及びWD開発を現在調整中である。
- ISO/IEC 24727-3, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming

interfaces-Part 3: Application interface

- ① ISO/IEC 24727-3:2008 として発行されている。
- ② ISO/IEC 24727-3 Cor は、受諾された。
- ③ アmendメントの範囲及びWD 開発を現在調整中である。
- ISO/IEC 24727-4, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 4: API administration
 - ① ISO/IEC 24727-4:2008 として発行されている。
 - ② ISO/IEC 24727-4 Cor は、受諾された。
 - ③ Amendメントの範囲及びWD 開発を現在調整中である。
- ISO/IEC 24727- 5, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 5: Testing
 - ① FDIS 投票も終了し、IS 発行を待っているところである。大量の試験データを規格本体から分離する方法については、SC17 幹事が JTC1 と検討中である。
- ISO/IEC 24727-6, Identification cards — Integrated circuit(s) cards — Programming interfaces-Part 6: Registration authority procedures for the authentication protocols
 - ① ISO/IEC 24727-6:2009 として IS 発行
- ISO/IEC 20060-1, Information technology — Open Terminal Architecture (OTA) — Virtual machine
 - ① 改訂版の Fast Track 投票後、IS として発行された。
- ISO/IEC 12905, Integrated circuit cards — Enhanced Terminal Accessibility (ETA) using cardholder preference interface
 - ① 高松会議の WG4 初日 (2010-9-27) に FCD 投票が締め切れ、第 2 日より FDIS に向けて審議が行われた。2011 年 3 月 28 日に FDIS 投票が開始された。

WG11 関連の国際規格のこの一年の動向

- ISO/IEC 24787, Personal identification — Identification cards — On-card Biometric Comparison

① FCD 投票及び FDIS 投票が順調に進み、12月にISとして発行された。

3) 国内会議

国内 WG4 会議は、1ヶ月に1回の間隔で実施。担当の国際標準規格の各パートの検討のため、次の7つのSWGに分けて審議を行った。

SWG1: ISO/IEC 7816 Part1, Part2, ISO/IEC 10373-1 担当

SWG2: ISO/IEC 7816 Part3, Part 10, Part 12, ISO/IEC 20060, ISO/IEC 10373-3 担当

SWG3: ISO/IEC 7816 Part4, Part5, Part6, Part7, Part8,担当

SWG4: 国際 WG11 対応。ISO/IEC 7816 Part11、ISO/IEC 24787 担当

SWG5: ISO/IEC 7816 Part9, Part13, Part15 担当

SWG6: 国際 WG4/TF9 対応。ISO/IEC 24727 Part1, Part2, Part3, Part4,Part5,Part6 担当

SWG7: 国際 WG4/TF10 対応。ISO/IEC 24749 Part1, ISO/IEC20060

(2) 今後の主要課題

次の課題に対応する。

- ① ISO/IEC 7816-4 の CD~DIS 投票審議
- ② ISO/IEC 7816-8 の改訂作業開始
- ③ ISO/IEC 7816-9 の改訂作業開始
- ④ ISO/IEC 10373-3 のコリジェンダムへ向けての検討
- ⑤ ISO/IEC 7816-12 及び ISO/IEC 10373-8 の引用 USB 規格の再検討
- ⑥ ISO/IEC 24727-1 の改版作業
- ⑦ ISO/IEC 24727-2・-3・-4 アmendメントの審議
- ⑧ ISO/IEC 24787 の FCD 投票の審議
- ⑨ ISO/IEC 12905 の FDIS 以降の審議

(3) 平成 23 年度国際会議予定

2011年06月13日~17日	Madrid (Spain)	WG4
2011年06月17日~18日	Singapore (Singapore)	WG11
2011年09月26日~30日	Song-Do (South Korea)	WG4
2011年09月29日~30日	Song-Do (South Korea)	WG11
2012年02月	場所未定	WG11
2012年03月	場所未定	WG4

(4) その他

- 平成 19 年度経済産業省の委託研究として、「カードシステム端末利用におけるアクセシビリティの向上(障がい・高齢者等を対象としたアクセシブルデザイン)に関する調査研究(略称 CTA 委員会)」を受託して3年目の最終年度を迎えた。今年度は、ISO/IEC 12905 Enhanced Terminal accessibility (ETA) using Cardholder preference interface は CD 投票が終了して、FCD に進もうとしている。このタイトルに合わせて、CTA 委員会を ETA 委員会に改名した。エディタは、寄本 義一氏と英国の Mr. Jim Riddell である。
- ISO/IEC 7816-1 の改訂エディタは寄本 義一氏である。

(1) 活動概況

1) 国際会議は以下のとおり 1 回開催された。

2009 年 10 月 5 日 高松 (日本)

2) 国際会議の審議状況

当グループは個人識別カードのカード発行者番号 (ISO/IEC 7812)、IC カードの登録アプリケーション提供者識別子 (ISO/IEC 7816-5) の登録管理を行っている。

カード発行者番号 (IIN) の申請に際して利用予定者に誤解が生じないように ISO/IEC 7812 (識別カード発行者の識別) シリーズの見直し (revision) を行うこととしており、その修正原案 (WD) を審議した。

(2) 今後の主要課題

IIN の登録申請について、都度、審議する。

IIN の申請に際して利用予定者に誤解が生じないように ISO/IEC 7812 (識別カード発行者の識別) シリーズの見直し (revision) 作業を継続する。

(3) 平成 23 年度国際会議開催予定

2011 年 9 月 パリ (フランス)

(1) 活動状況

平成 22 年度は、3 回の WG8 国際会議及び 3 回の WG8/TF2 会議が開かれた。

2010 年 4 月 20～24 日 Berlin (Germany) TF2#32 及び WG8#46 会議

2010 年 9 月 27 日～10 月 1 日 高松 TF2#33 及び WG8#47 会議

2011 年 3 月 28 日～4 月 1 日 Ispra (Italy) TF2#34 及び WG8#48 会議

わが国は、上記の会議すべてに出席した。また、これらの国際会議の前後に国内 WG8 会議を開き、国際会議の報告、投票に付すコメントの審議、提案寄書の検討等を行った。

(2) 国際会議の審議状況と成果

平成 22 年度も、前年度から継続して非接触 IC カードの近接型 (ISO/IEC 14443 シリーズ及び ISO/IEC 10373-6) の 5 年見直し作業を行い、各ドキュメントは、FDIS 投票を終え IS に進んだ。続けて、アンテナサイズに関する PICC クラス、電磁雑音レベル (EMD : Electromagnetic Disturbances) の規格、追加パラメタ選択及び超高速伝送 (VHBR: Very High Bite Rate) を審議し投票に至った。さらに、単一磁界中の複数 PICC に関する技術レポート (TR) については遅れているが作成中である。

この状況において、わが国は、投票時のコメント添付・寄書提出・国際会議での意見表明を通じて、投票段階の進捗及び規格文書の品質向上に貢献した。

各規格の進捗状況は、次のとおり :

A 近接型

a. ISO/IEC 14443-2 (電力伝送及び信号インタフェース) については、改定作業を終了し IS になった。

- b. ISO/IEC 14443-3（初期化及び衝突防止処理）については、改定作業を終了し IS になった。
- c. ISO/IEC 10373-6（試験方法－近接型）については、改定作業を終了し IS となった。なお、電子パスポートの試験方法(ISO/IEC 10373-6:2001/Amd7)は、旧版への追補と位置付けられている。通常は、改訂 IS と同時に旧版は廃止されるが、ISO/IEC 10373-6:2001/Amd7 については、ISO/IEC 10373-6 の改訂 IS 後も入手可能な状態を維持することとなった(2010年10月のSC17高松総会での決議)。
- d. PICC クラスに関する規格（ISO/IEC 14443-1/AMD1, ISO/IEC 14443-2/AMD4, ISO/IEC 10373-6/AMD8）については、ISO/IEC 14443-1/AMD1 については FDAM 投票を終わり IS に進み、ISO/IEC 14443-2/AMD4, ISO/IEC 10373-6/AMD8 については、技術面及び編集上の修正を行い、FDAM 投票に進む。
- e. EMD の規格（ISO/IEC 14443-2/AMD3, ISO/IEC 14443-3/AMD3, ISO/IEC 10373-6/AMD9）については、編集上の修正を行い、いずれも FDAM 投票に進む。
- f. 追加パラメータの交換に関する規格（ISO/IEC 14443-4/AMD1）については、FDAM 投票に進む。
- g. 超高速伝送（VHBR）の規格（ISO/IEC 14443-2/AMD1, ISO/IEC 14443-3/AMD2, ISO/IEC 14443-4/AMD2）については、PDAM 投票を行ったが、技術的課題が多いため、さらに改善提案が必要である。
- h. 単一磁界中の複数 PICC については、これまでに寄せられた技術資料を Technical Report にする作業を行っている。

B 近傍型

すべて見直し作業を終了し IS となっている。

非接触 IC カード関連の規格の進捗状況

標準名	日本語名称	WD	CD	FCD	FDIS	IS
ISO/IEC 14443-1 (Rev)	近接型 物理的特性					○
ISO/IEC 14443-2 (Rev)	近接型 電波インタフェース					○
ISO/IEC 14443-3 (Rev)	近接型 初期化及び衝突防止					○
ISO/IEC 14443-4 (Rev)	近接型 伝送プロトコル					○
ISO/IEC 14443-1/AMD1	近接型 物理的特性 追加 PICC クラス				○	
ISO/IEC 14443-2/AMD4	近接型 電波インタフェース 追加 PICC クラス				○	
ISO/IEC 14443-2/AMD3	近接型 電波インタフェース EMD			○		
ISO/IEC 14443-3/AMD4	近接型 初期化及び衝突防止 EMD			○		
ISO/IEC 14443-4/AMD1	近接型 伝送プロトコル 追加パラメータの交換				○	
ISO/IEC 14443-2/AMD1	近接型 電波インタフェース VHBR		○			
ISO/IEC 14443-3/AMD2	近接型 初期化及び衝突防止 VHBR		○			
ISO/IEC 14443-4/AMD2	近接型 伝送プロトコル VHBR		○			
ISO/IEC 10373-6 (Rev)	近接型 試験方法					○
ISO/IEC 10373-6/AMD7	近接型 機械可読渡航文書の試験方法					○
ISO/IEC 10373-6/AMD8	近接型 試験方法 PICC クラス				○	
ISO/IEC 10373-6/AMD9	近接型 試験方法 EMD				○	
ISO/IEC 10373-6/AMD11	近接型 試験方法 追加パラメータの交換		○			
ISO/IEC 15693-1 (Rev)	近傍型 物理的特性					○
ISO/IEC 15693-2 (Rev)	近傍型 電波インタフェース					○
ISO/IEC 15693-3 (Rev)	近傍型 伝送プロトコル					○
ISO/IEC 10373-7 (Rev)	近傍型 試験方法					○

備考： ○は、平成 22 年度中に処理が進んだ状態を示す。国際投票が可決され、次の段階に進む見

込みの規格は、次の段階に進んだ状態と位置付けている。

(3) 今後の課題

- ・同一磁界中の複数カード、外部供給電源 PICC 等に関する提案があるが、まだ技術的検討段階で、更なる寄書が求められている。
- ・VHBRについては、試験規格が Working Draft の段階であり、国際投票に向けて、技術検討を進める。
- ・ICAO が制定した電子パスポートの規格を ISO 化する動きがあり、非接触インタフェースを扱う WG8 として、必要な支援を関連 WG に対して行う。

(4) 以降の国際 WG8/TF 会議の予定

2011 年 9 月 26 日～30 日 Song-Do (韓国) TF2#35 及び WG8#50 会議

1-3-6 SC17/WG 9 (光メモリカード)

WG9 国内委員会は現在休会中であるが、国際 WG9 は活動しており、本年度は国際会議が 3 回開催された(第 40 回会議 2010 年 3 月ドイツ、第 41 回会議 2010 年 9 月ドイツ、第 42 回会議 2011 年 1 月ドイツ)。日本は休会中につき WG9 国際会議には不参加。現在、WG9 国際会議では主に、従来からある直線記録方式の光カード (ISO/IEC 11694 シリーズ) の定期見直しと、新たに追加されたホログラム方式の光カード (ISO/IEC 11695 シリーズと ISO/IEC 10373-9 テスト方法) に関して審議している。

現在、国内において、光カード及びシステムを製造している事業所は無いので、投票に際しては、原則として棄権投票であるが、ホログラムに関しては、国内においても、セキュリティ媒体またはシステムとして研究開発及び事業化が行われているので、齋藤 WG9 国内主査を中心に SC17 国内運営委員会で対応を検討し、必要に応じて国内の関連 SC (ISO/TC 172 /SC 9 /WG 7) に情報提供を行っている。

1-3-7 SC17/WG10 (自動車運転免許証と関連書類)

主査 榊 純一

(1) 活動状況

ISO/IEC JTC1/SC17/WG10 では、運転免許証及び関連書類の検討を行っている。

スコープとして、運用上の内容に関する標準化は行わず、運転免許証製作上の技術的項目に関して国際標準化を行うことを明示している。

1) 国際会議開催状況

WG10 国際会議は次のように 3 回開催され、我が国はその全ての会議に参加し国内意見の反映を行ってきている。

2010 年 04 月 13 日～15 日	Swansea	(UK)	WG10 国際会議
2010 年 07 月 27 日～29 日	Sibula	(South Africa)	WG10 国際会議
2010 年 10 月 04 日～06 日	高松	(日本)	WG10 国際会議
2011 年 02 月 09 日～10 日	Zurich	(Switzerland)	WG10 国際会議

2) 国際会議の審議概況と主要成果

- ・パート1 (Physical Characteristics and Basic Data Set)
 - 2008年06月から、改定バージョンの審議が始まっている。
 - ①Annex C (Document Security Elements)
 - 最小セキュリティ要件の一覧と最小セキュリティの記載を併記する形で進められる見込み。
 - ただし UV 印刷等少数の必須化は避けられない見通しであり、これに関して国内委員からのコメントを募集しコストや特許等の観点で必須化は望ましくない項目を指摘していく予定。
 - ②耐久性試験
 - SC17/WG1 で検討している規格 (ISO/IEC 24789-1) に運転免許証の耐久性試験例が記載されており、これが現実に即していないこと等が課題となっている。ISO/IEC 24789-1 はそのままとし、WG10 でより現実に即した方法を追加する方向で検討が進められる見込み。
 - ・パート2 (Machine Readable Technologies)
 - 2008年06月国際会議から、改定バージョンの審議が始まっている。各国から出されたコメントは順調に処理されている。
 - ・パート3 (Authenticity and integrity verification)
 - 2つの改定が進められている
 - ISO/IEC 18013-3:2008/PDAM 1 : 1行MRZ
 - フランスからの提案でパスポートに類似のMRZをOCR領域としてオプション追加する提案。
 - NP成立しテキストの編集が進められている
 - ISO/IEC 18013-3:2008/PDAM 2 : EACV1.11の追加
 - パスポートと同様のアクセス制御をオプション追加する提案であり、現在投票期間中。
 - ・パート4 (Test Method for IDL)
 - FCD コメント処理を実施。大きな争点は無く日本のコメント (エラー試験、EF 存在試験) は取り入れられている。
- 3) 互換性試験
 - 日本、欧州から開催要望がでており、第二回は端末ベンダも含めた試験を検討する方向と思われる。
 - 4) 欧州における免許証の標準化動向
 - 作業部会は隔週開催されており、ISO/IEC 18013 準拠をベースに2011年3月に規格案をまとめる予定
 - 5) 国際会議審議体制
 - 本年度も国際会議セクレタリは日本の榊 純一氏 (パナソニックシステムネットワークス) が務め、本分野の技術的分野は多岐にわたるため、国際会議ではタスクフォース (TF) を設定し審議の促進を図っており、現在11のTF体勢で原案作成を行っている。日本はこのうちカードの物理的信頼性、画像処理、車両および運転条件のカテゴリー化という3分野のタスクフォースリーダーを務め、また他のTFでもベースドキュメントの項目を担当する等してドラフト作成に貢献している。
 - 6) 国内会議
 - 国内WG10会議は、課題の検討のために第61回～67回の計7回開催している。
- (2) 今後の主要課題**
- 欧州において運転免許のICカード化検討が本格化しており、数カ国が仕様を開発し実験等を行っている。新しい運転免許証の発行、あるいは本規格に準拠した仕様である市民カードの発行準備が進みつつある状況に鑑み各パートの見直し審議に対応していく予定である。

(3) 特記事項

2010年1月にIC化運転免許証が全ての都道府県で発給されるに至った。急速に普及が進んでおり、今後は運転免許証を民間で応用する取組が加速され広く利用が進むと期待される。

(4) 平成23年度の国際会議予定

2011年06月	Minneapolis	(USA)	・WG10 国際会議
2011年10月	Song-Do	(South Korea)	・WG10 国際会議
2012年02月	未定		・WG10 国際会議

1-3-8 SC17/WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）

(1) 活動状況

WG11（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）案件への対応は、平成18年度の体制見直しの結果に基づきサブWG（WG4/SWG4：主査 坂本静生）が行っている。ISO/IEC 24787に関する活動状況については、1-3-3 SC17/WG4（端子付ICカード）及びSWG4（カード及び個人識別へのバイオメトリクス応用）を参照されたい。

(1) 活動状況

SC28 は日本が国際幹事国業務、議長国を引き受け、積極的に活動を行っている。
現在 WG は 5 つあり、いずれの WG にも参加している。

SC28 は JTC1 の中でも数少ないハードウェアの標準化を進めているが、市場の要求で環境やアクセシビリティへの課題に範囲を広げている。オフィス機器とその隣接分野の標準化との関係が複雑になっており、今後のスコープの見直しを含めた検討を進めている。さらに種々のオフィス機器間の画像再現性や機器上で動作するアプリケーションに対応する課題もあり、日本を中心に SC の内部を組織的に見直ししている。

本年度開催された国際会議等への参加状況は、以下の通りである。

SC28 総会：	14 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター
SC28/AWG：	14 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター(7)、1 月サンノゼ(7)
SC28/WG2：	5 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター
29142 Editor 会議：	12 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター(6)、11 月ウィーン(6)
SC28/WG3：	4 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター
SC28/WG4：	9 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター(4)、1 月サンノゼ(5)
SC28/WG5：	13 人	6 月米国ニューヨーク州ロチェスター(5)、1 月サンノゼ(8)
APSG セミナー：	1 人	11 月クアラルンプール
ISO/IEC JTC1 Plenary	2 人	11 月北アイルランド ベルファスト

ロチェスター総会

ISO/IEC JTC1/SC28 (Office Equipment) 第 21 回総会が、米国のホストによりロチェスター市郊外にあるロチェスター工科大学にて開催された。7ヶ国約 30 名メンバー参加の会議であった。

[特記事項]

- * 今回の総会では、争点となる大きな問題は特になく、順調に議事が進められた。
- * 本総会において新任の富士ゼロックス杉山氏が初めて国際幹事を務めた。前任の元リコー熊倉氏の参加・助言も得て、再任の斎藤議長との連携も良く総会はスムーズに運営された(Aclamation 6&7/2010)。
- * 総会の冒頭、ITTF(ISO/IEC Information Technology Task Force)から、国際 SC28 メンバー 3 名に標準化活動の貢献が認められ表彰された。米国の Mr. Paul Jeran、故 Dr. Yee Ng とともに日本からコニカミノルタの伊藤丘委員が表彰された。大変喜ばしいことである(Aclamation 9/2010)。
- * これまで SC28 Ambassador を務めていた SC28 国内委員会事務局 JBMIA 櫻井氏退任に伴い、後任にリコー宮下委員が任命され、AWG(及び日本委員会)がサポートすることとなった(Aclamation 5/2010 及び Resolution Rochester41/2010 Recommendation of SC28 Ambassador)。

JISC/IEC APSG 人材開発セミナー (マレーシア)

2010年11月30日・12月1日マレーシア・クアラルンプールで開催された第9回 JISC/IEC/APSG Human Resource Development Seminar(METI 委託事業)に、リコー宮下委員が出席し、昨年、一昨年に引き続き、“Standards for Energy and Resource Saving”について討議した。

JTC1/SC28 は、概要及びその活動の紹介、生産性、カートリッジイールド (印刷可能枚数) 標準などの整備により競争が促進され、省エネ・省資源活動に繋がっていること、さらに、カートリッジ標準の開発による省資源への貢献などの標準化活動の現状について紹介した。

承認された国際標準など

本年度承認された国際標準:

ISO/IEC 29183 Method for measuring digital copying productivity of a single one-sided original

(2) 主な活動概要

JAWG (戦略検討)

AWGの活動は、SC28の新しい枠組みを作っていく活動と、SC28全体に係わる課題を整理するというものに大きく分けられる

- * AWG日本メンバーが主体となって作成した2010 SC28 Roadmapが承認された(Resolution Rochester3/2010 2010 SC28 Roadmap Approval)。
- * SC28 にかかわる Terminology の検討を行っているが、その coordinator にリコー宮下委員が指名された(Resolution Rochester42/2010 Appointment of SC28 Terminology Coordinator)。
- * 新規分野である AWG/PWG6 オフィスアプリケーションについて、今年度も引き続き日本を中心に具体的な課題を模索している。

WG3 (生産性)

ISO/IEC21117(複写機仕様書様式)及び 11160-2(プリンタ仕様書様式)の revision 提案が承認され、SC28 Work Program に追加し、伊藤丘委員が 21117 の Project Editor に任命された(Resolution Rochester14&15/2010 Revision of ISO/IEC 21117&11160-2)。

ISO/IEC24734(プリンタ生産性測定方法)及び 24735(複写生産性測定方法)の revision 提案が承認され、SC28 Work Program に追加し、伊藤丘委員が 24735 の Project Editor に任命された(Resolution Rochester16&17/2010 Revision of ISO/IEC 24734&24735)。

新規規格候補として、Scanner Productivity 及び Print First Page Out 規格の考え方が報告され、Scanner Productivity 内容を伊藤丘委員から説明。両方の規格候補について NP 提案に向けて活動することが確認された。

WG4(画質評価)

策定が難航していた ISO/IEC CD24790(画質属性測定方法)及び CD29112(白黒レーザープリンタの解像力測定法およびテストチャート)は共に Technical Specification(TS:技術仕様書)として発行することが決定され(Resolution Rochester19&20/2010 Change ISO/IEC 24790&29112

to Technical Specification)、CD案のTS化が進められた。

WG6(カラーマネジメント関連)

2009年の釜山総会で新たにWG5(オフィスカラー)が発足した。

WG5設立に向け、日本が積極的に提案活動をしていたこともあり、SC28のWGとしては初めてコンビーナー(セクレタリーも)を日本で引き受けることになった。

ロチェスター総会では、Stage0提案としてColor Terminology for Office color Systemsを、WG5会議ではリコー白沢委員が、Plenary会議ではWG5コンビーナーである富士ゼロックス仲谷委員が、日本からNP提案する予定であることも加えて説明した。

WG7(消耗品関連)

複写機、プリンタ、ファックス、複合機の消耗品(トナー/インク)の寿命(使用可能枚数)決定方法は国内ではWG7で、国際ではWG2で対応している。

カラーフォトイールド測定方法(CD29102)と、カラーフォトイールド・テストチャート(WD29103)についてロチェスター総会時開催のWG会議で検討。CD29102が改訂され、FDIS投票開始待ち。またCD29103は現在FDIS投票中である。

29142WG(カートリッジ特性)

注目される米提案のトナーカートリッジ特性規格NP29142(5 parts)は、2008年から開発が開始され、全パートに日本の委員がAssistant Editorとして参加することになり、日本の意見が反映しやすい体制ができた。また、本国際プロジェクトに特化して対応する国内WGが2009年1月に編成された。2010年6月現在で11社44名が委員登録され、各社の関心の高さがうかがわれる。用語の定義をはじめ、特性測定法の選定など標準の構成を含めた議論が続き、CD作成に難航しているため、CD発行を当初計画の2009年末から12か月延期することを前々回の釜山総会で延期し2010年12月のCD登録を目指すこととなった。しかし、さらに難航することが予測されたため、2010年6月のロチェスター総会で18か月の再延期を申請することを決定した。2010年9月のJTC1投票で承認され、さらに18か月延期されることになった。

(WG構成は29142国際プロジェクトの構造に対応した、Part1:一般:用語、記号(General Terms, Symbols and Notations)、Part2:標示(Labeling)、Part3:環境(Environment)、Part4:インクカートリッジ特性(Ink cartridge attributes)、Part5:トナーカートリッジ特性(Toner cartridge attributes)の5つのグループで構成されている。)

その他

ISO/IEC21118(データプロジェクト仕様書様式)のrevision提案が承認され、SC28 Work Programに追加し、パナソニック山岸氏がEditor、伊藤丘委員がCo-editorに任命された(Resolution Rochester26/2010 Revision of ISO/IEC21118:2005)。

その他特記事項

- ・オフィサー任命

SC 28 活動の対外コミュニケーション促進役として設定した Ambassador を継続することが確認された。Ambassador をつとめていた日本 JBMIA 事務局櫻井氏の退任に伴い、Ambassador のミッションは AWG が引き継ぐことになり、担当として AWG Secretary のリコー宮下委員が任命された。

- ・ロチェスター総会

今回の会議場は、ロチェスター市郊外に広いキャンパスを展開するロチェスター工科大学(RIT)で大学当局の協力のもとで開催された。近接ホテルからも徒歩圏内で設備も適当で順調に会議が出来た。

ただ、昨年の釜山総会は新型インフルエンザで一時開催が懸念されるなど大騒ぎとなったが、今回は別のトラブルの発生があった。ロチェスター市への入出にたまたま移動トラブルが多く、行きは WG 会議参加メンバーの ANA 機が機体不調で成田に引き返し 1 日遅れ、また斎藤国際議長ほか委員の搭乗予定のシカゴからロチェスターへの乗換え便がキャンセルになりバッファロー経由で深夜車でロチェスター入り。帰国便も、再び斎藤議長及び報告者小濫を含む 4 名が、シカゴ空港雷雨閉鎖の為着陸できず日本への接続予約便をミス、帰国便満杯で 2 日遅れで帰国などアクシデント続きであった。次回の中国開催の無事を祈る思いである。

- ・次回総会

次回総会は、2011 年 6 月に中国・浙江省杭州市において中国のホストで開催予定。

(3) 今後の主要課題

- ① カートリッジ規格の国内審議推進
- ② 新テーマの発掘と NP 提案の促進(継続)
- ③ 制定された国際規格の JIS 化の推進 (支援)
- ④ Secretariat (Chairman & Secretary)業務への支援
- ⑤ SC28 の改革の促進

以上

(1) 活動概況

AWG の活動は、SC28 の新しい枠組みを作っていく活動と、SC28 全体に係わる課題整理に大きく分けられる。

2009 年度は WG5 オフィスカラーを立ち上げコンビナ、セクレタリを獲得したが、同時期に検討した新規分野である AWG/PWG6 オフィスアプリケーションについて、今年度も引き続き日本を中心に具体的な課題を模索している。

企業活動にとり標準化活動は費用対効果がわかりにくいため、標準化活動について近年では一定の理解は得られており、特に製品に関連する規格開発については一定の意義があると理解され比較的活動をしやすい。一方、直接利益との関係を結びつけられない活動には、なかなか協力を得にくい。また新規課題の探索も日本ではそれほど積極的ではない。そうしたものの一つに用語の整理 (Terminology) や広報活動がある。これらの活動についても日本は AWG を中心に積極的な活動をしており、SC28 の標準化活動を効果的に行う努力を進めている。

国際会議

国際会議は、2010 年 6 月の総会直前のロチェスター会議と、2011 年 1 月のサンノゼ会議の 2 回が行われ、日本から積極的な寄与と参加が行われている。

ロチェスター会議 (2010/6)

AWG/PWG6 (オフィスアプリケーション) に関する情報の共有と課題への模索が続いている。TC46/SC11 のレコードマネージメント (記録管理) について、オフィス機器側からの課題調査を行う事とした。なお print ticket については、開発元の活動が進んでいないので、課題調査活動を取りやめた。

AWG 自体の活動としては、Terminology、Roadmap、Ambassador 制度などについて検討を進めた。Terminology は、900 件あまりの定義について基礎的な調査を進め、そのうちの重複定義に焦点を合わせると共に今後の調査活動の進め方について検討した。Roadmap については 2010 年版を確定し、Plenary で承認された。Ambassador 制度については存続を含めた議論の末、宮下委員を選任し Plenary で決定した。

そのほか、IEEE2600 の扱い及び IEEE-ISTO に関する Liaison に関連する討議が行われた。

サンノゼ会議 (2011/1)

AWG/PWG6 関連の活動についての方向性の確認と Terminology 及び SC28 総会の効率化を中心に議論された。

AWG/PWG6 は TC46/SC11 の記録管理の規格に関連する機器対応について課題を探索することにした。ハードウェアに関するものと文書の運用に関するものなどが候補としてあげられ、次回に日本から NP のための課題を整理する事とした。

Terminology については、overlap した 44 件について、担当する WG を決め、判断してもらう事とした。その後 ITVMT (IT Vocabulary Maintenance Team) に報告する。

SC28 総会の効率化については、米国から提案があり、長期化し負担が大きくなってきている総会及び WG 会議の期間及び費用圧縮について意見交換した。これについては各国のコメントを集め、杭州総会で議論する事とした。

Ambassador の活動として、ISO Focus+にアクセシビリティ標準の記事を紹介した。

国内活動状況

WG5 が独立した WG となったため、AWG としては Terminology 関連の処理、Roadmap、Work Scope、外部組織との Liaison などの課題と共に、WG6 設立のための課題検討に注力している。

(2) 今後の主要課題

新規分野の検討

SC28 の活動活性化のために Roadmap を作成し、新規分野の可能性について検討してきた。それと並行して検討を進めた組織改革は 2009 年に設立した Office Colour 分野 (WG5) に続き Office Application 分野 (WG6 を予定) の新設を検討している。オフィス機器固有の Application だけでなく、オフィスシステムの要素としての Application を対象に課題検討を進めている。これまで漢字出力、PrintTicket、Security などについての検討を行ったが課題抽出には至っていない。

現在は記録管理を重点に TC46/SC11 の標準化との連携を配慮した課題の検討を進めている。TC46/SC11 では扱わない具体的な文書の取り扱いに関する標準化課題の検討を進めていく。

用語 (Terminology)

JTC1 の用語整理について、SC28 担当分を整理した。SC28 で作成した規格を含め 44 用語について用語の定義が異なり、担当 WG に検討を依頼した。一方 SC28 以前の規格で用いられる用語については、作成後 10 年以上経っており、規格そのものを含め整理が必要と思われる。

SC28 総会及び WG 会議の負担軽減

SC28 の構成メンバーが地域的に偏在しており、総会をアジア、米国、欧州の順に開催することが困難になりつつある。それを解消するためホスト国の負担軽減のため検討を米国が提案してきた。SC28 はメンバーが複数の WG に登録している事が多いため、WG の並行開催などによる期間短縮が困難である。従って総会の簡素化により会期の短縮を検討し、また開催のホスト国負担を軽減できる様に見直すというものである。2011 年の杭州総会で本格的な検討が行われる。

(3) 国際会議予定

2011 年 6 月 杭州、中国

AWG 3 名 (うち 1 名はコンビナ)

AWG/PWG6 1 名

2012 年 1 月 サンノゼ、米国

AWG 3 名 (うち 1 名はコンビナ)

AWG/PWG6 1 名

(1) 活動概況

1) 国際会議

- ・ 国際 WG03 会議 (米国 ロチェスター)

2010年6月の Plenary 会議に先立って開催された国際 WG03 会議において、(1) 複写生産性測定方法 (24735) とプリンタ生産性測定方法 (24734) のそれぞれの規格の Revision 内容の確認と改訂作業推進の審議、(2) 同じく、複写機仕様書様式 (21117) とプリンタの仕様書様式 (11160-2) のそれぞれの規格の Revision 内容の確認と改訂作業推進の審議、(3) 新規提案である「Scanner Productivity 測定方法規格」(日本からの提案)と「Print First Page Out 生産性測定方法規格」(米国からの提案)の二つの事前内容説明と審議、(4) WG3 の Roadmap 確認と審議、(5) 片面単票原稿での複写生産性測定方法規格 (29183) の FCD 投票コメント処理と対応審議を実施した。その結果、(1)と(2)は改訂 CD 案の作成に進むこと、(3)は、前者に付いては2012年、後者に付いては本年中に NP 提案を行うこと、(4)は内容が承認され、(5)は次の段階である FDIS 投票に移ることが合意された。

- ・ SC28 Plenary 会議 (米国 ロチェスター)

WG3 の担当範囲ではないが、SC28 Plenary 会議の中で、ISO/IEC 21118 (データプロジェクトの仕様書規格)の改訂提案内容の説明を、国際規格のエキスパートの立場からサポートした。最終的には、SC28 内に改訂のための project を立ち上げることと、そのための Editing Group を組織することが合意された。(その後、各国から Editing Group への参加は無く、日本側が主導して改訂規格文書が作成され、11月に改訂 CD 案の投票が実施され、賛成多数で承認された。)

2) 国内活動状況

- ・ ISO/IEC 29183 の国内審議

本規格については、NP 提案時点から、米国の editor と日本側委員との間で活発な意見交換が実施されており、FCD 提案に続く FDIS 提案内容にも日本側の意向(国内 WG3 委員会及び JEITA プリンタ技術分科会 生産性 WG が検討)が十分反映されていることから、賛成投票を行った。最終的には、本規格は2010年12月に IS として発行された。

- ・ 国際規格 24735 と 21117 の改訂 CD 案の策定作業

日本側が project editor を務め、2009年に IS 制定された国際規格 ISO/IEC 24735 (複写生産性測定方法)については、その JIS 化原案作成作業時の修正意見及び国際規格 ISO/IEC 29183 の FDIS 案作成時の米国修正意見を、オリジナルの 24735 へフィードバックする必要があり、その改訂 CD 案を策定し、現時点では、CD 投票にかけられている。

また、同じく日本側が project editor を務め、2005年に IS 制定された国際規格 ISO/IEC 21117 (複写機・複合機の仕様書様式)については、ISO/IEC 24735 の発行に伴い、その生産性測定方法の記載を 21117 へ追記することが必要であるとの各国要望に従い、その改訂 CD 案を策定し、現時点では、CD 投票にかけられている。

- ・ 国際規格 24734 と 11160-2 の改訂内容の審議

24735 と 21117 と同じタイミングで、国際規格 ISO/IEC 24734 (プリンタ生産性測定方法)並びに国際規格 ISO/IEC 11160-2 (プリンタの仕様書様式)についての改訂作業が、米国側が

project editor を務め進んでおり、日本側から、事前コメントを提出した。現時点では、まだ改訂 CD 案の策定作業が終わっておらず、米国からの提案待ちの状態である。

- ・ 新規国際規格の提案内容の審議

Scanner Productivity 測定方法規格と Print First Page Out 生産性測定方法規格については、日米それぞれが NP 提案の準備を進めている。日本側が担当する前者の規格案については、国内 WG3 にて、次回の 2011 年 6 月の国際 WG3 会議にて、NP 提案の素案を提示できるよう検討を進めている。なお、本件 Scanner Productivity 規格に関しては、国際 WG3 コンビナー宛に TC171 のチェアマンから Joint WG の申入れがあったが、国際 WG3 コンビナーの回答として、既に TC171 と SC28 はリエゾン関係にあり、お互いの情報交換を更に密にすることと、必要があれば次回の国際 WG3 委員会への参加も促すとしており、日本としては、その進め方に従うこととした。

- ・ その他

ISO/IEC 21118 データプロジェクト仕様規格の改訂作業に付いては、JBMIA のデータプロジェクト部会及び傘下の規格検討分科会での作業を適宜サポートしている。CD 案が賛成多数で承認されたことから、投票時の各国コメントへの対応案と、次の段階である DIS 投票のための規格案策定作業が進んでいる。

(2) 今後の主要課題

今後の主要課題は、以下の通りである。

- ・ ISO/IEC 21117「複写機仕様書様式」改訂規格と、ISO/IEC24735「複写生産性測定方法」の改訂規格についての CD 投票結果が出た後に、次の段階である DIS 投票のための規格案策定作業を進める。
- ・ 複写生産性測定方法に続き、複写機/複合機の主要機能である「Scanner Productivity 測定方法規格」についての NP 提案を日本より行う（予定より早いですが、2011 年 6 月の国際 WG03 会議にて提案説明を実施する予定）。
- ・ ISO/IEC 21118 の規格化についてのサポート作業を継続する。

(3) 国際会議参加予定

2011 年 6 月 国際 WG03 会議及び Plenary Meeting (中国) 2 名 (WG3)

1-4-3 SC28/WG4 (画質評価)

主査 稲垣 敏彦

(1) 活動概況

SC 28 国内委員会 WG4 は、「モノクロハードコピーの画質属性測定方法 (ISO/IEC 24790)」の規格開発を担当する(エディタは稲垣主査)と共に、SC 28/WG 4(画質評価)のミラー委員会として、「モノクロレーザープリンタの解像力測定方法とテストチャート (ISO/IEC 29112)」規格開発の検討等に参加してきた。

本年度は2010年6月に米国ロチェスターでの第21回SC28総会に併せて開催されたWG4国際会議と、2011年1月に米国サンフランシスコでWG4国際会議が開催された。また、月1回、Web会議(Web-conference)が開催され、規格開発の進捗度報告、推進方法の検討等が実施された。

1) 国際会議

・SC28 総会、WG4 国際会議

2010年6月にロチェスターで開催された第21回SC28総会と総会に併せて開催されたWG4国際会議及び総会で、当WG担当のISO/IEC 24790CD案および韓国・米国担当のISO/IEC 29112 CD案に対して審議し、次のような結果となった。

① ISO/IEC 24790 CD案の審議

- ・各国の意見に基づいて改定したISO/IEC 24790 CD案の変更内容を説明し、完成度が高まったことは了解されたが、11月までにFCDとして提出するには、米国発の測定方法の開発遅れ、検証ツールの準備遅れなどにより、各国が合意できる適合性目標値がFCDに必要な時期に開発できないことが確認された。
- ・ISO/IEC 24790の今後の進め方として、日本だけで適合性目標値を開発しFCDとして投票にかける第1案、適合性検査部分を削除してFCD化する第2案、技術仕様書(TS)として登録し完成後にIS化する第3案を提案して、議論した結果、WG4としては、ISO/IEC 24790をSC28の投票によってTSとすることを推奨することになった。
- ・SC28総会でISO/IEC 24790のTS化がSC28として承認され、国際幹事にその手続きをとってもらうことが決議された。(Resolution19)

② ISO/IEC 29112 CD案の審議

- ・解像性測定方法の検証実験として、実際の印刷サンプルを用いたラウンドロビン評価の結果を検討した。現測定方法では、チャートの不備により測定ができない属性がある、使用するスキャナにより結果が大きく異なる、現状のISOチャートではスキャナの空間周波数補正が適切に行っていない可能性があるなどの不具合が指摘され、再びラウンドロビン評価を行うことが必須であるため、ISO/IEC 29112をTSに変更することが提案され、SC28への要望として総会に提案することが決議された。
- ・SC28総会でISO/IEC 29112のTS化がSC28として承認され、国際幹事にその手続きをとってもらうことが決議された。(Resolution20)

③ その他

- ・米国よりマクロ均一性とテキスト品質に対するINCITS W1.1の2つの規格開発活動の状況説明を受けた。

・SC 28/WG 4 サンフランシスコ会議

2011年1月に米国サンフランシスコとサンノゼで開催されたWG4国際会議で、当WG担当のISO/IEC DTS 24790案、韓国担当のISO/IEC DTS 29112案に対して審議し、次のような結果となった。

① ISO/IEC DTS 24790案の審議

- ・ISO/IEC DTS 24790案については、中国(10項目)、オランダ(24項目)から事前にコメントを受けていたので、国内委員会で対応策を協議のうえ用意した修正案に、直前に米国から提出されたコメント(39項目)への対応を加えた修正案を説明した。現行ISO/IEC規格で一貫性のなかった反射率閾値、エッジ境界などの定義を整理して提案したことで、国際WGから歓迎を持って承認された。その他、規格中の用語定義について詳細な議論を行い、

修正案文の候補を作成した。

- ・ DDCP を使った新しいコンフォーメンスチャートについて説明し、各国に配布した。
- ・ 開発の遅れていた **Banding** 測定方法の測定ツールが提供され、それに沿った規格案文も提出され、全ての画質属性の測定ツールが準備できた。

② ISO/IEC DTS 29112 案の審議

- ・ ISO/IEC DTS 29112 案については、日本からのコメントに対する対応を協議し、案文を修正した。また、用語定義について詳細な議論を行い、修正案文の候補を作成した。
- ・ それぞれの規格の技術的検証作業のための評価ツールは、全体の半分ほどが用意され、用意されたツールについて、使用法が説明された上で各国へ配布された。次回の **Web-conference** までに、まずは動作確認を行う。その後評価実験の進め方について検討する。

2) 国内活動状況

WG4 国内委員会は、当 WG 担当の ISO/IEC 24790 開発を主要テーマとして、ISO/IEC 29112 規格開発の検討等に参加してきた。WG4 国内委員会は 11 回開催され、下記のテーマに関して検討した。

① ISO/IEC 24790 「モノクロハードコピーの画質属性測定法」の開発

・ ISO/IEC PDTS 24790 規格案の作成

ISO/IEC 24790 は、日本だけで決めた適合性目標値を埋めたものを FCD として提出し、投票に入ってからその値を修正する予定で、ロチェスター総会で提案する CD 案を準備したが、総会前の Web 会議で、米国から、自動キャンセルが近づいている ISO/IEC 24790 と 29112 は、TS として登録し、内容が完成できたら ISO として登録するプロセスをオプションとして検討したらどうかとの提案があり、TS 化も含めた今後の進め方を検討した。総会時の WG4 国際会議では、各国の意見に基づいて改定した ISO/IEC 24790 FCD 案を説明したが、前述したように、TS として登録し、完成後に IS 化することになった。

総会後は、CD 案の TS 化作業を開始して、9 月 30 日に ISO/IEC DTS 24790 の第一案をコンビナ (Dr. E.Zeise) と杉山国際幹事に送付した。その後、規格協会による詳細な指摘に沿って DTS 案を修正し、10 月の Web 会議で説明し、各国のコメントを 10 月 27 日に開催する特別 Web 会議の前日までに提出してもらうことにした。特別 Web 会議で米国と日本 (18 項目) のコメントを反映し、改訂案を DTS 案として国際幹事に提出することを日本から提案し、各国の承認が得られ、10 月 31 日にコンビナから国際幹事に提出され、TS プロジェクトが成立した。

ISO/IEC PDTS 24790 に対しては、画質属性の一部を開発している米国から測定方法の規格内容の提案があり提案に沿った修正を実施するとともに、中国 (10 項目)、オランダ (24 項目)、米国 (39 項目) から提出されたコメントへの対応を加えた修正案を 1 月のサンフランシスコ会議で説明し、詳細を審議し、検討内容に従って修正した案を Web 会議で確認後に TS 確定案として SC28 に提出する。

・ コンフォーメンスチャートの作製と目標値設定

昨年、コンフォーメンスチャートの表面性がスキャナによる測定値のばらつきを大きくしていることが判明し、チャートの表面をラミネートする方法を検討したが、ラミネートはしないで改良した方が良いという結論となり、新規方式を検討した。デジタルデータから各社でチャートを試作し、そのチャートの品質を測定し、コンフォーメンスチャートの仕様を決定する方法を実施し、Color Decision II で OK トップコート紙に出力されたサンプルを選定

し、サンフランシスコ会議で日本での各社スキャナによる測定結果を報告し、各国にパフォーマンスチャートとして配布した。

・ **ISO/TC130 国内委員会の DP 分科会とのリエゾン**

TC130 国内委員会の DP 分科会から当委員会に ISO/IEC 24790 に関してリエゾン関係を構築したいとの依頼が 10 月 5 日に出され、SC28 国内委員会で、これまでの背景を説明し、デジタル印刷機を対象に画質測定規格のパートを追加することの重要性が確認され、基本方針としては、日本の国益のために協力して進めることが重要であり、特に文書を交わす必要がなく両委員会は協力すれば良いことが了承された。TC130 国内委員会 DP 分科会から WG4 委員会として一名参加。

② **ISO/IEC 29112 「モノクロレーザープリンタの解像力決定方法」の検討**

総会前に、ISO/IEC 29112 CD 案と測定方法検証実験の状況を考慮して ISO/IEC 29112 の今後の進め方を検討し、ISO/IEC 29112 は、今のままでは自動キャンセルは必至なので、TS 化は現在の状況に対しては良い対策だと思われることから、総会前の WG4 国際会議で、ISO/IEC 29112 の TS 化の提案があれば、賛成することになった。総会では、ISO/IEC 29112 の TS 化が SC28 として承認された。

その後、ISO/IEC DTS 29112 案が作成され、11 月 10 日に、ISO/IEC DTS 29112 案の集中審議を特別 Web 会議で実施するというので、前日に WG4 委員会を開催し、検討した結果を 50 項目のコメントとして提出した。改訂案は、Web 会議で承認が得られ、11 月 27 日にコンビナから杉山国際幹事に提出され、TS プロジェクトが成立した。その後、SC28 内でのコメント要請が出されたので、修正版をチェックし、提出した 50 項目のコメントは、殆どが反映されていたが、一部反映されていない点と新たに見つかった点を JNB コメントとして、提出した。

(2) **今後の課題**

平成 23 年度の課題は、ISO/IEC TS 24790 発行までの課題と、ISO/IEC 24790 開発のための継続課題とが挙げられる。

- ① 2011 年 12 月 11 日までに ISO/IEC DTS 24790 を登録。その後の投票、TS 原案承認までのフォロー。
- ② 面画質属性測定プログラムの開発推進と、適合性試験チャートを用いたスキャナ適合性評価の参加。各国による実施と各国での評価結果をベースとした画質測定方法のロバストネス評価、及び適合性目標値の設定方法の検討。
- ③ 各国で合意された方法による、文字・ライン画像の画質属性 7 項目とグラフィック画像の画質属性 7 項目に対する、測定機器認定用目標値の設定。
- ④ ISO/IEC 24790 規格内容のレベルアップと DIS 登録に向けた活動計画の策定。
- ⑤ ISO/IEC DTS 29112 の登録、TS 化に向けて内容を検討し、測定能力検証実験に協力する。

(1) 活動概況

1) 国際会議

設立時に日本が積極的に提案活動をしていたことにより、SC28のWGとしては初めてWG5の主査(幹事も)を日本で引き受けている。

現在活動中の案件は

- ・TR Type-3 Test Method of Colour Gamut Mapping Algorithm for Office Colour Equipment. は2009年3月にNP投票が成立し、プロジェクト29186として承認された。現在DTRのステージである。
- ・Colour terminology for office colour systemsのStage0の提案を2010年6月のロチェスタ・プレナリーにて実施した。
- ・提案されている14項目の新規課題項目、ロードマップ(標準化スケジュール)作成、次期Stage0提案項目を検討している。

本年度のWG5の会合、参加者は以下のとおりである。

- ・ミラーサーバーによるバーチャル会議(2010年10,11月):6ヶ国、16名参加
- ・ロチェスター会議(2010年5月):4ヶ国、12名参加
- ・サンノゼ会議(2011年1,2月):4ヶ国、13名参加

2) 国内活動状況

本年度は国内対応委員会WG6を5回実施し、国際WG5国際会議の事前検討、結果報告と、他の標準化機関のカラーマネジメント関連標準の情報交換と対応を行っている。

なお、次年度からは国際会議とWGの番号、タイトルを合わせて、国内WGもWG5(オフィスカラー)と変更する予定である。

(2) 今後の主要課題

TR29186の標準化と、次期NP提案、Stage0提案の候補の絞り込みなどをロードマップに従い実施していく。

(1) 活動状況**1) 国際会議****(WG2 米国ロチェスター会議 : SC28 米国総会)**

フォトイールド国際標準に関するWGは2010年6月7日に行われ、日本からは3名が出席した。最初に討議されたISO/IEC CD29102 (フォトイールド測定法) については、例示の誤記訂正など日本が修正提案したすべての項目が採用されCDが変更された。

次に討議された ISO/IEC CD29103 (フォトイールド・テストチャート) については、色ごとのインク使用量に大きな相違が発生しないよう、カラーバランスを整える写真を採用すること、また、サムネイル化で実写真と大きなイールドの差異が生じないように縮小方式を採用することを日本から提案していたが、これらが受け入れられて CD が改訂された。

その後の総会では、29102/103 とも7月末までに FCD 投票のために登録することが決議された。

2) 国内活動

本年度国内の WG7 は 4 回開催し、下記の通り活動した。

a) カラーフォトイールド測定方法 (ISO/IEC FCD29102)

CD 投票時に送付した日本からの修正案がすべて受け入れられたため、FCD 案については特にコメント等なく賛成投票を行った。その後 US より、公表時の単位がカラー文書イールドと同じでは、ユーザーの誤認や混乱を招く可能性があるとして、フォトイールドの単位は「page」から「photo」に変更する提案がなされ各社で検討した結果、日本としても賛成した。

b) フォトイールド・テストチャート (ISO/IEC FCD29103)

各社で候補写真の印刷カラーバランスや、サムネイル作成時の縮小方法による縮小前実写真とのインク使用量の違いを検証し、採用する写真や縮小方式を日本から提案した。これらが受け入れられて CD が改訂されたため、FCD 投票では技術的課題は無かったものの、チャートの画素数に誤記があったため、修正意見を提出し採用された。現在 FDIS 投票が開始されている。

(2) 今後の主要課題及び予定

カラーフォトイールド測定方法については、FDIS 投票の開始を待っているところであり、技術的な課題は無く賛成投票する予定である。また、フォトイールド・テストチャートについても、技術的な課題は解決して既に FDIS 投票が開始されており、こちらも賛成投票を行う予定である。

2011年6月：WG2 中国会議 (SC28 中国総会時) 1名出席予定

(1) 活動概況

NP29142 : Cartridge Characterization (カートリッジ特性 : 米国提案) は、2007 年 12 月に NP が採択され審議が開始された。その審議に対応するため 2009 年 1 月に独立した WG として設置された (SC28 国内委員会で承認)。それ以前は、Cartridge Characterization (カートリッジ特性) 対応グループとして活動していたが、SC28 国内委員会の正式 WG となったことにより、活動方針、体制も明確になり効率的な活動が可能になった。

国内委員会 (29142WG) として、29142 国際プロジェクト (NP29142) への対応を協議、決定する場としての「全体会議」、全体会議に提案する原案作成ほかをおこなうための、各パートリーダーをメンバーとした「リーダー会議」で構成されている。

2010 年 6 月現在で 11 社より、44 名の委員がメンバー登録されている。規模の大きな委員会であるため、全体会議での詳細議論は難しい面がある。必要に応じて以下の 5 つの Part ごとにグループ会議をおこない具体的な内容審議をすすめている。29142 の構造に対応した、Part1 : 一般 : 用語、記号 (General : Terms, Symbols and Notations)、Part2 : 標示 (Labeling)、Part3 : 環境 (Environment)、Part4 : インクカートリッジ特性 (Ink cartridge attributes)、Part5 : トナーカートリッジ特性 (Toner cartridge attributes) の 5 つのグループで構成されている。

グループ会議の審議結果を全体会議に諮り、WG としての意見を集約、日本の意見として NP29142 の Main editor (NP 提案元の米国) に提出している。全体会議では「各 Part から提出された意見が全体の審議の方向と一致しているかなど、日本としての意見をまとめる」についての議論を重点におこない、合意形成をはかっている。

・ 2010 年度 (平成 22 年度) の審議経過

2010 年 4 月上旬に、Part1, 2, 4, 5 については WD2 修正案が提出された。Part3 : 環境については、3 月中旬に WD 改定版 (原案) が Main editor (米国) から Assistant editor (日本) に提案され、国内審議の後コメントを提出した。5 月中旬に日本の意見をほぼ反映した WD2 が Main editor (米国) から示された。以下に、WD2 への日本の対応を整理した。

Part1 (用語) : WD1 からの大きな変更点はなく、用語が一部整理され、カートリッジの定義が明確に記述された。

⇒日本からは特に反対意見は無い。

Part2 (標示) : 論点であった、cartridge identifier、Cartridge label、Cartridge declaration、Cartridge attribute checklist、Customer report、Technical report について整理が進んだ。

⇒日本からは特に反対意見は無い。

Part3 (環境) : 基本的にカートリッジそのもの環境特性に言及するのではなく、カートリッジの環境関連標準を開発する場合に、参照すべき既存標準の例と記述方法、あるいはカートリッジのライフサイクルにおける環境特性について記載したものに変更された。

⇒事前に国内意見も反映し Editor 間の調整を経ていたため、日本からは特に反対

意見は無い。

- Part4 (インク)** : 従来の考え方が大きく変更になり、特性には Yield のみが採録された。
⇒日本からは、Yield の記述もやめ、インクカートリッジに関する標準開発の際に参考すべき内容の記述のみにとどめたい、という意見が出た。
- Part5 (トナー)** : 従来の考え方が大きく変更になり、特性には Yield のみが採録された。
⇒日本からは特に反対意見は無いが、本当に Yield のみの記述で良いのかどうかの議論が続いた。

2010年6月の SC28 Plenary 会議 (Rochester (NY) USA) に併設して開催された WG2 会議での 29142 会議 (WG2 の他の案件とは分離して開催) では、Part1 から Part5 の全パートについて議論が行ない、以下を決定した。

- ・ 29142 Part1, Part3 は、WD2 を Editor 間で修正合意の上 CD 登録する。
- ・ Part 2, 4, 5 については、開発期間を 18 か月延長してもらえるよう ITTF との交渉を SC28 に依頼する。→ Part1, Part3 についても同じく開発日程の遵守が厳しいため、18 か月の延長を要請することを Plenary 会議で決定。

29142 の会議では、Part ごとに以下のような審議が行われた。

- Part1 (用語)** : 日本からのコメントを中心に議論が行われ、多くが採択された。特に問題となる残存項目は無い。ドラフトを修正のうえ CD 登録することで合意。
- Part2 (標示)** : チェックリストに関する議論が合意に達しなかったために、CD への登録合意形成は見送られた。Part4, Part5 で取り上げる Attribute が Yield のみの状態でのチェックリストの役割が不明確、あるいは、Part3 の結果についてどのように表現するかなど、まだ議論ができていないことがあるため、継続審議することとした。また、一見決着したかのように見えているが、カートリッジにリフィルする際の OEM 製品のオリジナル商標をどのように隠すのかという点について、議論が行われたが結論を出すには至らなかった。
- Part3 (環境)** : WD2 へのコメントについての議論をおこなった。日本からの意見が最も多かったため、日本コメントへの対応を重点に議論した。その際に、韓国、中国などから関連の意見も出されたが、むしろ日本コメントへの賛同意見が多かったため、特に問題となることは無かった。Part3 は、フレームワークのみを記述した標準の形態をとっているが、Part2 にどのような情報を受け渡すかと言うことについての議論は不十分と言える。しかし、ドラフトを修正のうえ CD 登録することを合意した。
- Part4 (インク)** : 基本的に米国 Main editor から、フレームワーク標準をめざす、Attribute は Annex に追加することができる、という説明があった。現時点で Yield しか対応できる測定法しかないが、すでに存在していて測定法も決まっているものについては、Part4, Part5 で規定した試験手順を採用しなくても良い、という事になった。今後の Attribute 開発については不明確なままで、追加適用できるものが無いという可能性もある。いずれにしろ、会議の時間配分のまずさもあり、Part4, Part5 では十分な議論をする余裕が無かった。次回会議 (2010 年秋の開催を予定) で審議を続けることとした。
- Part5 (トナー)** : Part4 と同じ

2010年9月のJTC1投票の結果、29142の開発期間の18か月延期が承認された。

2010年9月に日本から29142標準の構造変更に関する提案をおこない、2010年Vienna会議での審議を要請した。特にPart2に記載されていたチェックリストについて、Part2にはフォーマットと記述方法のみを記載し、チェックリストを採用するPart (Part4とPart5を想定) では、Annex Aにチェックリストを載せ、Annex B以降に具体的な特性項目を記述するという内容を提案した。

2009年11月の29142 editors 会議 (Vienna (Austria)) では、以下の内容について合意した。

- ・ Part1 : 2011年2月にCD1提出
 - ・ Part2 : 2011年2月にWD4提出 (2011年8月にCD1提出)
 - ・ Part3 : 2010年12月にFCD提出 (投票に移行)
 - ・ Part4 : 2011年4月に次版のWD提出
 - ・ Part5 : 2010年4月に次版のWD提出 の予定で進める。
- ・ 次回会議は、2011年6月のSC28 Plenary 会議直前に中国・杭州で実施する。

Part1 (用語) : 米国から提案された、Part 4 と Part 5 に記述されていた、フレームワーク部分を Part 1 に移行するという提案について審議し、基本的合意ができた。新品と再生品をどう区別するかと言う問題については、さまざまな議論が交錯したが、プリンターベンダーとリフィルメーカー間の議論は収束することができなかった。最終的には次回の会議 (2011年6月・中国) で結論を出すことで合意した。

Part2 (標示) : 米国と日本のコメントなどを確認。”・6.2.5 Used product return and collection program identification”に関し、米国から、回収カートリッジの処理をどのように行っているか ((1)部品として再利用、(2)材料として再利用、(3)焼却による熱エネルギー回収、(4)単なる焼却、(5)埋め立て) について明確な記述をすることが提案された。「回収したカートリッジの重量に対し、それぞれの処理結果を実際の重量で示す」という提案であり、リフィルメーカーの反応に注目が集まったが、全く問題ないということで基本的には次版のドラフトに反映することとした。その他ラベルへの表記内容等についての議論をおこない、基本的な合意を得た。

Part3 (環境) : WD2について、提出されたコメントを中心に審議を行い、ほぼ基本合意ができたため、2010年12月にFCDを提出し投票に移行することを合意した。

Part4 (インク) : フレームワーク部分を Part1 に移行することになり、構造に大幅な変更があったこ

とから、討議はWD4が出てきてから実施することで合意。

Part5 (トナー) : Part4 と同じ

2011年1月に米国 Main Editor から Part 3 (環境) の FCD 原案が提出され (日本側で事前チェックを実施) 国際投票に移行した (2011年5月に投票終了予定) 。

1) 国際会議

- ・WG2 会議（2010 年 6 月の SC28 Plenary 会議（Rochester（NY）USA）に併設開催）

以下の内容を会議で決定（詳細は前項参照）

- ・Part1、Part3 は、WD2 を Editor 間で修正合意の上 CD 登録する。
- ・Part 2、4、5 については、開発期間を 18 か月延長してもらえよう ITTF との交渉を SC28 に依頼する。→ Part1、Part3 についても同じく開発日程の遵守が厳しいため、18 か月の延長を要請することを Plenary 会議で決定。

- ・WG2 会議（2010 年 11 月：Vienna（オーストリア））

以下の内容を会議で決定（詳細は前項参照）

- ・Part1：2011 年 2 月に CD1 提出
- ・Part2：2011 年 2 月に WD4 提出（2011 年 8 月に CD1 提出）
- ・Part3：2010 年 12 月に FCD 提出（投票に移行）
- ・Part4：2011 年 4 月に次版の WD 提出
- ・Part5：2010 年 4 月に次版の WD 提出 の予定で進める。

- ・次回会議は、2011 年 6 月の SC28 Plenary 会議直前に中国・杭州で実施する。

2) 国内活動状況

本年度の国内 29142WG は 5 回開催し（全体会議の準備のためのリーダー会議は 6 回開催）、2010 年 6 月の WG2 会議（29142 Editors 会議：Rochester（米国））、2010 年 11 月の WG2 会議（29142 Editors 会議：Vienna（オーストリア））での検討に対応するための審議を主に行った。

(2) 今後の主要課題

2011 年 6 月開催予定の杭州（中国）Plenary 会議に併設開催される、WG2 会議で審議予定の本標準の骨格である Part 1 の CD 化に向け作成される CD1 への対応、Part 2 の WD4 への対応を事前に行なう。また、Part 4、Part 5 については、試験方法につながる特性を標準に記述するのかどうかを含め杭州会議前に日本の意見を提出し、会議での議論ができるような準備をすすめる。

(3) 今後の国際会議参加予定

- ・2011 年 6 月開催 WG2 会議（杭州（中国））SC28 Plenary 会議併設
29142 国際プロジェクト Assistant editor： 5 名
（国内委員会（29142WG）主査は、Assistant editor 兼務のため合計 5 名）
- ・2011 年秋 WG2 会議（10 月 - 11 月開催：場所は未定）
29142 国際プロジェクト Assistant editor： 5 名
（国内委員会（29142WG）主査は、Assistant editor 兼務のため合計 5 名）

- ・過去の審議経過（参考）

2008年6月・WG2会議（SC28 Plenary 会議（Böblingen（ドイツ））に併設）

プロジェクト体制の決定、Scope 原案の審議のみが行われた。2008年10月のWG2会議（29142 Editors meeting: Lexington (KY) USA）では、標準の骨格にあたる Scope の議論、主要用語の定義づけが行われた。Scope へのコメント、とりあげるべき試験法、用語、参照環境関連標準の抽出は各 NB に宿題として出された。2008年12月末に、Part4：インクカートリッジ、Part5：トナーカートリッジのそれぞれの試験法（案）を提出した。日本からは、Yield 試験のみの採用を提案した。また、2009年1月末に取り上げるべき用語（日本案）を提出し、同3月末には各 Part の Scope に関する意見も提出した。

2009年6月・WG2会議（29142 Editors meeting: SC28 Plenary 会議（Busan (Korea)に併設）

Scope については細部の未確認項目はあるが、大筋での合意がはかれた。また、試験法については、各国から提案された項目について議論を行ったが、採否の明確な判断基準がないものに対し、米国から「カートリッジの寄与率が>50%」という条件をつけたいという提案がなされた。合意のできなない試験法については、各国が持ち帰り、国内で審議のうえ「寄与率が>50%」の合理性も含め意見提案することとした。

以下の日程で標準化をすすめる予定を合意した。

- ・2009年8月：エディター間で合意した 1st WD 作成
- ・2009年10月：NB コメント提出
- ・2009年11月：29142 editors 会議：Vienna（Austria）開催で 2nd WD を完成
- ・2009年12月：2nd WD に対する各 NB のコメント提出
- ・2010年4月：NB コメントをもとに WD を修正、1stCD を回覧

また、29142 Editors' meeting で CD 登録の期限を 2010年12月に1年延期することを SC28 Plenary 会議で提案し承認された（当初計画よりも審議が難航し、2年間では CD 登録が困難であることが判明したため）。その後、SC28 Secretary から ITTF に申請し受理された。

さらに、2009年8月に Part3（環境）の Assistant editor として平井氏（リコー）が SC28 より追加指名された。これで、全 Part に日本から Assistant editor としての参加が可能になり、日本の意見反映を容易にする体制が整った。

2009年11月 29142 editors 会議（Vienna (Austria)）

2009年10月に Main editor から提出された WD に基づきを開催し、具体的な標準原案の審議をすすめた。各 Part の Scope についてはほぼ合意に達し、記述内容（本文）の審議をすすめた。しかし、Part3（環境）については、どのような内容（レベル）の標準にするか、ということについての合意形成ができなかった。Main editor が持ち帰り、12月末を目標に修正案を提出するという計画が非公式に示された。やや遅れたが、Main editor から3月末に修正案が提出された（Part1, 2, 4, 5）。

Part1 では、本標準の用語、あるいは適用範囲などを規定しているが、最後まで議論になったカートリッジの定義については「・・・operating with・・・」という用語を使用することで、「プリンターの動作時に装着されているものをカートリッジとする」という明確な基準が設けられ、共通の理

解に至った。Part2 のラベルについては、「Declaration」として製品に添付する情報、「Customer report」として Web サイトなどで公開する情報、「Technical report」としてユーザーからのリクエストに応じて公開する情報の 3 種に分けたことで整理がすすんだ。

1-5 SC 35 (ユーザインタフェースインタラクション : User Interface Interaction)

委員長 山本 喜一 (慶應義塾大学)

(1) 活動概況

- ・ 国際 SC 35 では、7つの下記 WG において規格化活動が行われている。幹事国/議長国はフランスが務め、日本は2つの WG のコンビーナ (WG 2 : 山本喜一, WG 4 : 中尾好秀) を務めている。
- ・ WG 1 : キーボード及び入力インタフェース
- ・ WG 2 : グラフィカルインタフェース及びインタラクション
- ・ WG 4 : モバイルデバイスのインタフェース
- ・ WG 5 : 文化的及び言語的適合性
- ・ WG 6 : ユーザインタフェースアクセシビリティ
- ・ WG 7 : ユーザインタフェースのオブジェクト, 動作及び属性
- ・ WG 8 : 遠隔インタラクションのためのユーザインタフェース

国内では、WG 5 及び WG 8 を除く WG の審議は JBMIA, SC 35 (WG 5 及び WG 8 含む) の案件審議は情報処理学会という形式で審議を行っているが、実質的な審議は JBMIA 内で WG との合同委員会において行っている。

また国内 WG については、WG 1, WG 2(WG 7 の案件を含む), WG 4, WG 6, WG 8 の5つが組織されており、その WG でそれぞれの案件を審議している。尚、WG 5 については SC 35 専門委員会に対応している。

平成 22 年度は、ISO/IEC 9995-3(Keyboard layouts for text and office systems -- Part 3)及び ISO/IEC TR11581-10(User interface icons - Part 10: Framework and general guidance) の2件が出版された。

又、以下の国内委員会の審議、国際会議へ参加する事により SC 35 国際標準化の推進を図って来た。

(1) 国内委員会

平成 22 年度は、SC 35 専門委員会及び WGs 合同会議を 12 回 (原則として月 1 回) 実施し、NP 10 件、CD 2 件、FCD 1 件、FDIS 1 件、FPDAM 1, PDTR 2 件の合計 17 件の投票を行った。

(2) 国際会議

SC 35 国際会議総会は各 WG 会議と合同で行っており、平成 22 年度は 2 回開催された。

平成 22 年 8 月 23 日～27 日 イタリア ベニス市

平成 23 年 2 月 21 日～25 日 米国 ベルビュー市

日本からは、イタリア会議へは山本(慶大)、池田(千葉大)、中尾(JBMIA)、関(産総研)、中野(JBMIA)、野村(日立)、大野(JBMIA 事務局)の 7 名、米国会議へは、事務局を除くエキスパート 6 名が参加した。米国会議は General orientation meeting (GOM) として開催された

が、実質的には総会と同じである。本年度末のプロジェクトの進捗状況を(表1)に示す。

(2) 各 WG の審議状況

SC 35 としては、上記のとおり平成 22 年度合計 17 件の投票を行った。各 WG については、対応国内 WG の活動報告に述べるが、国内で未組織の WG 5 及び情報処理学会組織の WG 8 の審議状況は下記となっている。

(1) WG 5

WD TR 20007 "Information technology -Cultural and linguistic interoperability -- Definitions and relationship between symbols, icons, animated icons, pictograms, characters and glyphs"の作業進行がベルビュー会議で決議されたが、UNICODE コンソーシアムとリエゾンをとって進めることになった。この件は、日本としては静観の態度であるが何らかの問題点が生じないように見守る必要がある。

ボイスコマンドに関する NP が承認された後には、国際では WG5 が主体に作業を行うことになったが、国内では WG 6 が主体で作業する予定である。

(2) WG 8

計画していた IS の出版がすべて終了した。本年度は実質的な活動は行われなかったが、新規案件が出てきたので、その対応が必要となる。

(3) 今後の主要課題

アクセシビリティに関する関連規格として JIS X 8341-2 対応の規格案(ISO/IEC 29136)の作成を行ったが、本年度には FCD 投票の開始まで進めた。来年度以降、出来るだけ早くの IS 出版に向けて引き続き努力する。

(4) 特記事項

SC 35 においては日本が 2 つの WG のコンビーナを務めるとともに、3 件のプロジェクトでプロジェクトエディタを務めている。今後さらに SC 35 における日本からの国際的な活動が期待されている。特に、アクセシビリティ関連の規格については日本からの更なる貢献が期待されている。

日本の池田名誉教授がプロジェクトエディタを務めている Information technology — User interface icons — Part 40: Management of icon registration の FCD は反対票なく承認されたが、多言語機能に関する事項(参考)を追加して FDIS 投票に付されている。これまで、アイコンデータベースのプロトタイプを作成して評価してきたが、今後は、IS の出版と共に VT 11581 を立ち上げることが予想されるので、本番の DB を運用する体制を整える必要がある。

今年度本格的に活動を開始した、ISO/IEC 13066, Information Technology — User interfaces — Interoperability with assistive technology については、WG 6 で扱うことになったが、マルチパートで対象範囲が極めて広く、作業文書が出てきた時点で国内での審議体制を強化する必要がある。

(5) 平成 23 年度国際会議予定

平成 23 年 8 月 29 日～9 月 2 日	ポーランド	ワルシャワ市
平成 24 年 2 月 20 日～24 日	日本	京都市

(1) 活動概況

WG 2 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 22 年 8 月 23 日～27 日	イタリア	ベニス市
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国	ベルビュー市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

ベニス会議

- WG 1 は 2010 年 8 月 23 日午後～ 25 日午前まで 3 日に渡って開かれた。
- FPDAM1 9995-7 投票結果と FPDAM への手続き
投票は可決し、SC 35 が提案するシンボル(N1575)を TC 145/SC 3 に送付し、登録されて後、N 1575 を FDAM 投票に付す。(Resolution 2010.41)
- WD 9995-9– Multilingual-usage, multiscript keyboard group layouts については目標日程を以下のように延期する。CD 登録を 2011 年 2 月会議後、DIS 投票を 2011 年 8 月、FDIS を 2012 年 8 月。(Resolution 2010.42)
- NP 9995-10"Conventional symbols and methods to represent graphic characters not uniquely recognizable by their glyph on a keyboard and in documentation"投票結果から N 1576 文書を FCD 投票とする。(Resolution 2010.43)
- TR 15440:2005, Future keyboards and other [associated] input devices and [related] entry methods の改訂
SC 35 は議長と Keld 氏に、前回決議 (決議 2010.6: 各メンバボディは現状の TR 15440:2005 をレビューする。そのレビューはプロジェクターキーボード、インターネットアクセス機器、自動車のハンズフリー電話への応用、手書き文字入力などの新しいトレンドも含めたものとする) に基づく要素を参考に して新草案を作成し、WG 1 メーリングリストに回付し、WG 1 メンバーはコメントをする。中国、日本、韓国にはそれぞれの入力方法に関する情報を提供するように要請する。他のエキスパートも決議 2010.6 に対する 寄書を奨励する。(Resolution 2010.44)
- PC の仮想テンキーマットについて、ドイツの 9995-2 改定要求
基本的にはドイツ国内委員会の意見を受け入れ、検討のベースを最初は DIN 2137-1 2 とする。9995-2 のエディタである Alain 氏は WD と NP をつけ 2010 年 10 月 31 日までに NP 投票のために セクレタリに送付する。(N 1580 参照) (Resolution 2010.45)
- 10646 に対する 寄書
SC 35 は N 1579 (SC 35 からの レゾン 寄書) を SC2/WG 2 に、10646 に 9995-7 シンボルを符号化文字として含めるように要請する。(Resolution 2010.46)
- ISO/IEC 10646 と 9995-7 との書状
Karl 氏が 9995-7 と 9995-10 のシンボルと 10646 文字を改訂するように書簡を用意する。目的は公開文書に反映後改訂するためである。(Resolution 2010.7)
- フォントの公開
9995-7 アmendメント 1, 9995-10 で用いられるフォントを SC 35 公開サイトから無料でダウンロードできるように Karl 氏に要請する。(Resolution 2010.48)

10. 韓国提案のナビゲーションのための共通ジェスチャ

WG 4 と WG 1 の合同 WG (8月24日)

・韓国代表がマウスジェスチャのプレゼンを行い、審議を行った。韓国提案のジェスチャは、マウスを用いて Web ページの画面を操作するためのジェスチャで、18 個のジェスチャ標準化を提案した。

・ISO/IEC14754 で標準化しているペンベースジェスチャとの整合を取る必要がある。

・タッチパネルを用いるジェスチャも含めた複数パートで構成する標準規格を作成する必要があるなどの提案があった。

・「マウスジェスチャとペンや指ジェスチャとは、デバイスが異なるので別々の標準規格を考えるべき」との意見を述べた。

・27 日の総会でジェスチャコマンドに関して以下の Resolution が決定された。

Resolution 2010.49: Korean NP on gestures for navigation (WG 1)

SC 35 requests its Secretariat to send document N 1578 for NP ballot "Navigation gestures common between mice, touch pads, touch screens, tablets and similar devices". SC 35 also kindly invites in the meanwhile the Japanese national body to cooperate with the Korean national body to prepare the first draft, minimizing inconsistencies with ISO/IEC 14754, and considering eye-tracking and other input methods.

・「マウスとタッチパッドなどを含めたジェスチャコマンド標準化は難しい」との日本からの意見の結果、日本委員会が NP 提案の表題やスコープについて検討し、韓国委員会と協力して NP 提案文書を作成することが決定された。

11. TR 20007 - Definitions and relationship among symbols, icons, animated icons, pictograms, characters and glyphs (WG 1 and WG 5)

SC 35は幹事国にN 1581を章番号は付与した上で、SC 2/WG 2, TC 145/SC 3 と IEC TC 3/SC 3Cに寄書の可能性として送付する。(Resolution 2010.52)

12. 4方向キー : WG 4 と WG 1, 6 の合同 WG (8月25日)

4方向キーの NP 提案及びWD について池田主査がプレゼンを行い、スコープについてコメントが出された。それらのコメントにより NP 提案のスコープを修正し、WD を付けて NP 提案を SC 35 事務局へ提出した。26 日に事務局が NP 投票を開始した。

投票の締め切りは、3 ヶ月後の 11 月 26 日。

ベルビュー会議

Alain コンビーナが WG 1 を 2011 年 2 月 21 日午後開催した。WG 1 会議とその決議を以下に紹介する。

1. WG 1 は 2011 年 2 月 21 日午後～ 24 日午前まで 3 日に渡って開かれた。
2. FPDAM1 9995-7 と 9995-10 についてシンボル登録のルートは ISO TC 145 ではなく IEC SC 3C 池田名誉教授のルートで申請する。変更の理由は ISO ルートが待ち行列で遅滞しているためである。なおデータベースは共通であり、SC 35 は ISO, IEC のジョイントの一環であるためこのような解決策を得ることができた。
3. ジェスチャの NP は承認され、4 月 30 日までにエディタの韓国エキスパートは WD を WG 1 内に回付し、コメントを求め、CD 登録を目指し、次回会議後に CD 投票が可能にする。エディタは Dr. Hyuk Jeong が承認された。
4. ジェスチャの NP は承認され、4 月 30 日までにエディタの韓国エキスパートは WD を WG

1 内に回付し、コメントを求め、CD 登録を目指し、次回会議後に CD 投票が可能なようにする。エディタは Dr. Hyuk Jeong が承認された。

5. 9995-9 WD は 3 月末まで WG 1 内で審議，その間セクレタリは ISO 様式に整える。コメントを盛りこみ 4 月中に CD 投票用に送付する。セクレタリは ITTF に 9995-7,9,10 用のエディタが提供したフォントが使用可能とするように要請する。
6. TR 15440:2005, Future keyboards and other [associated] input devices and [related] entry methods の改訂
Keld 氏は日本と韓国に 20 行程度の入力方法の文書の提供を求め，日本の入力方法を示した。
7. TR24784:2009 廃止
役割が終了したので廃止の投票を行う。

(3) 国内会議

- ・ ISO/IEC 9995-7 Amd.1 Information Technology – Keyboard layouts for text and office systems—Part 7: Symbols used to represent functions AMENDMENT 1 の FPDAM 投票を酸性として提出した。
- ・ PDTR-3, Universally available personal computing environment(on the internet)の NP 投票を賛成として提出した。
- ・ Information technology —Keyboard layouts for text and office systems — Part 2: Alphanumeric section – Amendment 1 : Numeric keypad emulation(9995-2 Amd1) の NP 投票を賛成として提出した。
- ・ New work item for a TR titled Specification method for cultural conventions の NP 投票を賛成として提出した。

(4) 今後の主要課題

通常のキーボードであらゆる言語を入力できるようにしたいとの WG 1, WG 5 の方策に対し，画面上の表示の標準化を含め検討していく必要がある。

(5) 特記事項

- ・特になし

(6) 平成 23 年度国際会議予定

平成 23 年 8 月 29 日～9 月 2 日	ポーランド	ワルシャワ市
平成 24 年 2 月 20 日～24 日	日本	京都市

1-5-2 SC 35/WG 2 (グラフィカルインタフェース及びインタラクション) 主査 中尾 好秀

(1) 活動概況

(1) WG 2 国際会議は，以下のように 2 回開催された。

平成 22 年 8 月 23 日～27 日	イタリア	ベニス市
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国	ベルビュー市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

ベニス会議

山本喜一コンビーナが WG 2 を 2010 年 8 月 23 日の午後に、WG 7 との合同会議として開催した。次の項目の審議し、下記の決議が SC 35 全体会議で承認された。

1. 前回の WG 2 マドリッド会議議事録の承認。当時の池田臨時コンビーナが内容を紹介し、修正無く承認された。
2. 国際規格 ISO/IEC 11581-40 (アイコン登録管理)。マドリッド会議決議に基づき、FCD に対する disposition of comments 及び FDIS テキストを SC 35 幹事に提出したが、FDIS 投票が開始されていない旨の報告が池田プロジェクトリーダーからあった。これに対して幹事は既に ITTF に送付済であるとした。間もなく FDIS 投票が開始されるものと思われる。
3. Validation Team の設置。ISO/IEC 11581-40 Ed.1 の FDIS が承認されたら、VT 11581 を設置し、メンバー募集を開始することを SC 35 Plenary に勧告することとした。
4. 技術報告 ISO/IEC 11581-1 (アイコン規格の構成)。DTR 投票の結果、TR が発行されることを確認した。
5. 国際規格 ISO/IEC 11581-10 (アイコンデータベースの構成要素)。FDIS が投票中であることを確認した。投票期限：2010-10-04。
6. 技術報告 ISO/IEC 11581-41 (アイコンデータベース構造)。PDTR 投票の結果が公表され(SC 35N1556)、我が国のみが条件付き反対であった。条件を説明したが受け入れてもらえず、編集上の意見を反映した DTR 投票にかけることになった。関連して、ISO/IEC TR 11581-41 に示すデータ構造のデータベースの引き受け先を探すことになった。

ベルビュー会議

WG 2 会議は WG 7 との合同会議として 2011 年 2 月 23 日に開催された。

会議時点で全てのプロジェクトが各国に回付中であったため、審議は行われず、進捗状況を確認するにとどめた。なお、1 年ほど遅延していた ISO/IEC 11581-40 の FDIS が投票に付されていることを確認した。

(3) 国内会議

- ・ DTR 11581-1 : User Interfaces Icons – Part 1: Introduction to and overview of icon standards の DTR 投票を賛成として提出した。
- ・ FCD 11581-10 : User Interfaces Icons – Part 10: Framework and general guidance の FCD 投票を賛成として提出した。
- ・ FCD 11581-40 : User Interfaces Icons – Part 40: Management of Icon Registration の FCD 投票を賛成として提出した。

*国内においては、WG 7 の審議案件は WG 2 で対応している。WG 7 では、アイコン規格の再構築を行うため 3 件の提案が承認されている。すべてのアイコンを統一した形式で定義し直し、日本から提案したデータベースで管理する計画で、今後とも日本は積極的に協力していく。

(2) 今後の主要課題

- ・ 日本提案のアイコン登録手順 ISO/IEC 11581-40 の FDIS 投票後の対応
- ・ WG 7 の 2 つの案件及び 11581 シリーズの見直しの審議

(3) 特記事項

- ・ IEC SC 3C“機器装置用図記号”の国内審議委員会との間に、PC 特殊機能キーの機能と図記号を検討する国内 JWG を設置し、関連した国際審議動向に即応できるようにした。

(4) 平成 23 年度国際会議予定

平成 23 年 8 月 29 日～9 月 2 日	ポーランド	ワルシャワ市
平成 24 年 2 月 20 日～24 日	日本	京都市

1-5-3 SC 35/WG 4 (モバイルデバイスのユーザインタフェース)

主査 池田 宏明

(1) 活動概況

(1) WG 4 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 22 年 8 月 23 日～27 日	イタリア	ベニス市
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国	ベルビュー市

(2) 国際会議の審議概要と主要成果

ベニス会議

- ・ WG 4 会議は、モバイルデバイスのニューワークアイテムとして検討を行っている 4 方向キーの PWI-NUIM(モバイルデバイスのためのニューユーザインタフェース)及びボイスコマンドの PWI-VC(ボイスコマンド)及び WG 1 と合同で会議を開催した。日本、韓国、カナダ、イタリア、フランス、英国の 6 ヶ国から 16 名の委員が出席し審議を行った。

- ・ PWI-NUIM の審議概要

PWI-NUIM コンビナーの中尾主査及び池田委員から日本の 4 方向キーインタラクション検討委員会が行った国内の携帯機器の調査結果及び実施予定のユーザビリティテストの概要を報告した。このユーザビリティテストの結果を踏まえて作成した NP 及び WD を審議した。この結果、NP が 2010 年 8 月 27 日から 11 月 26 日の期間、投票に付された。PWI-VC の審議概要

関主査から日本でのボイスコマンド検討委員会の調査結果及び今後の進め方を報告し審議を行った。審議結果を踏まえて NP が 2010 年 8 月 27 日から 11 月 26 日の期間、投票に付された。その結果、この新しいプロジェクトの審議に参加する国の不足となった。

ベルビュー会議

- ・ WG 4 会議は、WG 1、WG 5 と合同で会議を開催し、日本、カナダ、フランス、英国、スウェーデン、デンマーク、韓国の 7 か国から 20 名の委員が出席し、4 方向キー、ボイスコマンドの NP 投票結果の取扱及び、指ベースのジェスチャについて審議を行った。

- ・ PWI-NUIM (4 方向キー)

前回総会で NP 投票が決議され、投票が行われたが投票の結果、プロジェクトへの参加国が少なかったために承認されなかった。投票結果を確認した上で、投票時のコメントを踏まえて審議を行いタイトルとスコープを改正した。改正版の NP を 2011 年 3 月 15 日までに投票に回付することを決議した。

- ・ PWI-VC (ボイスコマンド)

前回総会で NP 投票が決議され、投票が行われたが投票の結果、プロジェクトへの参加国が少なかったために承認されなかった。投票結果を確認した上で、投票時のコメントを踏まえて審議を行いタイトルとスコープを改正した。改正版の NP を 2011 年 3 月 15 日までに投票に回付することを決議した。

(3) 国内会議

- ・ 「4 方向キー」標準化の予備調査として、平成 20 年 10 月に SC 35 国内専門委員会の委員が中心となって、「個人用移動通信装置の十字キーインタラクションに関する標準化調査研究」委員会（事務局は日本規格協会）を設立した。産総研でユーザビリティ調査を行い、平成 23 年 2 月に調査が終了した。

(2) 今後の主要課題

- ・ 「4 方向キー」の改正ニューワークアイテム提案を SC 35 事務局へ提出する。また、平行して WD を提出する。
- ・ 「ボイスコマンド」の改正ニューワークアイテム提案を SC 35 事務局へ提出する。また、平行して WD を提出する。

(3) 特記事項

- ・ 特になし。

(4) 平成 23 年度国際会議予定

平成 23 年 8 月 29 日～9 月 2 日	ポーランド	ワルシャワ市
平成 24 年 2 月 20 日～24 日	日本	京都市

1-5-4 SC 35/WG 6 (ユーザインタフェースアクセシビリティ) 主査 関 喜一

(1) 活動概況

平成 22 年度は 3 課題を審議した。本年度は、日本からの提案 1 件は FCD 投票へ進んだ。

- (1) WG 6 国際会議は、以下のように 2 回開催された。

平成 22 年 8 月 23 日～27 日	イタリア	ベニス市
平成 23 年 2 月 21 日～25 日	米国	ベルビュー市

- (2) 国際会議の審議概要と主要成果

- ・ 日本提案の 29136 Accessibility of Personal Computer Hardware (日本提案規格：エディタ野村氏) については、2010 年 5 月 4 日に 2ndCD 投票に付され、8 月 3 日に投票が閉め切られた。結果 2ndCD として採択された。8 月のベニス会議では、2ndCD 投票の際に膨大な量のコメントが寄せられているため、disposition としてテクニカルなコメントの箇所についてのみ審

議を行った。審議の結果、直ちに FCD 投票を実施することになり、2010 年 11 月 18 日に FCD 投票に付された。投票〆切りは 2011 年 4 月 19 日のため、2011 年 2 月のベルビュー会議では進捗報告のみで審議されなかった。

- ・カナダ提案の 13066 Interoperability with Assistive Technology (AT) シリーズについては 5 つのパートの審議を行った。13066 Part 1 については、2010 年 7 月 23 日投票〆切りで FCD 採択された。8 月のベニス会議で審議の後、2011 年 2 月 23 日に FDIS 投票に付された。投票〆切は 2011 年 4 月 22 日。13066 Part 2 (Windows Automatic Framework accessibility API) と Part 3 (Iaccessible2 accessibility API) については、8 月のベニス会議で審議の後、それぞれ 2011 年 2 月 20 日と 19 日投票〆切で PDTR 投票に付され、結果両方とも PDTR 採択された。2011 年 2 月のベルビュー会議で審議の結果、両方とも 2011 年 4 月 15 日までに DTR 投票に付されることになった。13066 Part 4 (Linux/Unix accessibility API) については、2011 年 2 月のベルビュー会議で審議の結果、2011 年 5 月 15 日までに PDTR 投票に付されることになった。Part 6 (Java accessibility API) については、2011 年 2 月のベルビュー会議で審議の結果、2011 年 7 月 1 日までに PDTR 案を作成することになった。
- ・カナダからの新規提案である TR “Alternative Text Guidelines” は、8 月のベニス会議で審議の後、2010 年 11 月 2 日に NP 投票に付され、2011 年 2 月 11 日投票〆切で NP 採択された。2011 年 2 月のベルビュー会議で評価実験結果のプレゼンテーションがあり、意見交換を行った。このプロジェクトは 20071-11 という番号が付けられた。2011 年 7 月 1 日までに PDTR 案を作成することになった。
- ・韓国から、“Accessible Navigation in Interactive Television” について、2011 年 2 月のベルビュー会議でプレゼンテーションがあり、意見交換を行った。
- ・フランスから、“Accessibility and convergence of ICT devices” について、2011 年 2 月のベルビュー会議でプレゼンテーションがあり、意見交換を行った。

(2) 今後の主要課題

欧米でのアクセシビリティ関連の動向にも注意し、国内の関連団体と調整を取りながら検討を行うことが必要である。次年度は日本提案 1 件を FCD および FDIS として採択させる。

(3) 特記事項

下記の、平成 20 年度経済産業省委託事業に協会から申請した「アクセシビリティ関連の国際規格化活動」は、平成 22 年度も継続して SC 35 国内専門委員会にて活動を行った。

- ・「基準認証研究開発事業」：日本提案規格 WD 29136 “Hardware accessibility features for personal computers” の国際審議活動（(財)日本規格協会 情報技術標準化研究センター (INSTAC)）

(4) 平成 23 年度の会議予定

平成 23 年 8 月 29 日～9 月 2 日 ポーランド ワルシャワ市
平成 24 年 2 月 20 日～24 日 日本 京都市

表 1 - JTC 1/SC 35 プロジェクトの 2011 年 GOM での進捗状況

プロジェクト番号	Title	本年度末状況	WG
9995-7	Keyboard layouts for text and office	FPDAM	1

プロジェクト 番号	Title	本年度末 状況	WG
	systems – Part 7: Symbols used to represent functions		
9995-9	Keyboard layouts for text and office systems – Part 9: Multi-lingual usage, multiscrypt keyboard group layouts	New WD	1
9995-10	Keyboard layouts for text and office systems – Part 10: Conventional symbols and methods to represent graphic characters not uniquely recognizable by their glyph on a keyboard and in documentation	FCD	1
11581-1/TR	User interface icons – Part 1: Introduction and overview of icon standards	2DTR	7
11581-10	User interface icons – Part 10: Framework and general guidance	FDIS	7
11581-40	User interface icons – Part 40: Management of icon registration	IS	2+7
11581-41	User interface icons – Part 41: Data structure to be used by the ISO/IEC JTC 1/SC 35 icon database	CD	7
13066-1	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 1: Requirements and recommendations for interoperability	FDIS	6
13066-2/TR	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 2: Windows automation framework accessibility API	PDTR	6
13066-3/TR	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 3: IAccessible2 accessibility API	PDTR	6
13066-4/TR	Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 4: Linux / Unix graphical environments accessibility API	NP	6
13066-5/TR	Mac OS accessibility API	–	6
13066-6/TR	Interoperability with assistive technology (AT) – Part 6: Java accessibility API	NP	6
13066-7/TR	ARIA accessibility API	–	6
TR 15440:2005	Future keyboards and other [associated] input devices and [related] entry methods	Review	1
24752-6	Universal remote console – Web service integration	(NP)	8
24756	Framework for specifying a common	PPT	6

プロジェクト 番号	Title	本年度末 状況	WG
	access profile (CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments		
29136	User interfaces – Accessibility of personal computer hardware	FCD	6
20071	User interface component accessibility — Guidance on creating alternative text for images	NP	6
PWI-NUIM	User interfaces – Guidelines on navigation methods for ladder menus with 4-Direction devices	NP	4+(1, 6)
PWI-VC-1	Voice command – Part 1: Framework and general guidance	NP	5+(1,4,6)
PWI-VC-2	Voice command – Part 2: Procedures for constructing and testing	--	5+(1,4,6)
PWI-VC-3	Voice command – Part 3: Translation issues and inter-language issues for voice command	--	5+(1,4,6)
PWI-VC-4	Voice command – Part 4: Management of voice command registration	NP	5+(1,4,6)
XXXX	Symbols, icons characters, glyphs	WD	5
(Type 2 TR)	Specification methods for cultural conventions	PDTR	5
(Type 3 TR)	Universally available personal computing environment (including on the internet)	NP	5+6

注記：プロジェクト番号の先頭に付くべき“ISO/IEC”及び Title の先頭に付くべき “Information technology –”は省略されている。

2. 第 108 委員会活動結果報告書

第 108 委員会事務局 JBMIA

1 第 108 委員会（オーディオ・ビデオ及び情報技術機器の安全性）

1-1. 活動概要（全体）	委員長	羽鳥 光俊
1-2. MT1(旧 92)分科会活動概要	主査	塩田 武彦
1-3. MT2(旧 74)分科会活動概要	主査	柴田 恵
1-4. HBS 分科会活動概要	副委員長兼主査	石井 明
1-5. WG 環境分科会活動概要	主査	並河 治
1-6. JIS C 6065 改正原案作成活動概要	主査	山本 久義
1-7. JIS C 6950-1 改正原案作成活動概要	主査	柴田 恵
1-8. JIS C 62075 原案作成活動概要	主査	並河 治
1-9. JIS C 62368 原案作成活動概要	主査	正木 伸宏
1-10. 端末設備規定検討活動概要	主査	正木 伸宏
1-11. その他 Ad Hoc 委員会活動	幹事	佐藤 幸一

(参考 1) 国際規格回答原案等リスト

(参考 2) 国際会議出席者リスト

(参考 3) 関連国際規格の現状と今後の計画（見通し）

1. 第 108 委員会（オーディオ・ビデオ及び情報技術機器の安全性）

委員長 羽鳥 光俊

1.1 活動概要（全体）

平成 22 年度は、20 件の国際規格回答原案等について審議を行った。主な内容は、（1）に示すとおりである。なお、国内規格については、IEC 62368-1 初版対応の JIS 原案作成検討の活動を開始した。MT1 分科会、MT2 分科会、HBS 分科会、WG 環境分科会及び JIS 原案作成検討会の詳細は、各分科会活動概要の項参照。

（1）国際規格対応について

平成 22 年度は、TC108 から発行される審議文書について、下記 20 件の投票を行った。

詳細は、添付資料“（参考 1）平成 22 年度国際規格回答原案等リスト”参照。

・ NP (New Work Item Proposal) :	1 件
・ CD (Committee draft for comment) :	4 件
・ DC (Document for Comments) :	11 件
・ CDV (Committee Draft for Vote) :	0 件
・ FDIS (Final Draft International Standard) :	1 件
・ DTR (Draft Technical Report)	1 件
・ Q (Questionnaire) :	2 件

（2）国内規格対応について

1) IEC 整合 JIS 原案の審議

JIS 原案作成検討グループ及び JIS 原案作成委員会を開催して改正原案の審議を行った。

- ・ JIS C 6065 : オーディオ、ビデオ及び類似の電子機器－安全性要求事項
JIS C 6065:2007 版に対しての追補版（IEC 60065 Ed. 7 Am2 対応）を含め、全面改正の為の審議を行った。
- ・ JIS C 6950-1 : 情報技術機器－安全性－第 1 部：一般要求事項
- ・ JIS C 6950-1 (IEC 60950-1:2nd 対応) に対しフォローを行い、平成 23 年 2 月に JIS 制定のため、日本規格協会から経済産業省に提出された。
- ・ IEC 62368-1 対応 JIS : オーディオ、ビデオ、情報及び通信技術機器－第 1 部：安全性要求事項
平成 23 年度の完成を目標に IEC 62368-1 初版および TC108/409/DC 文書を審議した。

2) 電気用品安全法技術基準省令第 1 項及び省令第 2 項

JIS C 6950-1 (IEC 60950-1:2nd 対応) 原案を電気用品等規格・基準国際化委員会に諮った。

（3）平成 22 年度国内委員会及び幹事会（第 108 委員会）開催状況

- ・ 第 108 委員会 : 2 回開催 (6/3、11/25)
- ・ 幹事会 : 2 回開催 (5/20、11/18)

（4）平成 22 年度国際会議（TC108）参加状況

詳細は、添付資料“(参考2) 国際会議出席者リスト”参照。

- ・中国/北京会議 (H22. 4. 19～4. 23) MT1, MT2, HBSDT
- ・米国/シアトル会議 (H22. 10. 12～10. 16) Plenary, MT1, MT2, HBSDT, WG ENV
- ・英国/ロンドン会議 (H23. 3. 21～03. 25) MT1, MT2, HBSDT

(5) 平成 23 年度国際会議 (TC108) 予定

- ・MT1, MT2, HBSDT オーストラリア/シドニー会議(H23. 10) : 7名出席予定

1.2 MT1(旧 92)分科会活動概要

主査 塩田 武彦

旧 TC92 が扱っていた規格、IEC 60065『オーディオ、ビデオ及び類似の電子機器—安全性要求』の改定提案プロジェクトを扱う IEC/TC108 のメンテナンスチーム 1 (MT1) に対応する国内組織として、下記の審議を行った。

(1) 国際規格対応について

平成 22 年 4 月に北京で開催された TC108/MT1 会議で、IEC 60065 第 8 版を発行することが決まり、日本からも 6 件の提案をし、CD 文書に採用された。また、分科会を 2 回開催し、関連文書の審議を行うとともに、10 月にシアトル及び平成 23 年 3 月にロンドンで開催された TC108/MT1 会議へ参加し、日本意見の反映を行った。

文書番号	表題及び概要	日本意見概要
108/395/FDIS	IEC 60065-A2. Ed7.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements IEC 60065 第7版 修正No.2 FDIS	CDVにおいて、日本から提出した提案についてはほぼ FDISに盛り込まれており、賛成で投票。
108/410/DC	Proposal for changes related to IEC 60065 IEC 60065 第7版 変更提案	DC文書に関わるコメントを4件、DC文書以外で規格の変更提案を4件提出。
108/437/CD	IEC 60065 Ed8.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements IEC 60065 第8版 CD	エディトリアルなコメントを5件、また、一部過剰な要求と思われる内容について、試験の効率化の観点を加味して技術的なコメントを2件提出した。

(2) 国内規格対応について

MT1 分科会では、取り扱わなかった。

(3) 今後の主要課題

2011 年度は、IEC 60065 第 8 版の 2ndCD に対するコメントについて検討が行われ、その後 CDV が発行される予定であるため、その対応及び今後 FDIS、IS の段階へ進むので、国内での規格の

審議と国際会議への参加を継続する。

(4) 平成 23 年度国際会議予定

- ・MT1 オーストラリア/シドニー会議(H23. 10)

1.3 MT2(旧 74)分科会活動概要

主査 柴田 恵

旧 TC74 が扱っていた規格、IEC 60950 『IT 機器の安全』パート 1 (一般要求) 及びパート 2 (個別要求) の改定提案プロジェクトを扱う IEC/TC108 のメンテナンスチーム 2 (MT2) に対応する国内組織として、下記の審議を行った。

(1) 国際規格対応について

平成 22 年 4 月に北京で開催された TC108/MT2 会議で、IEC 60950-1 第 2 版 修正 No. 2 を発行することが決まり、日本からも新たな改訂提案 4 件を提出した。また、分科会を 2 回開催し、関連文書の審議を行うとともに、10 月にシアトル及び平成 23 年 3 月にロンドンで開催された TC108/MT2 会議へ参加し、日本意見の反映を行った。

審議した文書と日本意見の概要は、下表の通り。

文書番号	表題及び概要	日本意見概要
108/413/DC	Proposal for changes related to IEC 60950-1 that will form the basis for Amendment 2 to Edition 2 VDRとGDTとを直列にして絶縁をブリッジする事に関する事項、PVC又はゴム絶縁以外の電源コードを認める要求などが含まれる	過充電試験の試験条件など4件のコメント提出
108/438/CD	IEC 60950-1-A2 Ed 2.0: Information technology equipment - Safety - Part 1: General requirements シアトル会議の審議結果に基づき上記の文書を修正したもの	SPDで二重絶縁、強化絶縁をブリッジすることについてなど3件のコメントを提出

(2) 国内規格対応について

MT2 分科会では、取り扱わなかった。

(3) 今後の主要課題

IEC 60950-1 第 2 版 修正 No. 2 が次の段階 (CDV 及び FDIS) に進むので、国内での審議と国際会議への参加を継続する。

(4) 平成 23 年度国際会議予定

- ・MT2 オーストラリア/シドニー会議(H23. 10)

1.4 HBS 分科会活動概要

主査 石井 明

平成 22 年度は、TC108/HBSDT 国際会議に参加及びそれに呼応した国内活動を通じて HBS 規格 (IEC 62368-1, 2nd) に向けての研究と国際会議で日本の意見具申を行った。

(1) 国際会議&審議状況

平成 22 年度は、中国/北京会議(4 月)、米国/シアトル会議(10 月)、英国/ロンドン会議(H23/3 月)の 3 回の TC108/HBSDT 国際会議が開催された。IEC 62368-1 第 2 版の審議の計画として 2010 年 12 月までに、CD 文書を発行、2011 年 6 月に 2ndCD 文書の発行、2011 年 10 月シドニー会議で 2ndCD 文書のレビューを行い、その後 CDV, FDIS 文書の発行の計画が示された。IEC 62368-1 第一版の充実に資するため、主に次の項目に関し審議が行われた。

- 附属書 M の『リチウム二次電池の用語、充電、発火防止に対する提案とリチウム二次電池を使用する機器の落下試験に対する提案』
SC21A とのリエゾン関係については、2011 年 5 月予定の SC21A フランクフルト会議に TC108/HBSDT から委員派遣をすることとなった。これに伴い TC108 HBSDT に技術検討の Ad Hoc を設立し、日本からも Ad Hoc チームに委員参加を行った。
- VDR と GDT(ガス放電管)の組み合わせ使用に関し、IEC 62368-1 第二版に向け日本主体で素案を作成し、GDT が基礎絶縁の耐圧に耐え外部の距離が基礎絶縁の要求を満たす場合は基礎絶縁、同様に強化絶縁の要求を満たす場合は、強化絶縁としてみなすことを提案した。
- 『音圧規制に対する規制値』は Ad Hoc に参加し、CENELEC 素案との差異の勉強を行った結果、各国に回覧審議とした。ロンドン会議に音圧に関する説明の為に日本から専門家がオブザーバー参加した。
- IEC 60417 に整合した『シャープエッジ図記号』、『回転する羽根図記号』等の提案をロンドン会議に行った。

審議文書：

108/402/DC: TC108 ビジネス戦略

108/403/DC: 火災拡大防止手段、機械的危険への保護等の評価の要求

108/404/DC: 感電の危険に関する要求

108/405/DC: 附属書 G 部品等への要求

108/406/DC: 附属書 B 試験条件等への要求

108/408/DC: 音圧エネルギーへの要求

108/409/DC: 用語の定義への要求

108/419/Q: IEC 62018, IEC 62075 及び IEC 62623 に移行に関する意見

108/433/Q : LPS の解釈例

108/436/CD: IEC 62368-1 の全体の項目にわたる改定素案

108/439/DTR: IEC 62368-1 第一版の要求事項の解説書

108/442/DC: 現場接続用の電源接続端子、機器転倒試験方法等の要求

108/444/DC: 図記号に関する要求

(2) 国内委員会および審議状況

各国際会議前に、審議文章に対する意見を募り、HBS 分科会を開催。審議文章の内容を審議し、共通理解を得ると共に活発な意見交換を行い日本コメントをまとめ、第 108 委員会の承認を頂いて IEC に提出した。リチウムイオン電池では、12 月に附属書 M-TF を設け、リチウムイオン電池の専門家と HBS 分科会の EXPERT を中心に附属書 M の審議を行い、双方の合意の下に附属書 M の日本修正案をまとめ、ロンドン会議に提出した。また、回転メディア試験-TF を設け、専門家による意見交換を行った。図記号に関しては SC3C 国内委員会との協業により、SC3C 主管の IEC 60417 規格の新規図記号を日本意見として IEC に提出した。

(3) 今後の主要課題

IEC 62368-1 第二版の審議に積極的に国際会議に参加し意見具申を行なう必要がある。尚、リチウムイオン電池や携帯型音響機器の音圧要求に対する審議も国内関連委員会と情報交換して意見を整合して対応する予定である。

(4) 平成 23 年度国際会議予定

・HBSDT オーストラリア/シドニー会議 (H23.10)

1.5 WG環境分科会活動概要

主査 並河 治

平成 20 年度末に TC108 WG ENV (旧 WG10) が発足され、IEC 62075, IEC 62018 のメンテナンス、及び省エネの新ワークアイテム「IEC 62623 Ed 1.0: Measuring the Energy Consumption of Personal Computing Products」を担当する。国際会議が 1 回、国際電話会議が 1 回開催され、エキスパートである並河主査が参加した。その結果も踏まえ、WG 環境分科会を 4 回開催し審議した。TC108 の環境分野については、TC100 へ移管することの投票を平成 22 年 10 月に行った。

(1) 国際規格対応について

以下の文書の審議・確認を行ない、下記の対応をとった。

文書番号	表題及び概要	対応・結果等
108/419/Q	Question from IEC TC108 Secretariat regarding the transfer of responsibility for non-safety related standards from IEC TC108 to IEC TC100	賛成投票

(2) 審議状況

1) 国際会議

TC108 WG ENV 国際会議が 1 回、国際電話会議が 1 回開催され、エキスパートである並河主査が参加した。

2) 国内委員会

WG 環境分科会を 4 回開催し、IEC 62623 の審議をした。

また、第 108 委員会で扱う環境分野については、TC100 国内委員会への移管に関して議論も行い、原則として IS 化されている規格は平成 23 年度より移管、現在審議中の規格は IS 化されるまでは第 108 委員会で審議する事を確認した。

(3) 今後の主要課題

「IEC 62623 Ed 1.0: Measuring the Energy Consumption of Personal Computing Products」を継続審議しコメントを提出する。

(4) 平成 23 年度 TC108 WG Env 国際会議予定

・現時点未定

1.6 JIS C 6065 改正原案作成活動概要

主査 山本 久義

(1) 概要

AV 機器安全性の JIS は、電気用品安全法技術基準の省令第 2 項としても用いられていることから、その改正作業は重要である。

昨年度、原案を作成した国際安全規格 IEC 60065 Ed7. Amd. 1 対応の「JIS C6065 追補版」は、平成 21 年 12 月 21 日に JIS 制定され、現在、省令 2 項採用に向け、答申中である。

引き続き、昨年度から IS の準備が進められ、2010 年 7 月に発行された「IEC 60065 Ed. 7 Amd. 2」に対応する「JIS C 6065 改正原案」の作成検討会を平成 22 年 3 月に発足した。

本年度は、前年度と合わせ、計 12 回の検討会を実施し、現在、平成 23 年 4 月ないし 5 月に原案作成委員会に提出するため、最終準備を進めている。

(2) 今後の主要課題

IEC 60065 Ed. 7 Amd. 2 は、2 回目の改正であることから、JIS の改正は、追補ではなく全面改正を行う。「JIS C 6065 改正原案作成検討会」では、Amd. 2 の翻訳作業と合わせ、日本のデビエーションを極力少なくするための見直しを行った。

現在、制定済の「JIS C 6065:2007」及びその「追補 1」の再編集作業に加え、本文を JIS Z 8301:2008 に対応させる作業及び引用規格の精査を行っているが、当初計画よりもやや遅れており、原案作成を急いでいるところである。

1.7 JIS C 6950-1 改正原案作成活動概要

主査 柴田 恵

(1) 概要

JIS C 6950-1 改原案作成委員会で審議し承認を受け、日本規格協会 (JSA) へ平成 22 年 3 月に提出した JIS C 6950-1 改正原案 (IEC 60950-1 Ed. 2 対応) に関し、以下のフォローを行った。

7 月 8 日：電気用品等規格・基準国際化委員会において JIS C 6950-1 改正原案の概要を説明。

7 月 12 日：JSA 内の規格調整分科会において、JSA 内の委員からでた数多くのコメントに対し、修正提案を提示すると共に、一部は原案作成分科会で再審議することを決定。

9 月 7 日：JIS C 6950 原案作成分科会において、規格調整分科会からのコメントを審議。

その後、メール審議などを通じ、JSA からの修正提案や問い合わせに逐一对応し、平成 23 年 2 月に、原案は JSA から経済産業省に提出された。

又、JIS C 6950-1 を電気用品安全法技術基準の省令第 2 項に採用するため、JET でのチェックが行われ、その結果も届いたので、そのフォローも実施した。

(2) 今後の主要課題

JISC の審議を経て、JIS の公示を待つ段階に入っているが、最終 JIS として制定されるまで引き続きフォローを行う。併せて、電気用品安全法技術基準の省令第 2 項採用に向けて、必要に応じ電気用品調査委員会での説明を行う。

一方、IEC では、IEC 60950-1 の修正 No. 1 が正式に発行されたことから、この内容を JIS 化するため検討を開始する。

1.8 JIS C 62075 (JIS C 9914) 原案作成活動概要

主査 並河 治

(1) 概要

JIS C 62075 原案作成検討会、JIS C 62075 原案作成委員会として活動してきた IEC 62075 「Audio/video, information and communication technology equipment-Environmentally conscious design」のJIS化は、「オーディオ、ビデオ、情報及び通信技術機器－環境配慮設計」と題して平成22年7月20日にJIS C 9914が制定された。

(2) 今後の主要課題

国際での活動をウォッチし適宜フォローする。

1.9 JIS C 62368-1 原案作成活動概要

主査 正木 伸宏

(1) 概要

オーディオ/ビデオ、及び情報/通信機器の新安全規格 IEC 62368-1 Ed. 1 (平成22年1月にIEC規格として発行) に対して、早期対応の為に JIS 原案を作成・提出するWGを発足した。平成22年9月30日に発足会を開催し、総勢26名の委員の参加があった。10月より、月に1回の検討会を実施して IEC 62368-1 Ed. 1 をベースに JIS に即した原案の審議を5回行った。(第2章までの検討を完了)

スケジュール：原案作成 =平成24年10月予定
最終案完了・提出=平成25年1月予定

(2) 今後の主要課題

IEC 62368-1 Ed. 2 に向けた TC108/HBSDT ロンドン会議の結果を受けて、審議文章を最新の内容で審議する。また、国内に対応したデベューションを審議に盛り込み IEC 62368-1Ed. 2 IS 発行に合わせて原案作成完了に繋げていく。機器だけでなく、部品等の知識を取り入れて作業を行う必要がある為、関連団体の JEITA、CIAJ 等と協力して対応を積極的に行っていく。

1.10 端末設備規定検討活動概要

主査 正木 伸宏

(1) 概要

平成21年6月16日に総務省より公表された『IP電話端末等に関する技術的条件』に対して、その後総務省より正式にペンディングが発表された。(平成22年12月8日)本発表を受けて活動を一時停止した。

(2) 今後の主要課題

総務省での法規化に対するスケジュールが明確になっていないが、情報通信ネットワーク産業協会(CIAJ)と協力してIEC 60950等の製品安全に対する考え方を盛り込んだ対応を行っていく。

1.11 その他 Ad Hoc 委員会活動

幹事 佐藤 幸一

(1) 安全関連の図記号検討-SC3C国内委員会との協業活動

HBS分科会の中で、IEC 62368-1第2版の中で新たな安全関連の図記号の使用が検討された。そこでSC3C国内委員会と合同会議を持ち、必要と思われる図記号の作成、発行を依頼した。その結果、TC108の発行する安全規格(IEC 60065, IEC 60950-1, IEC 62368-1)の中での採用

を前提として、今年度中に 10 点の新しい図記号が IEC 60417 の図記号として発行され、4 点の図記号が原案審議中となった。

(2) リチウムイオン電池使用機器の安全要求検討

リチウム電池を使用する機器での安全確保のため、IEC 62368-1 附属書 M 中の要求を検討する活動が、リチウムイオン電池の専門家との共同で行われた。その結果は、現行の附属書 M への修正提案として日本から TC108 に提出され、平成 23 年 3 月の HBSDT ロンドン会議で検討された。

(3) 可聴音圧危険検討タスクフォース

携帯形音響機器の過大な音圧での長時間使用による難聴を防ぐための要求について、TC100 国内委員会内の音響機器専門家その他との協業で検討を行った。同様に検討を進めている CENELEC の原案との整合性も視野にいれ、日本からの IEC 62368-1 第 2 版のための修正提案を作成した。

(4) 過渡電圧保護デバイス検討タスクフォース

平成 22 年 10 月の TC108 シアトル会議の中で、過渡電圧保護デバイス (SPD) を機器で使用する際の要求を精査し、幅広く使用可能にするための原案を作成するよう日本の HBS 分科会に要請があった。その要請に対応するためタスクフォースを組み、関連する TC37 その他の意見を得て原案を作り、TC108/HBSDT に提案した。

本提案は IEC 60065、IEC 60950-1 に展開される事になる。

(5) 回転メディア試験タスクフォース

IEC 62368-1 第 1 版及び第 2 版案 (108/436/CD) 中に規定された高速回転するメディア (CD, DVD 等) の破損による危険を防止するための試験法が現実的でないとの意見があり、HBS 分科会内でタスクフォースを結成して修正提案を作成し、平成 23 年 3 月の HBSDT ロンドン会議に提案した。

以上

参考資料

- 参考-1 : 平成 22 年度 国際規格回答原案等リスト
- 参考-2 : 平成 22 年度 国際会議日本代表出席者
- 参考-3 : 関連国際規格の現状

(参考1)

平成 22 年度 国際規格回答原案等リスト

ISO/IEC JTC1/SC17

No.	投票期限	件名
1	2010-04-06	PDAM 14443-2 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface Amendment 3: Limits of electromagnetic disturbance level
		識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型- 第2部:電力伝送及び信号インタフェース- 追補3:電磁雑音レベルの限界値
2	2010-04-06	PDAM 14443-3 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anticollision Amendment 4: Electromagnetic disturbance handling
		識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型- 第3部:初期化及び衝突防止- 追補4:電磁雑音の扱い方
3	2010-04-10	FPDAM 14443-1 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 1: Physical characteristics Amendment 1 - Additional PICC classes
		識別カード-非接触(外部端子なし)ICカード-近接型-第1部:物理的特性 追補1: 追加PICCクラス
4	2010-04-10	FPDAM 10373-6 Identification cards - Test methods - Part 6: Proximity cards/ Amendment 8: Additional PICC classes
		識別カード-試験方法-第6部:外部端子なしカード-近接型 追補8:追加PICCクラス
5	2010-04-10	FPDAM 14443-2 Identification cards - Contactless integrated circuit(s) cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface - Amendment 4 Additional PICC classes
		識別カード-外部端子なし ICカード-近接型-第2部:電力伝送及び信号インタフェース 追補4:追加PICCクラス
6	2010-04-11	FDIS 20060 Information technology - Open Terminal Architecture (OTA) specification - Virtual machine Specification (Revision)
		情報技術 - オープン ターミナル アーキテクチャ (OTA) 仕様 - 仮想マシン仕様
7	2010-04-26	NP 10373-6 Identification cards - Test methods - Part 6: Proximity cards - Amendment 9: Test methods for electromagnetic disturbances
		識別カード-試験方法-第6部:外部端子なしカード-近接型 追補9:電磁雑音処理
8	2010-04-26	PDAM 10373-6 Identification cards - Test methods - Part 6: Proximity cards - Amendment 9: Test methods for electromagnetic disturbances
		識別カード-試験方法-第6部:外部端子なしカード-近接型 追補9:電磁雑音処理

No.	投票期限	件名
9	2010-06-15	Systematic Review : ISO/IEC 7816-7:1999 Identification cards -- Integrated circuit(s) cards with contacts -- Part 7: Interindustry commands for Structured Card Query Language (SCQL)
		識別カード-ICカード-第7部:構造化カード問い合わせ言語(SCQL)のための産業間 コマンド
10	2010-06-15	Systematic Review : ISO/IEC 7816-10:1999 Identification cards -- Integrated circuit(s) cards with contacts -- Part 10: Electronic signals and answer to reset for synchronous cards
		識別カード-ICカード-第10部:同期カードのための電気信号及び初期応答
11	2010-07-13	CD 10373-9 Identification cards - Test methods - Part 9: Optical memory cards - Holographic recording method
		識別カード-試験方法-第9部:光メモリーカード-ホログラム記録方式
12	2010-06-23	FDIS 14443-2 Identification cards -- Contactless integrated circuit cards -- Proximity cards -- Part 2: Radio frequency power and signal interface
		識別カード-外部端子なし ICカード-近接型-第2部:電力伝送及び信号インタフェ ース
13	2010-08-27	NP Amd to ISO/IEC 14443 Series VERY HIGH BIT RATE from 1 to 10 Mbit/s
		ISO/IEC 14443 シリーズに対する追補:1から10 Mbit/sの非常に高いビットレート
14	2010-09-26	FPDAM 14443-4 Identification cards -- Contactless integrated circuit cards -- Proximity cards -- Part 4: Transmission protocol Amendment 1: Activation of higher layer protocols
		識別カード-非接触(外部端子なし) ICカード-近接型-第4部:伝送プロトコル 追補1:上位階層プロトコルの活性化
15	2010-09-26	FPDAM 14443-2 Identification cards -- Contactless integrated circuit cards -- Proximity cards -- Part 2: Radio frequency power and signal interface Amendment 3: Limits of electromagnetic disturbance levels
		識別カード-外部端子なし ICカード-近接型-第2部:電力伝送及び信号インタフェ ース 追補3:電磁雑音レベルの限界値
16	2010-09-26	FPDAM 14443-3:2010 Identification cards -- Contactless integrated circuit cards -- Proximity cards -- Part 3: Initialization and anticollision Amendment 4: Electromagnetic disturbance handling
		識別カード-外部端子なし ICカード-近接型-第3部:初期化及び衝突防止 追補4:電磁雑音処理
17	2010-09-26	FPDAM 10373-6:2001 Identification cards - Test methods- Part 6: Proximity cards Amendment 9: Test methods for electromagnetic disturbances
		識別カード-試験方法-第6部:外部端子なしカード-近接型 追補9:電磁雑音処理
18	2010-09-20	FCD 24789-1 Identification cards -- Card service life -- Part 1: Application profiles and requirements
		識別カード -- カードサービスライフ 第1部:アプリケーションプロファイルおよび 要求
19	2010-09-20	FCD 24789-2 Identification cards -- Cards service life -- Part 2: Methods of evaluation
		識別カード -- カードサービスライフ 第2部:評価方法

No.	投票期限	件名
20	2010-10-04	FPDAM 7810:2003 Identification cards - Physical characteristics Amendment 2: Opacity
		識別カード—物理的特性 追補 2: 不透過度
21	2010-09-08	DCOR 7811-6 Identification cards - recording technique - Part 6: Magnetic stripe - High coercivity Technical corrigendum 1: Noise in signal waveform
		識別カード—記録技術—第 6 部: 磁気ストライプ—高保磁力 正誤表: 波形におけるノイズ
22	2010-08-08	FDIS 10373-3 Identification cards -- Test methods -- Part 3: Integrated circuit cards with contacts and related interface devices
		識別カード—試験方法—第 3 部: 外部端子付き IC カード及び関連接続装置
23	2010-09-29	FCD 18013-4 Personal Identification – ISO Compliant Driving License - Part 4: Test method for Extended Access Protection
		情報技術—個人識別—ISO 規格運転免許証—第 4 部: 拡張アクセス保護の試験方法
24	2010-09-15	PDAM 14443-2:2010 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximitycards - Part 2: Radio frequency power and signal interface, Amendment 4 Additional PICC classes
		識別カード—外部端子なし IC カード—近接型—第 2 部: 電力伝送及び信号インターフェース 追補 4: 追加 PICC クラス
25	2010-09-27	FCD 12905 Integrated circuit cards - Enhanced Terminal Accessibility using cardholder preference interface
		IC カード—カード所持者に適合したインターフェースを用いた端末利用の向上
26	2010-09-15	PDAM 10373-6:2001 Identification cards - Test methods - Part 6: Proximity cards - Amendment 8: Additional PICC classes
		識別カード—試験方法—第 6 部: 外部端子なしカード—近接型 追補 8: 追加 PICC クラス
27	2010-08-28	FDIS 7816-1 Identification cards -- Integrated circuit cards -- Part 1: Cards with contacts -- Physical characteristics
		識別カード—IC カード—第 1 部: 外部端子付きカードの物理的特性
28	2010-08-28	FDIS 10373-6 Identification cards -- Test methods -- Part 6: Proximity cards
		識別カード—試験方法—第 6 部: 外部端子なしカード—近接型
29	2010-09-10	FDIS 15693-1 Identification cards -- Contactless integrated circuit cards -- Vicinity cards -- Part 1: Physical characteristics
		識別カード—非接触 (外部端子なし) IC カード—近傍型—第 1 部: 物理的特性
30	2011-01-03	FDIS 24727-5 Identification cards -- Integrated circuit card programming interfaces -- Part 5: Testing procedures
		識別カード—IC カードプログラミングインターフェース—第 5 部: 試験
31	2010-11-15	FDIS 24787 Information technology -- Identification cards -- On-card biometric comparison
		情報技術—識別カード—オンカードバイオメトリック比較

No.	投票期限	件名
32	2010-11-12	NP 18013-3:2008/Amd Information technology -- Personal identification -- ISO-compliant driving licence -- Part 3: Access control, authentication and integrity validation Amendment 1 SAI: Optional IDL MRZ
		情報技術－個人識別－ISO 規格運転免許証－第 3 部：アクセス管理、認証と完全性確認 追補 1: アクセス制御、認証と検証オプション MRZ
33	2010-12-13	PDAM 18013-3:2008 Information technology -- Personal identification -- ISO-compliant driving licence -- Part 3: Access control, authentication and integrity validation Amendment 1 SAI: Optional IDL MRZ
		情報技術－個人識別－ISO 規格運転免許証－第 3 部：アクセス管理、認証と完全性確認 追補 1: アクセス制御、認証と検証オプション MRZ
34	2010-12-08	NP Electronic displays in IC cards
		ディスプレイつき IC カード
35	2010-12-15	Systematic Review : ISO/IEC 18013-1 Information technology -- Personal identification -- ISO-compliant driving licence -- Part 1
		情報技術－個人識別－ISO 規格運転免許証－第 1 部：
36	2010-12-15	Systematic Review : ISO/IEC 11694-2:2005 Identification cards -- Optical memory cards -- Linear recording method -- Part 2: Dimensions and location of the accessible optical area
		識別カード－光メモリーカード－直線記録方式－第 2 部：寸法および光学表示位置
37	2010-12-15	Systematic Review : ISO/IEC 11694-1:2005 Identification cards -- Optical memory cards -- Linear recording method -- Part 1: Physical characteristics
		識別カード - 光メモリーカード - リニア記録方式 - 第 1 部：物理的特性
38	2011-01-25	FCD 10373-9
		識別カード－試験方法－第 9 部：光メモリーカード－ホログラム記録方式
39	2010-12-11	FDIS 10373-8 Identification cards - Test methods - Part 8: USB-ICC
		識別カード－試験方法－第 8 部：USB-ICC
40	2011-03-15	Systematic Review : ISO/IEC 7501-2:1997 Identification cards - Machine readable travel documents - Part 2: Machine readable visa
		識別カード－機械可読旅券－第 2 部：機械可読ビザ
41	2011-03-15	Systematic Review : ISO/IEC 7816-12 Identification cards - Integrated circuit cards - Part 12: Cards with contacts - USB electrical interface and operating procedures
		識別カード－IC カード－第 1 部：外部端子付きカードの物理的特性
42	2011-01-27	CD 7816-4.2 Identification cards - Integrated circuit cards - Part 4: Organization, security and commands for interchange
		識別カード－IC カード－第 4 部：交換のための構成、セキュリティ及びコマンド
43	2011-01-03	FDIS 24727-5 Identification cards - Integrated circuit card programming interfaces - Part 5: Testing procedures
		識別カード－IC カードプログラミングインターフェース－第 5 部：試験手順

No.	投票期限	件名
44	2011-01-12	FDAM 14443-1:2008 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 1: Physical characteristics Amendment 1: Additional PICC classes
		識別カードー非接触（外部端子なし）ICカードー近接型ー第1部：物理的特性 追補1：追加PICCクラス
45	2011-03-18	FPDAM 14443-2:2010 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface Amendment 4 Additional PICC classes
		識別カードー外部端子なし ICカードー近接型ー第2部：電力伝送及び信号インタフェース 追補4：追加PICCクラス
46	2011-03-18	FPDAM 10373-6:2001 Identification cards - Test methods - Part 6: Proximity cards Amendment 8: Additional PICC classes
		識別カードー試験方法ー第6部：外部端子なしカードー近接型 追補8：追加PICCクラス
47	2011-02-20	NP on OCR quality testing OCR quality testing Proposed Resolution
		OCR品質試験提案解像度（NP取り下げ）
48	2011-02-20	NP on PICCs with external power supply
		外部電力付きPICC
49	2011-03-23	PDAM 10373-6:2010 Identification cards - Test methods - Part 6: Proximity cards Amendment 11: Exchange of additional parameters
		識別カードー試験方法ー第6部：外部端子なしカードー近接型 追補11：追加パラメータの交換
50	2011-03-23	PDAM 14443-2:2010 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 2: Radio frequency power and signal interface Amendment 1: Bits rates higher than $f_c/16$ and up to f_c
		識別カードー外部端子なし ICカードー近接型ー第2部：電力伝送及び信号インタフェース 追補1：高ビットレート、 $f_c/16$ 以上、 f_c 以下
51	2011-03-23	PDAM 14443-3:2010 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 3: Initialization and anticollision Amendment 2 -Bit rates higher than $f_c / 16$ up to f_c and increased frame size
		識別カードー外部端子なし ICカードー近接型ー第3部：初期化及び衝突防止 追補2：高ビットレート、 $f_c/16$ 以上、 f_c 以下
52	2011-03-23	PDAM 14443-4:2010 Identification cards - Contactless integrated circuit cards - Proximity cards - Part 4: Transmission protocol Amendment 2 Activation of bit rates up to f_c , protocol activation of PICC Type A and increased frame size
		識別カードー非接触（外部端子なし）ICカードー近接型ー第4部：伝送プロトコル 追補2： f_c までのビットレートの活性化、タイプAのPICC活性化及びフレームサイズの拡大

ISO/IEC JTC1/SC28

No.	投票期限	件 名
1	2010-05-15	FCD 29183 (ISO/IEC FCD 29183 ver. 1.0) Information technology -- Office equipment -- Method for measuring digital copying productivity of a single one-sided original 単票片面原稿での複写生産性測定方法
2	2010-09-16	SR ISO/IEC 24700:2005 (Ed 2) Quality and performance of office equipment that contains reused components リユース部品を含むオフィス機器の品質と性能
3	2010-10-23	FCD 29102 Information technology -- Office equipment -- Method for the determination of ink cartridge photo yield for colour printing with inkjet printers and multi-function devices that contain inkjet printer components カラーインクジェットプリンタ及び複合機のインクカートリッジ写真印刷可能枚数測定方法
4	2010-10-24	FCD 29103 Information technology -- Office equipment -- Colour photo test pages for measurement of ink cartridge yield for colour photo printing インクカートリッジのカラー写真印刷可能枚数測定用テストページ
5	2010-12-06	FDIS 29183 Information technology -- Office equipment -- Method for measuring digital copying productivity of a single one-sided original 単票片面原稿での複写生産性測定方法
6	2011-01-05	PDTS 24790 Information Technology -- Office Equipment -- Measurement of image quality attributes for hardcopy output -- Binary monochrome text and graphic images ハードコピー出力の画質属性測定 - 2値単色のテキスト及びグラフィック画像
7	2011-01-13	CD 21118 Information to be included in specification sheets -- Data projectors データプロジェクタの仕様書様式
8	2011-01-14	PDTS 29112 Test Chart and Method for Measuring Printer Resolutions of Monochrome Laser Printers 白黒レーザープリンタの解像力測定方法およびテスト・チャート
9	2011-02-27	CD 24735 Information technology -- Office equipment -- Method for measuring digital copying productivity 複写生産性測定方法
10	2011-03-02	CD 21117 Information technology -- Office equipment -- Copying machines and Multi-function devices -- Information to be included in specification sheets and related test methods 複写機・複合機の仕様書様式及びその関連試験方法
11	2011-03-31	FDIS 29103 Information technology -- Office equipment -- Colour photo test pages for measurement of ink cartridge yield for colour photo printing インクカートリッジのカラー写真印刷可能枚数測定用テストページ

ISO/IEC JTC 1/SC35

NO.	発信年月日	件名
1	2010-7-23	ISO/IEC 13066-1(FCD) : Interoperability with Assistive Technology (AT) -- Part 1: Requirements and recommendations for interoperability 情報技術－支援技術(AT)との相互運用性-第1部：相互運用性の要求推奨事項
2	2010-8-03	ISO/IEC 29136 (CD) : User Interfaces -- Accessibility features for personal computers 情報技術－ユーザインタフェース－パーソナルコンピュータのためのハードウェアアクセシビリティ機能
3	2010-8-03	ISO/IEC TR11581-41(CD) : User Interface Icons -- Part 41: Data structure to be used by the ISO/IEC JTC1/SC35 Icon repository 情報技術－ユーザインタフェースアイコン — 第41部：ISO/IEC JTC1/SC35 アイコンデータベース用データ構造
4	2010-8-22	NP-TR(SC35N1541) : Universally available personal computing environment 技術情報－インターネットを用いた汎用利用できるパーソナルコンピューティング環境
5	2010-8-22	ISO/IEC 9995-7/AMD1(FPDAM) : Keyboard layouts for text and office systems -- Part 7: Symbols used to represent -- AMENDMENT 1 情報技術－テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第7部：機能を表す記号
6	2010-10-04	ISO/IEC 11581-10(FDIS) : User Interface Icons -- Part 10: Framework and general guidance 情報技術－ユーザインタフェースアイコン — 第10部：枠組みと全体的な手引き
7	2010-11-26	NP(SC35N1561) : Information technology -- User interfaces -- Voice command -- Part 1: Framework and general guidance 情報技術－ユーザインタフェース — 音声命令 — 第1部：枠組みと一般指針
8	2010-11-26	NP(SC35N1562) : Information technology -- User interfaces -- Voice command -- Part 4: Management of voice command registration 情報技術－ユーザインタフェース — 音声命令 — 第4部：音声命令登録の管理
9	2010-11-26	NP(SC35N1572) : Information technology -- User interfaces -- Navigation methods for ladder menus with 4-direction key 情報技術－ユーザインタフェース — 4方向キーを用いたラダーメニューの操作方法

1 0	2011-1-21	NP(SC35N1578) : Gesture-based interface -- Navigation gestures common between mice, touch pads, touch screens, tablets and similar devices
		情報技術—ジェスチャベースインタフェース — マウス, タッチパッド, タッチスクリーン, タブレット及び同様な装置におけるナビゲーションジェスチャ
1 1	2011-2-11	ISO/IEC 9995-2/AMD1(NP) : Keyboard layouts for text and office systems -- Part 2: Alphanumeric section -- Amendment 1 : Numeric keypad emulation (9995-2 Amd1)
		情報技術—テキスト及びオフィスシステムのためのキーボードレイアウト 第2部 : 英数字領域
1 2	2011-2-11	NP-TR(SC35N1610) : User interface component accessibility -- Guidance on creating alternative text for images
		情報技術—ユーザインタフェース構成要素アクセシビリティ —画像の代替テキストの作成指針
1 3	2011-2-19	ISO/IEC TR13066-3(PDTR) : Interoperability with Assistive Technology (AT) -- Part 3: IAccessible2 accessibility API
		情報技術—支援技術との相互運用性—第3部 : IAccessible2 accessibility API
1 4	2011-2-19	ISO/IEC 24752-6(NP) : User interfaces -- Universal remote console -- Part 6: Web service integration
		情報技術—ユーザインタフェース — 汎用遠隔端末 第6部:ウェブサービス統合
1 5	2011-2-20	ISO/IEC TR xxxx (NP) : Information technology – User interface - Specification method for cultural conventions
		情報技術 — ユーザインタフェース — 文化的な慣習の指定方法
1 6	2011-2-20	NP 24752-2 : "Information technology — User interfaces — Universal remote console — Part 2: User Interface Socket Description
		情報技術 — ユーザインタフェース — 汎用遠隔端末 第2部:ユーザインタフェースソケットの記述
1 7	2011-2-20	WD PDTR 13066-2 : "Information Technology — Interoperability with Assistive Technology (AT) – Part 2: Windows accessibility API"
		情報技術 — 支援技術との相互運用性—第2部 : Windows accessibility API

NP=10、CD=2、FCD=2、FDIS=1、PDTR=2、FPDAM=1 計 17 件

IEC/TC108

NO.	発信年月日	件名
1	2010-04-09	NP(363) : IEC 6XXXX TS Ed 1.0: Power contact between a.c. mains and external circuits
		オーディオ・ビデオ及び類似の電子機器 : 安全性要求事項
2	2010-07-16	FDIS(395) : IEC 60065-A2 Ed 7.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
3	2010-09-24	CD(401) : IEC 62623 Ed 1.0: Measuring energy consumption of personal computing products
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
4	2010-09-17	DC(402) : TC108 Draft Strategic Business Plan Review
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
5	2010-09-24	DC (403) : Compilation of several proposals, related to various clauses, that were accepted in the HBSDT Tel Aviv or Beijing meeting to go into the next edition of IEC 62368-1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
6	2010-09-24	DC (404) : A compilation of several proposals related to Clause 5 that were accepted in the HBSDT Tel Aviv or Beijing meeting to go into the next edition of IEC 62368-1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
7	2010-09-24	DC (405) : Compilation of several proposals related to Annex G, that were accepted in the HBSDT Tel Aviv or Beijing meeting to go into the next edition of IEC 62368-1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
8	2010-09-24	DC (406) : A compilation of several proposals related to the Annexes (with the exception of Annex G) that were accepted in the HBSDT Tel Aviv or Beijing meeting to go into the next edition of IEC 62368 1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
9	2010-09-24	DC (408) : HBSDT proposal for modification of Clause 10, Radiation Energy, in the next edition of IEC 62368-1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
10	2010-09-24	DC (409) : Compilation of several proposals related to Clauses 0 to 4, that were accepted in the HBSDT Tel Aviv or Beijing meeting to go into the next edition of IEC 62368-1
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求

1 1	2010-09-24	DC (410) : Proposal for changes related to IEC 60065
		オーディオ・ビデオ及び類似の電子機器 : 安全性要求事項
1 2	2010-09-24	DC (413) : Proposal for changes related to IEC 60950-1 that will form the basis for Amendment 2 to Edition 2
		情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
1 3	2010.10.15	Q (419) : Question from IEC TC108 Secretariat regarding the transfer of responsibility for non-safety related standards from IEC TC108 to IEC TC100
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 環境配慮設計
1 4	2011.03.11	Q (433) : Question from IEC TC108 Secretariat regarding LPS interpretations for dataports
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
1 5	2011.03.11	CD (434) : Review report on IEC 60065 Ed 7.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements (revise)
		オーディオ・ビデオ及び類似の電子機器 : 安全性要求事項
1 6	2011.03.11	CD (437) : IEC 60065 Ed 8.0: Audio, video and similar electronic apparatus - Safety requirements
		オーディオ・ビデオ及び類似の電子機器 : 安全性要求事項
1 7	2011.03.11	CD (438) : IEC 60950-1-A2 Ed 2.0: Information technology equipment - Safety - Part 1: General requirements
		情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
1 8	2011.02.11	DTR (439) : IEC 62368-2 TR Ed 1.0: Explanatory information related to IEC 62368 1, Audio/Video, Information and Communication Technology Equipment - Safety - Requirements
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
1 9	2011.03.11	DC (442) : TC108 WG/HBSDT proposals for IEC 62368-1 new edition based on 108/436/CD
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求
2 0	2011.03.11	DC (444) : TC108 WG/HBSDT proposal for editorial standardization of references to Annex F.5 in IEC 62368-1 new edition based on 108/436/CD
		オーディオ・ビデオ、情報通信技術 (ICT) 機器 : 安全要求

Q=2, NP=1, CD=4, DC=11, FDIS=1, DTR=1

(参考2) 平成22年度 SC17国際会議日本代表出席者

会議名	開催期間	開催地	人数
WG10	2010-04-13/15	Swansea, UK	3 榑純一〔パナソニック〕, 酒井高彦〔東芝〕, 他1名
WG4	2010-04-26/30	London, UK	2 坂本静生〔日本電気〕, 寄本義一〔凸版印刷〕
WG8, WG8/TF2	2010-04-26/30	Berlin, Germany	3 苅部浩〔JBMA〕, 山本英朗〔NTT〕, 清水博夫〔東芝〕
WG11	2010-04-27/30	London, UK	1 新崎卓〔富士通研究所〕
WG1	2010-06-01/03	London, UK	3 中澤明〔日本電産サンキョー〕, 寄本義一, 齊藤宏一〔凸版印刷〕
WG4	2010-06-22/24	Sydney, Australia	1 谷内田益義〔東工大〕
WG4	2010-06-22/25	Darmstadt, Germany	3 坂本静生〔日本電気〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 酒井高彦〔東芝〕
WG3	2010-06-07/11	Ottawa, Canada	4 榑純一〔パナソニック〕, 酒井高彦〔東芝〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 他1名
WG10	2010-07-27/29	Sibula, South Africa	2 榑純一〔パナソニック〕, 酒井高彦〔東芝〕
WG3/TF5	2010-09-23/24	Graz, Austria	1 酒井高彦〔東芝〕
WG1	2010-10-04/06	高松市, 香川県	5 中澤明〔日本電産サンキョー〕, 寄本義一, 齊藤宏一〔凸版印刷〕, 苅部浩, 江村智之〔JBMA〕
WG3	2010-10-04/06	高松市, 香川県	8 榑純一〔パナソニック〕, 酒井高彦〔東芝〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 幸城雅之〔日本データカード〕, 坂本静生〔日本電気〕, 木村嘉和〔NTTデータ〕, 田島成起〔JBMA〕, 他1名
WG4	2010-09/27-10/01	高松市, 香川県	5 坂本静生〔日本電気〕, 谷内田益義〔東京工大〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 酒井高彦〔東芝〕, 江村智之〔JBMA〕
WG8, WG8/TF2	2010-09/27-10/01	高松市, 香川県	8 苅部浩〔JBMA〕, 山本英朗〔NTT〕, 清水博夫〔東芝〕, 門山隆英〔ソニー〕, 秋山知哉〔DNPデータカード〕, 稲田真弓〔インフィニオンテクノロジーズジャパン〕, 金子良明〔富士通〕, 鳥山顕宏〔ルネサスエレクトロニクス〕
WG10/TF2	2010-10-02	高松市, 香川県	5 榑純一〔パナソニック〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 酒井高彦〔東芝〕, 江村智之〔JBMA〕, 他1名
WG10	2010-10-04/06	高松市, 香川県	9 榑純一〔パナソニック〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 幸城雅之〔日本データカード〕, 酒井高彦, 岸信享〔東芝〕, 中村宏〔日本電産サンキョー〕, 田島成起〔JBMA〕, 他2名
WG5	2010-10-05	高松市, 香川県	3 山本眞樹, 三枝〔全国銀行協会〕, 江村智之〔JBMA〕
WG11	2010-10-05	高松市, 香川県	1 坂本静生〔日本電気〕
Plenary	2010-10-06/08	高松市, 香川県	15 廣川勝久〔SC17/EGSEC〕, 谷内田益義〔東工大〕, 中澤明〔日本電産サンキョー〕, 苅部浩〔JBMA〕, 榑純一〔パナソニック〕, 山本眞樹〔全国銀行協会〕, 坂本静生〔日本電気〕, 幸城雅之〔日本データカード〕, 塚本薫〔共用品推進機構〕, 中西英夫, 田島成起, 江村智之〔JBMA〕, 山本雅亮, 山中豊〔経済産業省〕, 他1名
ICAO-NTWG	2010-10-12/15	東京	3 榑純一〔パナソニック〕, 他2名(その他、外務省より多数のオブザーバ参加有り)
ISO/IEC/ITU合同アークセンブリティ会議	2010-11-03/05	Geneva, Switzerland	1 寄本義一〔凸版印刷〕
WG11	2011-02-23/24	Brussels, Belgium	1 坂本静生〔日本電気〕
WG3, WG3/TF5	2011-02/28-3/03	Singapore	3 榑純一〔パナソニック〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 酒井高彦〔東芝〕
WG10	2011-2-09/10	Zurich, Switzerland	4 榑純一〔パナソニック〕, 寄本義一〔凸版印刷〕, 酒井高彦〔東芝〕, 他1名
WG1	2011-03-01/03	Menlo Park, CA, USA	2 中澤明〔日本電産サンキョー〕, 齊藤宏一〔凸版印刷〕
WG4	2011-03-21/25	Washington DC	3 谷内田益義〔東工大〕, 坂本静生〔日本電気〕, 酒井高彦〔東芝〕
WG8, WG8/TF2	2011-03/28-04/01	Ispra, Italy	4 苅部浩〔JBMA〕, 清水博夫〔東芝〕, 山本英朗〔NTT〕, 門山隆英〔ソニー〕
合計			103

(参考2) 2010年4月～2011年3月 国際会議日本代表出席者

ISO/IEC JTC1/SC28

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
21st. Plenary	2010-06-09 / 11	Rochester, USA	14	斎藤輝[JB/MIA], 杉山元邦[富士ゼロックス], 小瀧弘明[-], 伊藤丘[コニカミノルタシステムズ], 大久保彰徳[JB/MIA], 今河 進[リコー], 臼井信昭[PFU], 熊倉和正[JB/MIA], 小林武史[キヤノン], 佐田和泉[セイコーエプソン], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 宮下隆明[リコー], 村井和夫[JB/MIA], 山岸成多[パナソニック].
AWG	2010-06-07 / 08	Rochester, USA	7	杉山元邦[富士ゼロックス], 大久保彰徳[JB/MIA], 臼井信昭[PFU], 小林武史[キヤノン], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 宮下隆明[リコー], 村井和夫[JB/MIA]
WG2	2010-06-07	Rochester, USA	5	斎藤輝[JB/MIA], 杉山元邦[富士ゼロックス], 佐田和泉[セイコーエプソン], 早川 均[セイコーエプソン], 平田雅一[キヤノン]
WG2 Editors' meeting	2010-06-03 / 04	Rochester, USA	6	杉山元邦[富士ゼロックス], 宮下隆明[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 平井真紀子[リコー], 平田雅一[キヤノン], 松重直樹[キヤノン]
WG3	2010-06-08	Rochester, USA	4	斎藤輝[JB/MIA], 杉山元邦[富士ゼロックス], 伊藤丘[コニカミノルタシステムズ], 熊倉和正[JB/MIA]
WG4	2010-06-05, 06	Rochester, USA	4	杉山元邦[富士ゼロックス], 稲垣敏彦[JB/MIA], 今河 進[リコー], 藤田徹[セイコーエプソン].
WG5	2010-06-05	Rochester, USA	5	杉山元邦[富士ゼロックス], 村井和夫[JB/MIA], 白沢寿夫[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 宮下隆明 [リコー]
ISO/IEC JTC 1 Plenary Meeting	2010-11-08 / 13	Belfast, Northern Ireland	2	斎藤輝[JB/MIA], 杉山元邦[富士ゼロックス]
WG2 Editors' meeting	2010-11-14 / 18	Vienna, Austria	6	杉山元邦[富士ゼロックス], 宮下隆明[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 平井真紀子[リコー], 平田雅一[キヤノン], 松重直樹[キヤノン]
JISC/IEC/APSG Seminar	2010-11-30 / 12-01	Kuala Lumpur, Malaysia	1	宮下隆明 [リコー]
WG4	2011-01-27/28	San Jose, USA	5	杉山元邦[富士ゼロックス], 稲垣敏彦[JB/MIA], 今河 進[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 藤田徹[セイコーエプソン]
AWG	2011-01-28/29	San Jose, USA	7	杉山元邦[富士ゼロックス], 大久保彰徳[JB/MIA], 臼井信昭[PFU], 小林武史[キヤノン], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 宮下隆明[リコー], 村井和夫[JB/MIA]
WG5	2011-01-31/02-01	Santa Clara, USA	8	杉山元邦[富士ゼロックス], 村井和夫[JB/MIA], 臼井信昭[PFU], 大久保彰徳[JB/MIA], 小林武史[キヤノン], 白沢寿夫[リコー], 仲谷文雄[富士ゼロックス], 宮下隆明[リコー]
合計			74	

(参考2) 2010年4月～2011年3月 国際会議出席者リスト

ISO/IEC/SC 35

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
Plenary	2010-8-23/27	Venice, Italy	7	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMI A]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMI A]、大野亮行[JBMI A]
GOM	2011-2-21/25	Seattle, USA	6	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMI A]、野村茂豊[日立]、中尾好秀[JBMI A]
WG1	2010-8-23/27	Venice, Italy	1	池田宏明[千葉大]、中野義彦[JBMI A]
WG1	2011-2-21/25	Seattle, USA	1	池田宏明[千葉大]、中野義彦[JBMI A]
WG2	2010-8-23/27	Venice, Italy	5	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中尾好秀[JBMI A]
WG2	2011-2-21/25	Seattle, USA	5	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中尾好秀[JBMI A]
WG4	2010-8-23/27	Venice, Italy	5	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中尾好秀[JBMI A]
WG4	2011-2-21/25	Seattle, USA	5	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、高本康明[富士通]、中尾好秀[JBMI A]
WG5	2010-8-23/27	Venice, Italy	4	池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMI A]、中尾好秀[JBMI A]
WG5	2011-2-21/25	Seattle, USA	4	池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMI A]、中尾好秀[JBMI A]
WG6	2010-8-23/27	Venice, Italy	5	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMI A]、中尾好秀[JBMI A]
WG6	2011-2-21/25	Seattle, USA	5	山本委員長[慶應義塾大学]、池田宏明[千葉大]、関喜一[産総研]、中野義彦[JBMI A]、中尾好秀[JBMI A]
WG7	2010-8-23/27	Venice, Italy	3	山本委員長[慶應義塾大学]、関喜一[産総研]、中尾好秀[JBMI A]
WG7	2011-2-21/25	Seattle, USA	3	山本委員長[慶應義塾大学]、関喜一[産総研]、中尾好秀[JBMI A]
WG8	2010-8-23/27	Venice, Italy	3	山本委員長[慶應義塾大学]、関喜一[産総研]、中尾好秀[JBMI A]
WG8	2011-2-21/25	Seattle, USA	3	山本委員長[慶應義塾大学]、関喜一[産総研]、中尾好秀[JBMI A]
合計			65	

(参考2) 2010年4月～2011年3月 国際会議出席者リスト

IEC/TC 108

会議名	開催期間	開催地	人数	日本からの出席者
WG HBSDT WG MT1 WG MT2	2010-04-19/23	北京、中国	7	佐藤幸一[日本アイ・ピー・エム]、石井明[リコー]、原田泰男[パナソニック]、正木伸宏[東芝]、近藤孝彦[JQA]、柴田 恵[パナソニック]、塩田武彦[JQA]
Plenary WG HBSDT WG MT1 WG MT2 WG ENV	2010-10-8/15	シアトル、米国	10	羽高光俊[東京大学名誉教授]、佐藤幸一[日本アイ・ピー・エム]、石井明[リコー]、原田泰男[パナソニック]、正木伸宏[東芝]、近藤孝彦[JQA]、柴田 恵[パナソニック]、塩田武彦[JQA]、並河治[日立]、大野克行[JBMA]
WG HBSDT WG MT1 WG MT2	2011-3-21/25	ロンドン、英国	6	佐藤幸一[日本アイ・ピー・エム]、石井明[リコー]、原田泰男[パナソニック]、正木伸宏[東芝]、近藤孝彦[JQA]、柴田 恵[パナソニック]
合計			23	

規格番号	規格の略名称	現状(実績)	Stage date					対応JIS
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	
SC17 4909	金融カード-磁気ストライプ第3トラック用データ型	IS発行					06-06	
7501-1	機械可読旅券	IS発行5版					08-08	
7501-2	機械可読ビザ	IS発行2版					97-07	
7501-3	機械可読旅行文書の寸法	IS発行2版					05-12	
7810	IDカードの物理的特性	IS発行3版					03-12	X 6301
7810 Amd 1	IC付きカードのクライテリア	IS発行					09-12	
7810 改訂	IDカードの物理的特性	WD	10-05					
7810 Amd 2	不透過度	FCD			10-10			
7811-1	IDカードのエンボス	IS発行3版					02-04	X 6302-1
7811-2	IDカードの低保磁力磁気ストライプ	IS発行3版					01-02	X 6302-2
7811-3	IDカードのエンボス文字の位置	廃止						
7811-4	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:ト	廃止						
7811-5	リードオンリーIDカードの磁気ストライプ位置:ト	廃止						
7811-6	高保磁力磁気ストライプカード	IS発行3版					08-05	X 6302-6
7811-7	IDカード用高密度・高保磁力記録	IS発行初版					04-07	
7811-8	650エルステッド磁気ストライプ	IS発行初版					08-02	
7811-9	記録技術 - 触覚識別記号	IS発行初版 日本提案					08-05	
7812-1	カード発行者番号の付与システム	IS発行3版					06-12	JIS化不要
7812-1	カード発行者番号の付与システム	WD	10-11					
7812-2	カード発行者番号の登録手続	IS発行3版					07-04	JIS化不要
7812-2	カード発行者番号の登録手続	WD	10-11					
7813	金融取引用IDカード	IS発行6版					06-06	JIS化不要
7816-1	外部端子付ICカードの物理的特性	IS発行2版					11-01	X 6320-1
7816-2	外部端子付ICカードの外部端子の位置・寸法	IS発行2版					07-10	X 6320-2
7816-3	外部端子付ICカードの電気信号とプロトコル	IS発行3版					06-10	X 6320-3
7816-4	交換のための構成、セキュリティ及びコマンド	IS発行2版					05-01	X 6320-4
7816-4 Amd1	記録の活性化及び非活性化	IS発行					08-09	
7816-4 改訂		CD		10-03				
7816-5	アプリケーション提供者の登録	IS発行2版					04-12	X 6320-5
7816-6	交換のための産業間共通データ要素	IS発行2版					04-05	X 6320-6
7816-7	ICカードのSCQL用共通コマンド	IS発行初版					99-03	JIS化不要
7816-8	セキュリティ処理コマンド	IS発行2版					04-06	X 6320-8
7816-9	カード管理共通コマンド	IS発行2版					04-06	X 6320-9
7816-10	同期式カードの操作手順とATR	IS発行初版					99-11	JIS化不要
7816-11	生体認証手法を用いた個人照合	IS発行初版					04-03	X 6320-11
7816-12	USB電気インタフェース及びオペレーティング手	IS発行初版					05-10	
7816-13	アプリケーション管理コマンド	IS発行初版					07-03	X 6320-13
7816-15	ICカードにおける暗号トークン情報	IS発行初版					04-01	X 6320-15
7816-15 Amd1	暗号使用事例	IS発行					07-10	
7816-15 Amd2	マルチアプリ環境の誤記修正及び拡張	IS発行					08-11	
8484	磁気ストライプ付き通帳	IS発行初版					07-06	
10373-1	IDカードの試験方法通則	IS発行2版					06-04	X 6305-1
10373-1 Amd1		FCD			11-02			
10373-2	磁気カードの試験方法	IS発行2版					06-04	X 6305-2
10373-3	ICカードの試験方法	IS発行2版					10-09	X 6305-3
10373-4	コンタクトレスICカードの試験方法	中止						
10373-5	光メモリーカードの試験方法	IS発行2版					06-01	X 6305-5
10373-6 改訂	近接型ICカードの試験方法	IS発行2版					11-01	X 6305-6
10373-6 Amd7	e-パスポートの試験法	IS発行					10-03	
10373-7	近傍型ICカードの試験方法	IS発行2版					08-04	X 6305-7
10373-8	近傍型ICカードの試験方法-USB-ICC	IS発行初版					11-03	JIS化不要
10373-9	光メモリーカードホログラム記録方式	FDIS				11-03		
10536-1	外部端子なしICカード-密着型-物理的特性	IS発行2版					00-03	X 6321-1
10536-2	外部端子なしICカード-密着型-結合領域	IS発行初版					95-12	
10536-3	外部端子なしICカード-密着型-電気信号	IS発行初版					95-12	

規格番号	規格の略名称	現状(実績)	Stage date					対応JIS	
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.		
	11693	光メモリーカード通則	IS発行3版					05-11	
	11693-1	光メモリーカード通則	廃止						
	11693-2	光メモリーカード-光メモリーカードとその他の	IS発行初版					09-10	
	11694-1	直線記録方式光メモリーカードの物理特性	IS発行3版					05-09	X 6330
	11694-2	直線記録方式光メモリーカードの光領域位置寸法	IS発行3版					05-09	
SC17	11694-3	直線記録方式光メモリーカードの光特性	IS発行3版					08-06	
	11694-4	直線記録方式光メモリーカードの論理方式	IS発行3版					08-06	X 6331
	11694-5	直線記録方式光メモリーカードのアプリケーション対応データフォーマット	IS発行初版					06-03	JIS化不要
	11694-6	直線記録方式光メモリーカードへのバイオメトリックスの利用	IS発行初版					06-03	JIS化不要
	11695-1	光メモリーカード-ホログラフ記録	IS発行初版					08-10	JIS化不要
	11695-2	光メモリーカード-ホログラフ記録	IS発行初版					08-10	JIS化不要
	11695-3	光メモリーカード-ホログラフ記録	IS発行初版					08-10	JIS化不要
	11695-4	光メモリーカード-ホログラフ記録	FCD			10-01			
	12905	カード所持者に適合したインタフェースを用いた端末利用の向上(ETA)	FDIS 日本提案		10-01		11-03		JIS化予定
	14443-1	外部端子なしICカード-近接型-物理的特性	IS発行2版					08-06	X 6322-1
	14443-1 Amd1	追補1: 追加PICCクラス	FDIS				11-01		
	14443-2	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース	IS発行2版					10-08	X 6322-2
	14443-2 Amd1	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース- VHBR	CD		10-12				
	14443-2 Amd3	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース- EMD	FDIS				11-02		
	14443-2 Amd4	外部端子なしICカード-近接型-電波出力と信号インタフェース- 追加PICCクラス	FCD			09-12			
	14443-3	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止	IS発行初版					01-02	X 6322-3
	14443-3 Amd1	ビットレートfc/64, fc/32 及び fc/16	IS発行					05-06	
	14443-3 Amd3	リザーブフィールドと値の取り扱い	IS発行					06-03	
	14443-3 Amd4	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止- EMD	FDIS				11-02		
	14443-3 改訂	外部端子なしICカード-近接型-初期化と衝突防止	IS発行2版					11-xx	JIS化?
	14443-4	外部端子なしICカード-近接型-伝送プロトコル	IS発行2版					08-07	X 6322-4
	14443-4 Amd1	外部端子なしICカード-近接型-伝送プロトコル-追加パラメータの交換	FDIS				11-03		
	15457-1	薄型カードの物理的特性	IS発行2版					08-02	
	15457-2	薄型カードの磁気記録方式	IS発行2版					07-06	
	15457-3	薄型カードの試験方法	IS発行2版					08-02	
	15693-1	外部端子なしICカード-近傍型-物理的特性	IS発行2版					10-09	X 6323-1
	15693-2	外部端子なしICカード-近傍型-電波インタフェース	IS発行2版					06-12	X 6323-2
	15693-3	外部端子なしICカード-近傍型-衝突防止と通信プロトコル	IS発行2版					09-04	X 6323-3
	18013-1	物理的特性と基本データセット	IS発行初版					05-08	
	18013-2	機械読取技術	IS発行初版					08-05	
	18013-3	アクセス管理、認証と完全性確証	IS発行初版					09-01	
	18013-4	試験方法-延長アクセス防止	FCD			11-03			
	20060	OTA仕様 - 仮想マシン仕様	IS発行2版					10-06	JIS化不要
	24727-1	プログラムI/F - 構造	IS発行初版					07-01	JIS化不要
	24727-2	プログラムI/F - 汎用カードエッジ	IS発行初版					08-09	JIS化不要
	24727-3	プログラムI/F - アプリケーションIF	IS発行初版					08-11	JIS化不要
	24727-4	プログラムI/F - APIアドミニストレーション	IS発行初版					08-10	JIS化不要
	24727-5	プログラムI/F - 試験	IS発行初版					11-03	JIS化不要
	24727-6	プログラムI/F - 認証プロトコルの登録	IS発行初版					10-12	JIS化不要
	24787	オンカードマッチング	IS発行初版					10-12	JIS化不要
	24789-1	カードサービスライフ 利用者ガイド	FCD			11-02			JIS化予定
	24789-2	カードサービスライフ 評価項目	FDIS			11-02			JIS化予定
	TR29123	近傍型ICカード 相互運用性	TR発行初					07-12	

(注)WD,CD,FCD,FDISは投票開始予定日を示す。

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage Date					
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS/JIS
SC28								
10561	クラス1, 2プリンタのスループット測定方法	IS改訂版発行					99.05	JBMS/JIS化不要
11159	複写機仕様書様式	IS発行					97.03	デジタル複写機仕様を織込み、H13 JIS化
11160-1	クラス1, 2プリンタの仕様書様式	IS発行					96.08	JBMS/JIS化不要
11160-2	クラス3, 4プリンタの仕様書様式	IS発行					96.08	JIS B 9527改正作業中 ISO/IEC 11160-2との整合性を確保するよう指示あり。 → 原案を再精査中。
13660	モノクロ画質測定方法	IS発行					済(97)	H12 JIS化 (JISX6930)
13660-1	13660改訂一パンディング測定を含むモノクロ画質	2nd WD作成	01.05					
14473	イメージスキャナ仕様書様式	IS発行					99.04	JEITA担当
14545	複写生産性測定方法	IS発行					98.12	H12 JIS化
15404	ファクシミリ仕様書様式	IS発行					00.07	CIAJ担当
15775	複写機用カラーテストチャート	IS発行					99.12	H13 JIS化
15775 AMD	アナログテストチャートによるカラー複写機の画像再現性を特定する方法 - 実現化と適	IS発行	01.08			05.01	05.03	
18050	機械可読デジタル郵便マークの印字品質属性	IS発行		04.07		05.11	06.02	
19797	16ステップカラースケールによる出力直線化 (TR Type3)	TR発行	03.06			04.04	04.09	予定無し
19798	カラー電子写真プリンタ及びプリント機能付き複合機器用トナーカートリッジの寿命決定方	IS発行	01.08	04.12	05.10	06.11	06.12	H20JIS制定 JISX6932
19799	印刷ページの光沢度均一性の測定法	IS発行	01.08	04.12	05.10	07.02	07.03	予定無し
21117	複写機・複合機の仕様書様式及びその関連試験方法	IS発行			05.03		05.12	(H13 JIS化済み)
21117 rev	複写機・複合機の仕様書様式及びその関連試験方法	CD		11.03				
21118	データプロジェクトの仕様書様式	IS発行			04.07		05.08	J改訂作業中 (JISX6911)
21118 rev	データプロジェクトの仕様書様式	CD		11.01				
24705	デジタル及びアナログテストチャートによるカラーデバイスの画像再現特性記述法 (TR	TR発行	03.08			04.12	05.10	予定無し
24711	カラーインクジェットプリンタ及びプリント機能付き複合機器用インクカートリッジの寿命決定	IS発行	04.05	04.12	05.08	06.11	06.12	H20JIS制定 JISX6937
24712	消耗材の寿命測定用カラーテストチャート	IS発行	04.05	05.02	05.12	06.11	06.12	H20JIS制定 JISX6938
24734	デジタル印刷生産性測定	IS発行	04.03	07.08	08.10	09.01	09.03	H21年度JIS化応募済み
24735	デジタル複写生産性測定	IS発行	04.03	07.08	08.10	09.01	09.03	H21年度JIS化応募済み
24735 rev	デジタル複写生産性測定	CD		11.02				
24790	ハードコピー出力の画質属性測定 - 2値単色のテキスト及びグラフィック画像	CD PDTs	07.06	08.06 PDTs 11.01				
28360	電子機器からの化学物質放散速度の測定	IS発行				07.03 DIS	07.09	JIS化作業中 原案提出: H21.4予定 (JISX6936)
28360 COR1	電子機器からの化学物質放散速度の測定						08.01	同上
29102	カラーインクジェットプリンタ及びその複合機のフォト画像用インクカートリッジ寿命測定方法	FCD	08.03	09.08	10.10			
29103	カラーインクジェットプリンタ用カートリッジ寿命測定のためのフォト標準テストページセット	FDIS	09.02	09.11	10.10	11.03		
29112	白黒レーザープリンタの解像力測定方法およびテスト・チャート	CD PDTs	08.06	09.10 PDTs 11.01				
29142-1	Cartridge Characterization Standard -- Part 1:	WD	09.06					

(注)WD,CD,FCD,FDISは投票開始予定日を示す。

規格番号	規格の名称	現状(実績)	Stage Date					
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS/JIS
SC28								
29142-2	Cartridge Characterization Standard -- Part 2:	WD	09.06					
29142-3	Cartridge Characterization Standard -- Part 3:	FCD 投票中	09.06		11.05			
29142-4	Cartridge Characterization Standard -- Part 4:	WD	09.06					
29142-5	Cartridge Characterization Standard -- Part 5:	WD	09.06					
29183	片面単票原稿でのデジタル複写生産性	FCD	09.01		10.05	10.12	10.12	
29186	オフィスカラー機器におけるカラーガマットマッピングアルゴリズムのテスト方法	PDTR		(11.04)				

(参考 3)

関連国際規格の現状と今後の計画(見通し)

2011-04-05

(注)WD,CD,FCD,FDISは投票開始予定日を示す。

規格番号	規格の名称	現状 (実績)	今後の計画(見通し)						
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS /JIS	
SC 35	9995-1	Keyboard layouts for text and office systems – Part 1: General principles governing keyboard layout	IS発行					09.10	
	9995-2	Keyboard layouts for text and office systems – Part 2: Alphanumeric section	IS発行					09.10	
	9995-3	Keyboard layouts for text and office systems -- Part 3: Complementary layouts of the alphanumeric zone of the alphanumeric section	IS発行				10.02	10.08	
	9995-4	Keyboard layouts for text and office systems – Part 4: Numeric section	IS発行					09.10	
	9995-5	Keyboard layouts for text and office systems – Part 5: Editing section	IS発行					09.10	
	9995-6	Keyboard layouts for text and office systems – Part 6: Function section	IS発行					06.09	
	9995-7	Keyboard layouts for text and office systems – Part 7: Symbols used to represent functions	IS発行					09.10	
	9995-8	Keyboard layouts for text and office systems – Part 8: Allocation of letters to the key of a numeric keypad	IS発行					09.10	
	9995-10	Keyboard layouts for text and office systems – Part 10: Conventional symbols and methods to represent graphic characters not uniquely recognizable by their glyph on a keyboard and in documentation	WD	10.02					
	TR11580 (WG7)	Model for describing user interface objects, actions, and attributes	TR発行			PDTR 05.09	DTR 06.04		07.03
11581-1	Icon symbols & functions Part 1: Icons-General	IS発行						00.04	H18.11JI S制定
TR11581- 1 (WG7)	User interface icons – Part 1: Introduction to and overview of icon standards	DTR	07.05		PDTR 08.07	DTR 09.08 2nd DTR 10.05			
11581-2	Icon symbols & functions Part 2: Object Icons	IS発行						00.04	H18.11JI S制定
11581-3	Icon symbols & functions Part 3:Pointer Icons	IS発行						00.04	H18.11JI S制定
11581-4	Icon symbols & functions Part 4: Control Icons	2nd CD 作成	95.07	2nd 03.12	—	—	—	—	H17.07 キャンセル
11581-5	Icon symbols & functions Part 5: Tool Icons	IS発行	95.07		00.12	03.12	04.05		

規格番号	規格の名称	現状 (実績)	今後の計画(見通し)					
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS /JIS
11581-6	Icon symbols & functions Part 6:Action Icons	IS発行					99.02	H18.11JIS 制定
TR11581-10 (WG7)	User interface icons – Part 10: Framework and general guidance	IS発行	07.05	08.08	10.02		10.12	
11581-40 (WG2)	User interface icons – Part 40:	FDIS	08.08	09.04	10.02	11.02		日本提案
TR11581-41 (WG2)	User interface icons – Part 41:	DTR				DTR 11.01		
13066-1 (WG6)	Interoperability with assistive technology (AT) –Part 1:	FDIS				11.02		
13066-2	Interoperability with Assistive technology (AT) –Part 2: Windows accessibility API	PDTR			PDTR 10.11			
13066-3	Interoperability with Assistive technology (AT) –Part 3: I-Accessible-2 API	PDTR			PDTR 10.11			
13251	Collective standard – Graphical symbols for office equipment	IS発行		00.10		04.01	04.05	
14754	Pen-Based Interfaces;Common gestures for Text Editing with Pen-based Systems	IS発行					99.06	H17.11JIS 制定
15411	Segmented keyboard layouts	IS発行					99.10	
15412	Keyboard layouts for portable computers	IS発行	96.04		98.05	99.07	99.09 (修正 版) 00.09	
TR15440 (WG1)	Technical Report on future keyboards & other associated input devices & related entry methods	TR発行	99.11		PDTR 03.12	DTR 04.06	05.07	
15897 (WG5)	Procedures for registration of cultural elements	FDIS			08.02	11.02		
18021	User interface for Mobile tools	IS発行	99.06	00.10	01.04	01.12	02.02	日本提案 H17.11JIS 制定
18035	Icon symbols and functions for controlling multimedia applications	IS発行	01.04		02.05	02.12	03.02	
18036	Icon symbols and functions for WWW browser	IS発行	01.04	01.11	02.05	02.12	03.10	
TR19764 (WG5)	Guidelines, methodology, and reference criteria for cultural and linguistic adaptability in information technology products	TR発行	03.05		PDTR 03.12	DTR 04.06	05.11	
TR19765 (WG6)	Survey of existing icons and symbols for elderly and disabled persons	TR発行	03.05		PDTR 05.02	DTR 06.03	07.06	
TR19766 (WG6)	Design requirements concerning icons and symbols in IT for elderly and disabled persons	TR発行	03.11		PDTR 05.02	DTR 05.09	07.06	
24738 (WG2)	Icon symbols and functions for multimedia link attributes	IS発行	04.06	05.02 05.06	05.08	06.06	06.11	
24752-1 (WG8)	Universal remote console – Part1: Framework	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	

規格番号	規格の名称	現状 (実績)	今後の計画(見通し)					
			WD	CD	FCD	FDIS	Pub.	JBMS /JIS
24752-2 (WG8)	Universal remote console – Part2: User interface socket description	IS発行	05.03	05.10	06.06	07.11	08.02	
24752-3 (WG8)	Universal remote console – Part3: Presentation template	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24752-4 (WG8)	Universal remote console – Part4: Target description	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24752-5 (WG8)	Universal remote console – Part5: Resource description	IS発行	05.03	05.10	06.04	07.11	08.02	
24755 (WG4)	Screen icons and symbols for personal mobile communication devices	IS発行	2ndWD 05.08	05.10	06.04	07.08	07.12	日本提案
24756 (WG6)	Framework for specifying a common access profile(CAP) of needs and capabilities of users, systems, and their environments	IS発行	04.10	05.09	06.10 2nd 07.10	08.09	09.03	
24757 (WG1)	Keyboard interaction model – Machine-readable keyboard description	IS発行	05.05	06.05	06.10 2nd 07.03	08.04	08.10	
TR24784 (WG1)	Keyboard layouts for alphanumeric inputs Description of ISO/IEC 9995 issues regarding users needs and necessary innovations	TR発行			PDTR 06.11	DTR 08.01	09.04	
TR24785 (WG5)	Taxonomy of cultural and linguistic adaptability user requirements	TR発行	05.07			DTR 07.10	09.02	
24786 (WG6)	Accessible user interface for accessibility settings	IS発行	06.03	07.04	07.10 2nd 08.07	09.03	09.12	日本提案
29136 (WG6)	Accessibility functions for personal computers	FCD	07.04	2ndCD 10.05	10.11			日本提案

(注)WD,CD,FCD,FDISは投票開始予定日を示す。

第108委員会

規格番号	規格の名称	現状(実績)	今後の計画(見通し)					
			NP	CD	CDV	FDIS	Pub.	JBMS/JIS
IEC60065	オーディオ・ビデオ及び同種の電子機器:安全要求(第7版)	IS発行					01.11	07.07JIS改正
	同、修正No.1(Am.1)	IS発行		02.07	04.03	05.04	05.10	H21年12月JIS追補版制定
	同、修正No.2(Am.2)	IS発行		07.03	09.09	10.03	10.07	H23年5月JIS制定予定
IEC60491	写真用電子フラッシュ(第2版)	IS発行					84.01	
IEC60950-1	パート1:情報技術機器の安全性(第1版)	IS発行			00.05	01.09	01.04	H21年4月JIS制定
	同、Ed.2	IS発行		03.07	04.04	05.07	05.12	H23年12月JIS制定予定
	同、Am1,Ed2	IS発行	07.08	07.08	08.10	09.10	10.03	H23年度JIS原案作成開始予定
	同、Am2,Ed2	CD発行		10.12	11.06(予定)	11.12(予定)	12.04(予定)	
IEC60950-21	パート21:遠隔電力供給	IS発行	00.01		01.03	02.09		JIS化予定無
IEC60950-22	パート22:屋外設置機器	IS発行	01.01	03.01	04.07	05.03	05.10	JIS化予定無
IEC60950-23	パート23:統合ロボティクスを有する大型IT機器	IS発行	01.01	03.01	04.04	05.04	05.09	JIS化予定無
IEC60990	タッチカレント測定方法(第2版)	IS発行					99.08	JIS化予定無
IEC61903	情報技術及び通信技術機器のエネルギー効率限度値	廃止	03.08	06.01	06.01	06.10	07.03	2006.09廃止
IEC62018	ITEの消費電力測定法(第1版)	IS発行		00.04	01.07	03.03	03.06	H15年度JIS原案作成⇒TRIに
IEC62075	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器の環境規格	IS発行	04.07	06.01	07.02	07.10	08.01	H22年7月JIS制定TC100へ移管
IEC62623	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器の環境測定	CD発行	09.03	10.06				
IEC/TR62102	インターフェースの分類	TR発行			00.04		01.03	
	同、Ed.2	TR発行		03.12	DTR 04.12		05.05	
IEC62151	電気通信網に接続される電気機器の安全性(第1版)	IS発行				00.03	00.05	
IEC/TS62367	通信回線網に接続される回路上のxDSL信号の安全の側面	TS発行	02.06		DTS 03.06		TS 04.01	
IEC62368-1	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器:安全要求	IS発行	02.06	06.12 2nd CD	07.11	09.04	10.01	H22年度JIS原案作成開始
IECTR62368-1	オーディオ・ビデオ、情報通信技術(ICT)機器:安全要求	IS発行					TR 10.01	
IEC/TS62441	偶然に引き起こされるロウソクの火による発火	TS発行	05.04		DTS 06.03		TS 06.12	
	同、Ed.2	TS発行					TS 11.2	

